特 116
111

研究會記錄　第七輯

圖畫と手工

岐阜縣師範學校附屬小學校

始

特 116
111

研究會記錄 第七輯

圖畫と手工

岐阜縣師範學校附屬小學校

特116
111

研究會記錄　第七輯

圖畫と手工

岐阜縣師範學校附屬小學校

大正
12.11.3
内交

圖畫と手工

序

小學校の教科目中で、兒童の日々の生活と緊密な關係をもつて居るものは何かと云へば、先づ體操（主として遊戲）や、手工や、圖畫の如きものであらう。實際兒童の自由な生活を、仔細に眺めて察するに、其の多くは遊戲で、其の內容には、圖畫や、手工に關するものが、隨分多くの部分を占めて居る、然るに、小學校として、それ等の教科が、兒童に餘りに歡迎せられないとは誠に怪訝な現象である、一體これは如何にした譯なのか、尤も人には、遊びとしては樂みなものでも課業としては、厭なものだと云ふ通有的の心理はあるが、元來好きなもの、面白味のあるものを、よし、如上の心理が働くにもせよ、課業として、他の科目に較べて喜ばれぬやうになるとは、確に其の取扱方が、適切でないのが一つの原因であると云ひ得るであらう、又、其の教材が、兒童の趣味に適せないものがあるからだ

こも云ひ得よう、要するに、尚一歩を進めて云へば、之等に對する研究が不充分な結果だと概言し得るであらう、本校はここに鑑る處あつて、昨秋、圖畫、手工の研究會を開いた、會員は六、七十名夜を日に繼ぎ、膏油を燒くの熱心を以て、日比の研鑽を吐露して、意見を戰はされた、其の結晶が卽ち此の册子である、これは、恐らく、後來、本科敎授者の、他山の石たるべきものと信ずるから普く、縣下有志の者に頒たんとして上梓したのである。冀くば、讀者、編輯上の瑕瑾を恕して、論者の精神を酌まれたい、と一言を述べて序とする。

大正十二年三月

岐阜縣師範學校附屬小學校主事
曾我邊福次郎

開會の辭

岐阜縣師範學校長　片岡英儀

今回本校におきまして圖畫手工の研究會を開きますについて女子師範學校竝に各郡市町の御斡旋により諸君の御出席を煩はしましたのは感謝にたへません又研究會を機會として成績品を若干集めて展覽會を開きたいと考へて居りました所御賛成下さいまして多數戴きましたのは有りがたう御禮申します、これから開會いたしまして諸君の御經驗御研究を拜聽いたしたいと存じます、又今回は東京高等師範學校の岡山先生が御來校下さいまして一場の講演を願ふことになつて居ります。多分明日御來校下さいして明後日に講演をして下さると存じます。

圖畫科手工科研究會々員

岐阜縣女子師範學校訓導　加賀虎馬三
同　杉山甚一
同　大谷利一
同　三田村巻二
同　塚本義夫
同　淺野シヅ
同　後藤八重野
岐阜市岐阜尋常小學校訓導　柳原憲一
同　明德尋常小學校訓導　松倉照道
同　白山尋常小學校訓導　宇野泰吉
大垣市南尋常小學校訓導　林長雄
同　東尋常小學校訓導　松永省三
同　西尋常小學校訓導　平塚庄次郎
稻葉郡黒野尋常高等小學校訓導　榎本直臣
同　島尋常高等小學校訓導　勝野貞一

羽島郡下中島尋常高等小學校訓導　花村孝三
同　下羽栗尋常高等小學校訓導　小島彌曾哉
同　笠松尋常高等小學校訓導　中島源九郎
海津郡高須尋常高等小學校訓導　淺井清一郎
同　海西尋常高等小學校訓導　横川正男
同　大江尋常高等小學校訓導　村瀬敏夫
養老郡笠郷尋常高等小學校訓導　丹羽鎌吉
同　日吉尋常高等小學校訓導　高木四郎
不破郡表佐尋常高等小學校訓導　栗田信一
同　合原尋常高等小學校訓導　宇佐美綱雄
同　宮代尋常高等小學校訓導　高橋泰一
安八郡安井尋常高等小學校訓導　扳精哉
同　多藝島尋常高等小學校訓導　犬飼英一
揖斐郡大野尋常高等小學校訓導　野村雋吉
同　小島尋常高等小學校訓導　野原惊一
稻葉郡八幡尋常高等小學校訓導　河野大助
本巣郡船木尋常高等小學校訓導　河合佐治

同　土貴野尋常高等小學校訓導　高田儀十郎
同　彌正尋常高等小學校訓導　大平茂樹
山縣郡北山尋常高等小學校訓導　山田高一
同　保戸島尋常高等小學校訓導　德山義男
同　山縣尋常高等小學校訓導　仁科不二雄
武儀郡關尋常高等小學校訓導　中村保
同　美濃尋常高等小學校訓導　平田彙一
郡上郡八幡尋常高等小學校訓導　大屋百三
同　奥明方尋常高等小學校訓導　禰手政雄
同　川合尋常高等小學校訓導　村井清吉
加茂郡蜂屋尋常高等小學校訓導　川合爲一
同　和知尋常高等小學校訓導　坂井範一
可兒郡豐岡尋常高等小學校訓導　佐賀光雄
同　廣見尋常高等小學校訓導　中川大映
土岐郡駄知尋常高等小學校訓導　加藤秩夫
惠那郡明知尋常高等小學校訓導　金子龜遊
同　大井尋常高等小學校訓導　横山彰

益田郡下呂尋常高等小學校訓導　野尻二太郎
吉城郡大村尋常高等小學校訓導　田上米三
同　古川尋常高等小學校訓導　山下泰助
岐阜縣師範學校訓導　橋本祝二
同　中島光雄
同　深井忠男
同　加藤氣作
同　水谷發松
同　梅澤英造
同　渡邊粂吉
同　坂井彌七
同　土屋宇一
同　三浦清三郎
同　西尾彥郎
同　小島陸一
同　垣内松次郎
同　松村美知太郎
同　松村[illegible]樸

圖畫科手工科研究會記錄目次

○開會の辭…………………………岐阜縣師範學校長…（一）
○講演
手工科振興意見…………東京高等師範學校教授　岡山秀吉先生…（一）
展覧會に就て…………同　同…（八）
會員の發表討議に就きて…………同　同…（二）
○農村に於ける圖畫教育管見…………吉城郡　田上米藏君…（一四）
○我が校一齊新定畫帖使用に就て…………可兒郡　佐賀光雄君…（一六）
○我が校寫生畫取扱（鉛筆畫帖使用）…………郡上郡　禰手政雄君…（一八）
○圖畫教授に於ける經驗…………郡上郡　大屋百三君…（二〇）
○圖案教育に於る研究一斑…………武儀郡　中村保君…（二四）
○毛筆畫廢止につきて…………惠那郡　金子龜遊君…（三〇）
○色彩教授に就て…………海津郡　淺井清一郎君…（三三）
○圖畫科に於ける質表現の指導に關する研究…………武儀郡　平田彙一君…（三四）

○教育としての圖畫教授……益田郡　野尻二太郎君…（四二）
○兒童畫の特色に就て……羽島郡　花村孝三君…（四五）
○圖畫科の使命……大垣市　平塚庄次郎君…（四七）
○行き詰れる圖畫教育……岐女師附　加賀虎馬三君…（五〇）
○圖畫科成績品の處理法に就て……羽島郡　小島彌曾哉君…（五一）
○圖畫科に於ける考査に就きて……本巣郡　高田儀十郎君…（五五）
○圖畫教授用塗板の簡易製作法……揖斐郡　野村雋吉君…（五八）
○透視畫に就て……加茂郡　川合為一君…（五九）
○農村の手工科に就て……郡上郡　村井清吉君…（六二）
○手工科と理科との連絡の良法如何……稲葉郡　勝野貞一君…（六四）
○理科的手工教材……岐師附　橋本祝二君…（六七）
○余の取れる圖畫科の成績を向上せしむる一方法……大垣市　林長雄君…（六八）
○圖畫趣味養生に就て……揖斐郡　野原純一君…（七〇）
○低學年圖畫敎授に就て……可兒郡　中川大映君…（七二）
○我校の圖畫鑑賞敎授……吉城郡　山下秦助君…（七三）
○新定畫帖敎材の分類的研究……本巣郡　河合佐治君…（八〇）
○圖畫敎育の系統……岐師附　中島光雄君…（八八）
○圖畫科に於て鑑賞能力養成の必要ありとせば其方法如何……不破郡　栗田信一君…（一一四）
○小學校に於ける美術鑑賞の良法如何……羽島郡　中島源九郎君…（一一五）
○誘導的圖畫敎授に就て……海津郡　横川正雄君…（一二二）
○創作に到る路……稲葉郡　榎本直臣君…（一二三）
○自由畫に就て……岐阜市　宇野泰吉君…（一二六）
○自由畫に就て……大垣市　松永省三君…（一二八）
○圖畫用具と經濟……揖斐郡　河野大助君…（一二九）
○圖畫科實地授業……岐師附　中島光雄君…（一三四）
○手工科に於ける余の意見……岐阜市　柳原憲一君…（一四一）
○手工科敎授批正に關する研究……不破郡　高橋泰一君…（一四五）
○手工科に於て創作力を助長せしむべき具體的方案如何……土岐郡　加藤秩夫君…（一四八）
○手工科實地授業……岐師附　橋本祝二君…（一五二）
○兒童中心の手工科……岐阜市　松倉照道君…（一五七）
○手工敎授の系統……岐師附　橋本祝二君…（一六二）

○圖畫科竝に手工科に於て各種の敎材を如何なる系統の下に各學年に配當するを最も適當とするか………不破郡　宇佐見綱雄君‥(二〇九)
○自由敎育と自由畫との限界に就て…………安八郡　坂　精　哉　君‥(二一二)
○一般表現法の練習を主とするか表現要求による表現練習を主とするか…………本巣郡　大平茂樹君‥(二一三)
○自由畫敎育の具體的方案如何…………安八郡　犬飼英一君‥(二一六)
○思想畫指導の良法如何…………養老郡　高木四郎君‥(二二一)

岐阜縣師範學校
附屬小學校主催

圖畫科手工科研究會記錄

講演

手工科振興意見

東京高等師範學校敎授　岡山秀吉先生

今日は多數御會合下さつて誠に有難う。これから暫時こゝに掲げた題目手工科振興意見に就いて述べませう。是れは新らしく拵へた事柄ではなくて、私が平素考へて居る事を、遠慮なく申述べるに過ぎないのである。若し之れに間違つてゐる樣な事があつたら、御注意が願ひたい。從つて格別奇拔な點もなく、興味も少ないが、御辛抱下さつて手工科の爲めに、御聽きが願ひたいのであります。

國民敎育の改善と手工科

今日の國民敎育の改善に、手工科が如何なる關係が

あるかを述べやうと思ふが、それには先づ順序として、

第一に現今の教育思潮について考へて見たいのであります。教育の仕事は固定的のものではなく、時勢の變遷につれて變つて行くものである。社會の進歩が、甚だしい時には其の改造の意見も多く、進歩の少ない時にはこれが少ないものである。是れは教育史によつて明らかである。今や我が國は甚だしき世界大變動の後をうけて、大革新を要する時である。これが爲めに教育に於ても種々の新主義が、それからそれへと起つて來て居るが、之は誠に喜ぶべきことである。この新教育の主張には色々のものがある。即ち文藝、自由、創造、作業、勤勞、職業等種々雜多である。而してこれ等の新主張には各々長短があるから捨つべきを捨て採るべきを擇んで採り入れることが大切である。それには先づ是等の精神をよく知ることが肝要で、それを爲すがまた教育者の任務である。扨て前記諸種の新主張は、細部に渡ると勿論彼是違ふ點はあるが、これを總括するときは、大きく二つに分けることが出來ると思ふ。即ち一つは理想主義、他は現實主義である。

理想主義は全くの兒童中心であつて、卒業後の生活の準備として、教へると言ふ樣な考へでなく、兒童生活そのものを基調としての教育、即ち教育即生活の主張である。此は兒童心理學や哲學に根柢を置き、かの文藝、自由、創造等の主張が主としてこれに屬するのである。而してこの主張者は、兒童將來の爲めにと考へた從來の教育を兒童本來の性質に合はぬと言つて、大に攻擊するのである。

現實主義は科學、實業、職業等を重んずること厚く、兒童の個性を尊重し、自由創造の精神は、これを重んずれども、同時にまた職業の準備を支へ、生活の向上を計ることにつとめるのであつて、かの作業、勤勞、職業等の主張は主としてこれに屬するのである。

以上の二つは、その極端なるものに於ては、其の間に甚だしい差があるが、實際の諸主張には極端のものは甚だ少く、彼此相交渉し共通して居るものが多い。かの兒童の個性を尊重すること、劃一打破に力むること、創作的活動的なること等、恰も兩派共通である。而して私はこの兩派の一致點は、今日我國教育の輿論であるから、これに從つて進むは即ち時勢に適した教育を行ふ所以であると思ふのであります。

第二に然らば我教育の現狀が前記の新思潮によく應つて居るか否やについて言はん。全國を見渡した國民教育の狀況は何うであるか、前記改造の主張によく叶つて居るか、若し叶つてゐなければ、時勢の要求に離れた教育と言はなければならぬ。然るに悲しいことには、前記の如き主張は理論としては提唱され、自由教育、文藝教育、創造教育、職業教育等についても、論議は可成盛んな樣であるけれども、その眞義を捉へてこれを實施し、或は實施せんとするものは極めて僅少で、その大部分は寧ろ從來よりも劣つた樣な不徹底な教育を行つて居るやうに思ふ。是れは教育者や、學校營者の改善に冷淡なためではあるまいか。以前實驗教育や低能兒教育が高唱せられた時、一時は隨分議論もし研究もしたが、その後は何うであるかと言ふに、此等は非常に必要なものであるのに拘はらず既に流行後れのものとして葬つて居るやうであるが、目下の狀態では今日の改造的新主張も或は、之等と同じやうな運命に陷りはせぬかと思はれるのである。こんな具合に說から說へと新說を追ふのみにて、何等實施改善の績なく、言ふことゝ實際とが常に數千百步の差があるのが、我が國民教育の現狀である。

振りかへつて社會實生活の狀態を見るに、我國の進步は非常なもので、十數年以前と今日とは實に其の差異が甚だしい。都市は勿論田舍に至るまで、ランプは電燈となり、井水は水道となり、百般の仕事には機械が用ひられてゐる有樣である。然るに學校でやつてゐる仕事の實際は、以前行つてゐたことゝは餘り大した變りがない。つまり國民教育は、餘程社會の進步に後れて居ると言つてよいのである。

第三に然らば斯る我が教育の現狀を改善するには如何にせねばならぬかについて申述べよう。今日の我教育をして新思潮に叶はしむるには、手工科を盛んにすることが必要だと思ふ。勿論手工のみではなくて、外にも色々必要なことはあるが、手工科の實施發展は、其の中の大なるものである。かの方法の活動的なることと兒童中心的なるべきこと等は、理想現實兩派の一致する所であるが、これと手工が如何なる關係を保つかと言ふに、手工は彼等の本能によつて活動し、材料を與へさへすれば捨てゝおいても行る位で、これが目下の新主張に適合するは明かである。すでに兒童中心主

義については、彼のコロンビヤ大學のドクター・デユーイ氏が、二十餘年前シカゴ大學教育部主任たりし時これを唱道しその實現策として手工を盛んに課し、大に自由創作を奬勵した事は周知の事實である。又勤勞乃至作業主義については、十數年前彼のミユンヘンのケルシエンシユタイナー氏が大に力說し、その理想實現のため、同市小學校の第七八學年に、毎週六時間の手工を課するやうにしたことも、また周知の事實である。而してこの兩氏の主張及び施設は、實に現今盛んに唱道せられる、かの改造主張の魁をいたして居るものと言つてよいのであります。

但し我が今日の普通教育の狀態は、前述の如くであつて、この際に手工科を盛に行ふことは、隨分困難であらう。然し世界教育の新傾向を達觀し、眞實にその內容の改善を行はんとするならば、その困難を凌ぎ是非とも實行を期すべきであらうと思ひます。幸にして國民教育が手工科によつて改善せられたならば、それが又實業教育、社會教育、補習教育の上に、好影響を及ぼすことが甚大であると思ふ。換言せば小學校の手工科を盛んにすることは、同時にまた、補習教育、實業教育及び社會教育を改善するのである。今日補習學校の數は六千何百とかいふことで、數の上に於ては、可成發達して居るやうである。尙これを義務教育としやうと言ふ有力な意見さへ毎々聞くのは誠に結構である。然し、今日の補習學校の多くは、普通學科の補習位を爲し、實業的な、眞實補習學校としての任務を完ふしてゐるものは、甚だ少い。これは義務教育の根柢の不完全に依ることが多い。補習教育を盛にせんとするならば、義務教育の內容を、今少し實業的に完全にすることが必要である。

實業教育も一見盛のやうであるが、其の實は振つて居ない。生徒の多くは、中學校入學の落武者で、初めから目的を定めて、實業學校に入つて來るものは少ないのである。現今は、中學校の數が少ないから、實業學校も、生徒を充たすには事を缺かないけれど、こんなことでは、實業教育の目的を達することはむつかしい。國民教育の內容がもつと實業的に完全になつたならば、自ら進んで實業學校に來るものが多くなる筈である。

社會教育では、民衆の智德を進めるばかりでなく、

職業を指導し、副業を奬勵する如きこともやらねばならぬ。圖書館で本を讀む便を與へると共に、產業奬勵の機關を設くる如きも必要であるが、今日の社會教育は、實業を奬勵し、その改良を計るが如き方面が甚だ不充分である。社會教育の目的でやるかの活動寫眞等に於ても、外國から來るフイルムには、隨分日進の工業を紹介し、工業趣味養成上有益のものもあるが、これ等になると、之れを適當に說明する者もなく、又聞くものも喜ばないといふことである。又かの青年團員の如きも、指導者に其の人を得ざるが爲め、未熟な彼等は自分の生活の安定を得る方法は敎へられずして、社會奉仕をのみ强要されてゐる樣なことが少くない。こんなことも、國民教育の內容がもつと工業的になつて、國民一般の工業思想が高まらねば改まらないであらう。手工科の教育改善に關する處は以上の如くであると思ひます。

小學校手工科の現狀

今日我國小學校手工科の現狀は如何といふに、遺憾ながら甚だ不振であるといはねばならぬ、近年都會地或は縣によりては、大に、發展の曙光を現はして居るけれども、一般には普及も不充分に、又其の內容も貧弱である。現に本縣下でも、未だ半分位しか實施されて居ないといふことである。但しこの半分といふのは、平準線以下であるから、御注意を願ひたいのであります。

前述せし如き必要な手工科が、なぜかくの如く不振であるかと云ふに、それは第一に未だ其の必要な理由が分らないからであらう。外國では盛であるとか又敎育改造上必要だとか聞いても、眞にこれを理解してこれに共鳴するだけの素養がなく、從つて實行の努力を起さないからである。手工そのものがつまらないからではない。然らば何故に理解されないかと云ふに、其の原因は種々あつて一朝一夕には述べられないけれど、今その一二を數へんに、その一つは學校は學問をする所、學問は、机の上でやるものとの因襲がそれである。從つて智識のみを重んじて作業活動を尊重しない。父兄のみならず、校長教員及び當局者にもこの種の人が甚だ少くないやうである。これは封建時代の教育が殘した弊風であらう。その二は我が邦人に工業的智識が甚だ少ないためである。これは古來瑞穗國だと威

張つて居たに因することが多いであらう。近年著しく工業が盛になり、生活狀態も大に變つて來たけれども、一般人の工業智識は、農商業のそれに比して、大に淺薄であるのである。尚この他に本科の普及し難い所以は他の學科に比し、手工科を實施するには、設備が稍々困難であつて、簡單な設備をするにも、數百圓を要し、理想に近く設備するには、數千圓を要するから、經濟の逼迫して居る今日では、これが又普及を妨げるのである。又手工は、他の學科に比し、準備、片付、整頓等に、教師は餘計な骨を折らなければならない。その專科教師に至つては、朝から晩まで働いて骨を折らなければならぬ。外國の教育家は、此處に大なる價値を見出し進んでこれを行るのであるが、日本人には、勤勞の習慣が出來てゐずして、兎角勤勞を厭ふのである。これが爲め我が學校は教育實驗實習に關することは概ね不徹底であつて、かの「ラーン、バイ、ヅーイング卽ち爲すことに依つて學ばせる」方面は一向進まないのである。このことがまた手工科不振の一原因であると思ふ。

卽ち我が手工科は、教育改善上非常に必要なるに拘らず、右の如き原因に、發達を阻止せられて居るのであるから、何とか此の際振興の策を講じなくては、ならぬと思ひます。

手工科の振興策

この振興策に就ては、細案がないでもないけれども、今はこれを詳論する時間を持たないから、たゞ振興上特に必要と思惟する二三條項を略說して御參考に供しやうと思ふ。

第一手工科は法令上小學校の必須科と爲すことが大切である。このことは是れまで私どものやつて居る手工研究會といふ團體から、再三意見も發表しその筋へ建議もしたが、未だ其の域に到らないのは殘念である。これは本科の振興上最も重大な問題である。

第二適當な教員を養成することが必要である。近時手工は漸次盛んな形勢になつて來た。殊に東京市や神戶市には教室に電氣モーターを裝置して機械を運轉する樣なものもある次第であつて、これらの學校から屢々優良な教師をと望まれるけれども、適任者が得難い、否往々これを得ざるが爲め、折角の計畫を中止するの止むなき場合などもあつて誠に殘念です、これを教ふには、師範學校の手工科を改善して、もつと實力をつけなければならぬ。又師範學校に手工教員養成の講習科を置く必要もあらう。又文部省でもどし／＼中等及び初等學校の手工專科教員を養成する機關を設けねばなるまい。

第三視學指導の機關が必要である。手工科は創設後日尚淺く、その發達他教科に及ばずして、監督指導若くは奬勵保護を要することが、他教科に比して特に多い。然るに從來に於ては、督學の任に有るものにして、この學科の經驗に富むもの甚だ少なきがため、本科は他教科に比して監督指導を受ける場合が甚だ少い。從つて人間の弱點として、この指導監督若くは周圍の刺激の少いのに乘じ、關係者が多少因循姑息に陷り或は獨斷的な行動に流れて居るやうな嫌がないではないから、視學なり指導員なり或は巡回教師なりを置いて、監督といふよりは寧ろ指導奬勵を十分に施したいと思ふ。

第四この科の教授に當るものが自らその必要を體得し、確固たる信念を以て專心事に當ることである。これは本科の振興策として最も必要の條件である。而もこれは何等他の制裁なく直に實行し得られて、その效果は最も確實である。教授者にこの信念があつて、環境の理解や管理者の同意も得られ、施設も成り、教授も徹底し、又教授者も愉快に職が奉じ得られることゝ思ふ。本協議會に御出席の方々は恐らく本縣に於ける斯道の先覺者でありませうが、どうかこの固い信念を以て、斯道のために御努力あらんことを御願ひ申します。

以上述べた所は最初申した通り、これ又私の平素抱ける信念であります。幸に皆さんの御同意を得て、相共に斯科の普及改善に盡したいのであります。尚申上げたいことは數々あるけれども、時間にもなりましたから、これで御免を蒙ります。

展覽會に就て

東京高等師範學校敎授　岡山秀吉先生

今回は圖畫手工の研究會に御邪魔をいたしました。手工全體に渉つての話は明日致しますが、明日午後だけでは話しきれないから、この際取敢へず到着後の所感を斷片的に二三御話いたしませう。展覽會の出品は圖畫手工共に見るべきものが多い樣であります。手工は本縣に於ては實行の範圍が狹い樣なれど、成績は中々よい樣に思ふ。圖畫は誠に賑かだと思ひます。手工品では、兩附屬小學と本校の出品が最たるものであらう。手工の價値は實に多方面で、圖畫に讓らないと思ひます。而して此れが振興を圖るには、展覽會が必要であります。外國でも尺覽會は唯一の振興策と認めて奬勵してゐる。米國には常設の手工倶樂部といふものがあつて、時々展覽會を開く事になつて居ります。

近來日本でも展覽會は盛んに行はれ、最近に於ても東京、名古屋、大阪、廣島、宮城、本縣といふやうに所々で開かれ、誠によい傾向だと思ひます。今回の展覽會につき感想を述べるのは、今後かゝる場合の御參考にもと思ふのでありますから、遠慮なく露骨に述べませう。

感想の第一は、師範本校及び兩附屬小學の作品には力を入れた物が多い樣ですが、其の他には甚だ少いやうである。即ち材料、時間、努力を充分に用ひた作品が少いのであります。之は常の作品がよいと云ふ考へから平素の成績の少し良い位のものを出されたからであらう。しかし平素の物は或る目的の調査にはよいが、敎材研究或は進歩促進の展覽會の意義から見ると、價値が少いのであります。但しこれは展覽會の催しが急であつて、時間が不足で力作が出來なかつた爲でもありませう。

第二に手工の作品のみ陳べて其の過程を示すべき圖案又は製圖が一向にないのが殘念であります。手工では先づ其の考案を定むべきである。從つて家を造るにも圖がなくてはならず。舟を作るにも又何の細工をなすにも然りであります。だから手工の展覽會には、製品と圖案とを對照して見る樣な物もあるべきである。故に他日こんな催がある場合には、斯く行つて戴きたい。又常の授業もさう云ふ考で行ひたいのであります。彼の考案敎授の主張にもかくしてこそ、よく副ふのであります。

第三には、製作物を尙も確實に又堅牢にしたい。日本の製品が粗製濫造である事は世界に聞えて居ることでありますから、手工では其弊を矯めて行きたいと思ひます。粗製濫造になるのは、一つには兒童の手にあまる樣な物を作らせるによるのであらう。展覽會には彼樣な品は、運搬にも陳列にも誠に困るのであります。又すぐに壞れる樣なものは、出來たとしても價値の無いのであるから、學校の作品はよし多少武骨でも充分堅牢ならしめたいものであります。

第四に今回の展覽會にはだいぶん地方的敎材が見えて居る。これは誠によい傾向であります。私は常に手工を研究して居るが、然し隨分多方面の事で、とても地方的のことまでやる事が出來なくて、殘念に思つて居るのであるから、それを其の地方地方でやつて戴くのは、誠に喜ばしい事であります。今日の所謂劃一敎育の弊を打破するにも、これを地方化する事は必要である。そして四學年頃迄は一般的取扱ひとなし、五六學年に於ては、地方的敎材を加へて地方的色彩を帶ぶ樣にしたいと思ふ。然し五六學年に於ては藁細工ばかりとか、籠細工ばかりとかいふ樣な、極端な事はよくないと思ふ。手工には手工の目的があるから、一方に走らないで、或程度迄これを加へて所謂地方的色彩を帶ばしめるのである。尤も特別の場合として或る時期を限り、研究的に藁細工、籠細工等地方的敎材を過量にやる事は差支がない。

第五に色彩のことについて述べよう。色の研究は、製作上大切だと思ふ。色紙はよいものが欲しいが今の所、和製にはよいものがない。色の用ひ方には、反對の配合と類似の配合とがある。此の展覽會の陳列品には、反對の配合が多い。反對色を餘り多く使ふと、嫌な感が起る、品物の少數の場合にはそんな感も起らぬが澤山に竝べると、強烈に過ぎてどうも嫌な感がするのであります。類似色の配合に係るものは、澤山あつ

てもそんな感じはしない。これは展覽會の出品などには注意すべきである。圖畫でも同樣である。此度の出品に於ても、師範附屬小學校の布片細工には、この强烈な惡感が比較的少ない樣に思つたが、これは類似色配合のものが多いからであります。されば色を用ふる場合には大にその配合に氣を付けたいものであります。

最後に圖畫について少し御話しいたしませうが、圖畫は私の専門ではなく、或は誤つてゐるかも知れませんから、その御つもりでお聞き下さい。圖畫は本縣に於ては手工より餘程進んで居ると思ふ。これは加設後の時日の關係から見ても當然であらう。圖畫敎授は純藝術主義であるべきか、實用主義であるべきかと云ふに、この兩方面を含ませたい。卽ち一方に於ては藝術的であり、一方に於ては實用的でなければならぬ。藝術一ぺんでは、圖畫は所謂工藝の母などいふ權威はないと思ふ。此の展覽會で見た所では多少藝術的に偏し、實用的に遠ざかつて居はせぬかと思ふ。否注意が藝術的方向にのみ向つて居はせぬかと思はれます。山本氏等の自由畫も勿論よろしい。然しそれのみでは小學校の圖畫敎育には足らぬのである。手工と圖畫は相互に聯絡したい。圖畫の中の圖案と製圖とは、手工に連絡してこそ適當に敎授せられ、又手工も圖案や製圖と連絡してこそよい製品が出來るのである。今度の展覽會に小數の圖案はあつたが、製圖の皆無であつた事は殘念である。又手工に圖畫が交つてよい樣に、圖畫に手工が交じつてもよい、一昨年東京市は、海外へ圖畫手工の作品を送り又海外からもそれを貰つて、本年四月に東京で展覽會を開いたが、外國の成績品には、圖畫と手工と混合し、どちらの部に陳列してよいのか、判別に苦しむ樣なものも少くなかつた。殊にマンチエスターや、リバプールからの到來品には、手工的の圖案が非常に多かつたやうな次第であります。

新定畫帖について一言せん。現今文部省の畫帖を有害物だと論ずる人がある。その理由の主眼は單に手本にのみよれば兒童の藝術的本能が撲滅される。又外國では現に畫帖を使用して居ないといふにある樣ですが、外國で用ひないからとて、我邦にいらぬとは云へない。又本能撲滅云々も要するに敎師による問題だと思ふ。私は日本の現狀では、全然これを廢止する事は出來ないと思ふ。尤も其の使用法に注意すべきは勿論であります。米國では參考書を持たせてゐるが所謂畫帖は持たして居ない。獨逸でもそうである、頃日澤柳博士の説として、或る雑誌に博士が圖畫敎科書廢止を唱へられるやうに載せてあつたが、恐らくこれは間違ひで、博士はそんな事は云はれまいと思ひます。

會員の發表討議に就きて

東京高等師範學校敎授　岡山秀吉先生

今回出まして、會員諸君の發表を色々承つて、大いに利益を得ました。そして感じた事をこの御配布の印刷物に記入して置きましたが、今一々これを申上げる時間もありませんから、總括的、斷篇的に二三事項について申上げませう。

1　模倣と創作について

今回の御協議では、創作とか自由とかいふことが、重要な問題となつて居る樣であります。今の大勢では、創作或は自由とか云ふことは非常に重要であるので私たちも平素大に此のことを力説して居ります。しかし吾、人ともに在來の修養が甚だ貧弱な爲めに、これを實行するには隨分な犧牲を拂はなければなりません。從つて其處に多少の弊害乃至損失が伴つて來ます。故に此時代に於ては自由、創作共に精神としては大に尊ぶべきであり、從つてその方法も大に研究すべきであるが、みだりに之に走るはよくないと思ひます。かの自由畫敎育も自由製作も、敎師の善良なる暗示、指導が必要だ。それをなすには敎師の實力が大切であります。卽ち敎師に相當な兒童心理の研究や、優秀な技術がなければ、到底好成績を擧げる事は出來ません。先刻長野縣へ行つて自由畫のよいものを見たといふ御話があつたが、私も東京の自由畫展覽會でよいものを見ました。しかしこれ等は作者に或る素養があつて出來たので、單に自由畫取扱であつたから出來たとは思

へない。内に蓄積してあるものは、出すことが出來るが、無いものは全然出すことが出來ない。慈善がしたくとも、懐にないものは出すことが出來ないと同じである。故に自由創作は大いに鼓吹すべきであるけれども、或る一派の人の唱へるやうに、痛く數へることを嫌ひ、一概に模倣を排するは當を得ないと思ひます。但し從來往々見たるやうな器械的の模倣をよいといふのではありません。

2　中島橋本兩氏の實地授業に就いて

今日の實地授業は、兩君のが何れも有意義な授業であつたと思ひます。中島君の自由畫は立派に出來て、平素の御手練に敬服した。橋本君の授業は、時間の都合上多く見られなかつたが、成績品によつて平素の授業のよいことが、大體知れた。これ等については、諸君から既に細かい點まで批評もあつたし、又時間もないから、私は批評は止めます。而してただ一つ、一般的に作業の場合の兒童の姿勢について述べたいと思ふ。技能科の授業に於て、兒童の姿勢は、成績を擧げる上にも又衛生上にも頗る關係が多いから、學習中大いに注意せねばならぬ。兒童が卒業後實際社會に入つて操業するに當りては、これに注意して呉れるものはなく、專ら學校で馴れた習慣を持續するものであるから、授業中常に姿勢に注意し、よい習慣を養ひ置くことが大切だと思ふ。私は岡田式靜座法をやつたので、漸く正しい姿勢を知ることが出來た。これは上體を起し顎を引き下腹に力を入れ兩手を垂れるのである。私は常に生徒の仕事の姿勢に注意すると共に、授業の中間又は終りには、此の形を取らしめて、姿勢を矯正して居ります。又仕事の場合普通目と物との間隔を八寸より近くならない樣にして居ります。西洋の研究者も標準をその邊に置いて居るのであります。姿勢の良否は、一生涯の健康乃至生命に、大なる關係を持つて居ることを忘れてはならぬと思ひます。

研究發表

こゝにお集りの會員諸君は各自の研究を十分間づゝ御發表なさることになつて居る樣ですから、私も十分間發表の仲間に入れて頂きたいと思ひ、こゝにその材料を持參しました。さて私は最近板金穿孔彫刻といふ、小冊子を出しました。これは既に外國でやつて居るものゝ直譯なのでございます。これを昨年の文部省

夏期講習に始めて實行し、又今年の同夏期講習にもやつたので、大ぶん地方へ廣がつた樣であります。現に今御開きの展覽會にも、この細工の隨分立派なものが、澤山出て居る樣な譯であります。但しこれは唯錐一本でやり從つて變化が少いから、今一層これをよくするために、其の後これに色々の變化をつけることを、試みたのでございます。即今この研究に於いて作つたものを御目にかけつゝ話そうと思ひます。

1　これは瀧（實物を示す）であります。巖石が出て居る所は、板金を木に打付けない前に、裏面から打出し、然る後木に貼りつけて、普通の穿孔工を施したのですが、一の變化があつて面白いと思ひます。

2　之は宮島の景でありますが、從來の穿孔錐のみでは、この波のやはらかいところを表すに都合が惡い。そこで木捻子廻しの先を使つて見ましたが、案外成績がよかつたので、一つの變化を悟つたのであります。

3　この曲線の輪を現したのは、普通打拔を使つて見たのです。これを爲すには何うも板の上では木理があつてわるいので、鉛板の上でやつたのです。大小種々の打拔きを色々に使つて模樣を作つて見ると、隨分面白いものが出來ます。

4　これは色々の圖案の單位を現したものです。これらは有りあはせの工具でなく、鋼棒を鑢でおろして、四角形、三角形、圓形若くは櫻花の形を作り、これに燒入を施したものを持つて、前の樣に鉛臺で打出すのです。即これ等の單位を配合すれば、穿孔細工は、一層面白くなるのであります。

以上は未だ考案中のもので、未成品ですけれど、御參考のために、持つて來ましたから、御覽下さい。

協議事項

（主事）主催者側から申しますが議事の整理上議長を選定したいと思ひますが、何か便宜の方法で議長を選びたうございます。

（大谷利一君）從來の例もあることですから本校の主事さんに御願ひしたら如何ですか。

（一同贊成々々）

（主事）只今不肖が議長の重席に推薦されまして不馴れではありますが諸君の御援助によりましてこの重席

を全うしたいと考へますからよろしく御願申します。

皆さんの御提出になつたものによつて日程を造りましたが御異存はありませんか。

（一同）異議なし／＼

それでは大體之によつて議事を進めることにいたします。では田上君に御發表を願ひます。

發表題　農村に於ける圖畫教授管見

吉城郡　田上米藏君

昨年の春新任しましてより常に自分の歎かはしく思つてゐることは一般とは申しませぬが、少くも我が飛驒地方といふと、まだ語弊があるかも知れませんが、私の近くの農村の學校にては、餘りにこの圖畫科を輕視せる傾向ある如く感ぜられるのであります。之は私の皮相なる觀察に過ぎないかも知れません。又見聞の少なきためでもありませう。最早この都會地に近き所にては、たとへ農村たりともかゝる弊害はないだらうと思ひます。

繙つて自分の幼時の記憶を喚起して見ますと、「もう少し圖畫の時間を欲しい。もう少し圖畫について習ひたい。」とよく思つたものです。時間割にはチャンと一週二時間高等科になつたら一時間とあるものゝ、それが多くは他へ廻されるといふことが多かつたのであります。之は自分の先生が圖畫に趣味を持つて居られなかつた爲か知りません。けれども今日自分が丁度兒童より前述の如き要求を受けつゝあるにあらずや、否自分より自己の周圍の人々の多くも亦之と同樣ならずやと疑はざるを得ないのであります。兒童の圖畫に對する眞面目なる態度、先天的に美に對して有する趣味もかくして完全に之が助成することを能はず、天晴の天才も培養よろしきを得ざるため空しく其の使命を遂せざる者なきに限らざる也と思惟する時は獨り冷汗の流るゝを覺ゆるのであります。私は決して兒童全部とは申しません。然れども農村は自然美の天地であります。春の花秋の紅葉、さては小鳥の聲水の流れ、生れ乍らにして之を目にし耳にする彼等の中には必ずや、畫圖科に對する眞面目なる趣味、美に對する純なる情操を有するものは彼の黑烟濛々たる工業地などのそれ等より決して多くても少くはなからうと思ひます。

して見れば農村なるによつて、畫圖科を輕視し又は工業地なるによつて之れを重視すべきなり等いふは餘り兒童を現實化したるものと思ひます。彼等は最早や幻滅の悲哀を感じつゝあるのでありませんでせうか。

凡そ一國の工藝美術の發達は美術教育の發達に俟つ所多きは云ふ迄もない。美術教育の發達は其の國民各自の美に對する基礎の養成たる小學校の圖畫教育の發達にあると思ひます。彼一八五一年倫敦に開かれた第一回萬國博覽會の結果英國は美術批評家とし社會改造家として有名なラスキン氏等の主張によつて圖畫科を必修科目となし、國家は年々此の教育の爲に莫大なる下附金を給し、此の教育の發達を計りたる爲僅か十餘年の間に佛國の輸出工藝品を凌駕するに至りたるといふは今更喋々する迄もありません。故に國家といふ上から見ても重大なる問題でありませんでせうか。私はどうかして此の農村圖畫教育の振興策を計りたい。農村の中にても殊に複式又は單級の學校の發達を計りたい。それには嘗つて高等師範の研究會に於て何誰かのお說にありました。複式用の教科書を得るとか、教師其の人の實力の養成乃至は圖畫教授は今日の時勢に於て最も大切なるものなる事を理解せしめるにある等云ふは何れも適切なるものでせうが、殊に最後の時勢を理解せしめるといふことが、目下の處最も必要でありませんでせうか。私は地方に行きますと未だに父兄或は教師に從來の因襲にとらはれてゐる人がある爲に遲々として此の惡域より脫することが出來ないのだらうと思ひます。それで私は此の際我々の樣な農村に奉職するものは、此の因襲打破てふことに最も意を注ぎたいと思ひます。

然し私の如き嘴の黃色い者の申す事です。此の外皆樣に於て農村圖畫授教の振興策其の他に就いて御研究がありましたならば御發表、御指導を仰ぎたいと存じます。

發表題

我が校一齊新定畫帖使用に就いて

可兒郡　佐　賀　光　雄　君

一、我が校在來の使用畫帖

予が師範學校からはき出されて赴任した當時の我校に於て使用されてゐた畫帖はかの今日の教育思潮から考へては泰西の教育を形式的に模倣した時代思想の遺物に過ぎないとまで痛論され、其の編纂上に確固たる圖畫教育上の方針さへないと言はれ、當時其の局に當つた人達の考へに圖畫科の教育的價値だの其の目的だの將來の圖畫教育は斯くあるべきだの言はんや教材の選擇排列と兒童心理との關係と言ふやうなことは全く聞かれもしなかつた。只當時の一遺骸に過ぎない鉛筆畫帖であつた。數年前は知らず、今日では尙鉛筆畫帖、毛筆畫帖を使用して學校と聞けば時代後れなり、保守派なりと思ひ、かゝる學校の皆無を信じてゐた予にとつては意外の感なくんばありませんでした。

二、新定畫帖使用までの道程

少なくとも國定圖畫教科書として最新に發行された時代思潮に近い圖畫教育に對する一定の主義方針の確定した立派に近い教科書と目されてゐる新定畫帖あると教へなされ信じて來た予にとつては、勢使用畫帖の改新を計らなくてはなりませんでした、然し只だこれは理論上より或はその經驗者より定義されたに過ぎない。實際の可否は只だ机上にてさけぶべきではありません。予は幸ひに圖畫研究主任を命せられた立場からしてここに一年間捧げて實地研究を致しました。

かくて尋常三年より五年に六年に高等科に出來得るだけ多く圖科書を擔任して能ふかぎり實地方面に當りました。然して鉛筆畫帖の教材は實に無味乾燥で當時の兒童心理から考へても滿足を得ることが出來ません、又應用創作にも迂遠でありました。

然し或人が譬へて言つてゐるやうに鉛筆畫帖、毛筆畫帖は被教育者の上に危險のない古刀の雅味を以て居ます、翻つて新定畫帖に思ひを致せば銳利なる日本刀なりと、使用上に周到なる注意と綿密なる用法とを知らざるべからずと、此に於てか消極的なる鉛筆畫帖を排して新定畫帖の使用なさんと欲すれば被育教者に對する危險の爲めに萬全を以て救はなくてはなりませんかゝる故に予は新定畫帖に對して猛然研究の歩を進めたのである。

1　編纂の實際に
2　教材に
3　配列に
4　教法に
5　注意事項に

かくして一年は過ぎて新卒第二年を迎へました、この年にはと校長に圖つて幸に同意と了解とを得て先づ尋常科第三學年に新定畫帖使用を許可を得ました、然してこれが教授として尋三の二學級の圖畫科を擔任致し尙四年に高等科に新定畫帖に入らしめんとの道程のもとに鉛筆畫帖の使用下の教授をしました。

三、新定畫帖一齊使用に

尋三二學級の使用成績より他學級の圖畫科に對する總合的觀察よりして緩かに改革を計るより一期に斷行に如くはなしと、急激にして危險なりとの考へを除く爲に出來得るだけ豫備智識を注ぎました。

大正十一年度に於し初めて全校一齊に新定畫帖使用に校長の同意を得ました、かくてこの日本刀使用者の顏ぶれをながめましたにはゞ可と認めることが出來ました、故に予は圖畫主任の立場から全學級擔任に委任するに吝さかならんやうにと學級擔任の都台上から予は高二の圖畫擔任のみとして新定畫帖の研究を全部學級擔任に委しました、そして直接に間接に本畫帖の研究者として全擔任者の質疑に應ずる覺悟を以て研究を續けつゝあります。

四、校下の事狀と教授細目

教授細目編纂上より或は新定畫帖使用上より勢校下の圖畫科に對する關係に及ばなくてはなりません。我豐岡町は多治見町が豐岡町と言はれる位に中央線多治見驛は卽ち豐岡の地にあつて土岐川一つをへだてゝ多治見町に相對して多治見燒の現產地をなしてゐます。隨つて校下の大多數は陶磁業に燒付業に關係し西洋ものより南洋物和物に到る程あらゆる磁器の仕上げは校下の人々によつて認められ兒童の觀境はこれ等によつ

て始終支配され接する機會を以てゐます。

尙北部には關東關西に名をしられてゐる有名な高田德利の原產地、高田小名田をひかへ小名田は我が校下に屬し德利は今や改良を叫ばれてゐます。又全國にその覇をならして居る日本タイル會社あり會社は精巧なる化粧煉瓦を製造してゐます。斯ふ言ふ校をひかへた我校にては新定書帖の使用と共にこの校下の實際圖案を緯として現代思潮に添ふべく努力を欲してゐます。

これ等の關係より見ましても我校の圖畫敎育は多治見燒の上に延いては我陶磁界に大は國民全體の美感の養成上一般國民の美を辨知する能力を向上せしむる上一歩進めては創作力を增進せしむるものとして陶磁業の發達に最も密接なる關係を有するものであります。

五、我が校と考案畫

考案畫の主とする處は形狀、色彩及び排列等の美感を養ふに在るを以て强ひて專門的智識を注入するの要なし一般國民の審美思想の增進は趣味の向上を助け美術工業の發達を促す基となるものなりと。

然るに我等は美術工業の源泉地の當事者を養ふ一種の職業敎育の立場にあつて極力徹底を期せんとするものであります。

發表題

我校の寫生畫取扱（鉛筆畫帖使用）

郡上郡　福手政雄君

一、圖畫科に於ける寫生畫

（イ）寫生畫は圖畫科に於ける主體である

即ち兒童が實物を見て此れを平面に表さんとする努力の結晶であります。かくてこそ圖畫科の目的が達せられるのであります。

（ロ）寫生畫と興味

總べて、學科は興味が必要であります。「好きこそ物の上手なれ」の樣です。然るに寫生畫は自然物を縮圖擴大したる製作物であるから、兒童の自己擴大となり、興味あり上達するのであります。

自己擴大→心の滿足→興味→上達

（ハ）寫生畫と觀察力の養成

寫生畫は立體を平面に表はす、如何にせば可なるかと、實物を綿密に觀察する。然し正確に識別し得る。

（ニ）寫生畫と美感の養成

技能科目は總べて自分に實際やつて見ねことは上手下手がわからぬ。我々が師範學校に居る時、手工の時間に工具箱を作つた後に他の箱を見ると其の惡るい所がよく分るものである。

そこで寫生畫は實際其物を書き表はし其の作品は自己の生命ある故に他人のものと比較し、批正を加へ鑑識眼を開發し得る。即ち美感の養成が出來る。

（ヘ）寫生と創作力

以上の如くにして兒童は更に研究して創作力も出來る。

二、寫生と臨畫との聯絡（五六年）

臨畫は寫生の基礎である。

されば寫生敎材と臨畫敎材との同一種類のものを其の目的に應じて配列したものです。（略）

三、敎授上の要點

（イ）思想發表を十分ならしむ

自由をあたへ、餘り敎師はいらぬことに世話をやかず、十分に兒童の思想發表をなさしめねばならない。

一人や二人の缺陷により兒童に一齊敎授をなすが如きは面白くない。

（ロ）常に敎材の要點につき指導す

此の敎材は兒童に如何なる所を要求するかをわきまへ、其の點を指導す。

個別指導をなし、兒童の誤れる所を指摘し、又は暗示をあたへ、或は更に硏究をなさしめる。

（ハ）敎師も共に畫くこと

兒童は敎師のまねをするものである。されば敎師趣味あるものは兒童亦趣味をもつて原則とします。されば敎師は時には兒童と共に描いたなれば

更に一層向上するであらう。

(ニ) 兒童の自由なる所に於て描かしむ

我々の如き農村に於ては圖畫科の設備不十分であります、而も一つの机、腰掛に二人づゝである。其の相互間の障害は大なるものである。されば兒童は自由で安氣な所に於て行ふがよい。我校は雨天體操場に於て行ふ。

(ホ) 時々作品について觀賞力を養ふ

即ち自己の缺陷を補ふ爲或は美感の養生に大なる利益あると思ふ。

我が校は此れが注意として表現せんとした中心點がどこにあるか、學年の程度及び趣味の個性とによつて考へるのであります。

議長、次に大屋君に御發表を願ひます。

圖畫教授に於ける經驗

郡上郡　大屋百三君

1 個性調査

教育なるものは其の對者たる兒童をよく知らねばならぬ事は論を俟たぬ。殊に圖畫教授に於て其の必要の大なるを知るものである。

兒童を知るとは卽ち兒童の個性を知るといふ事であるが、各個性を知る事は容易でないから、從來の圖畫教授は其の點に於て殆ど個性を顧みない劃一的干渉主義にやつてゐた。乃ち個性を尊重し、それを伸さうとする自由畫運動が生れて來た。其の極度全然放任主義を主張する者さへ出來た程である。

私は放任に過ぎず、又干渉に失せず、兩者を按配運用してゆくのが大切な事と思ふ。

必要あれば教案以外の事でも教へ、不必要と認むれば全然省く。私は必要主義の教授をしてゐる。

2 兒童の模倣性

兒童の先天的本能の中に模倣性なるものがある、教育はこの模倣性を基礎として成立すべきものである。模倣はやがて創作の母である。模倣なしに創作は生れない、この模倣性を利用するが卽ち教育である。

模倣性は教授の方法上にも畫く觀念を養ふ上にも尊重しなければならない。寫生も模倣であり臨畫も寫生である、形を似せ色を似せる事は何れも模倣である。只新に創作する分量の差あるのみである。考案畫の中にもやはり模倣の部分がある。只倣模の分子と創作の分子との量の上に多少の差あるのみである。模倣性を利用したる圖畫教授を否認する論者もあるがそれは兒童の本能を解しない眞の教育を知らぬ者である。

3 兒童の長所の相異

兒童の畫を描くのを見ると主觀的の發表に長じた者があつて低學年に於て良く面白い記憶畫を描くからといつて、高學年になつて寫生をやらして見ると一向出來ない者もある。

又或兒童は客觀的に描く事の巧みな者もあり、又主觀的にも客觀的にも良く出來る者もあり、又どちらも出來ぬ者もある。多くの兒童は大低此の四つの型のどれかに這入つて居るやうに思ふ。我々は實際圖畫を教授してゐる間にともすれば圖畫の巧みな一方の兒童ばかりに注意するやうな事になり易い、此點は餘程注意して巧拙に依つて兒童の取扱に偏頗をつけてはならない。低學年で下手であつた者も、高學年になつて上手になる者もある。

次に兒童には感情的の發表に巧みな者と、知的に發表するのが巧みな者とある。美的の感情に偏した者は藝術的に描き、知的に偏した者は數學的に確實に描くやうになる。教師が藝術趣味の人であれば藝術味に多くの同情と理解を持ち、智的の方面に同情が無いと云ふ事になり易い、之はどちらも其個性を尊重して其の特徴を發揮させなければならぬ。

兒童の圖畫を單に藝術的の立場からのみ見て行くと云ふ事は普通教育、國民教育として餘程注意しなければならぬ。

4 鑑賞教授

兒童に綺麗なものを見せた時に綺麗だと云ふからとて直に其子供が美を知つて居ると云ふ事は出來ない。圖畫は趣味の教育であるとか、美の教育であるとか云ふけれども兒童に美の理解が出來るかどうかと云ふ事

が問題である。兒童に理解の出來ない美術品に向つて先生が解つたやうな言葉で説明しても兒童には一向解らぬ事がある。

兒童の美の教育に就て低學年兒童にはどの位の説明をしてよいかと云ふと、私は子供に理解の出來る程度から一歩先の事を説明するがよいと思ふ。むつかしい事は説明せぬ方がよい、私は美の鑑賞は耳から入れずに眼から入れるのでなければならぬと思ふ。そして比較――二つの繪を比較して判斷させるのが一番よいと思ふ。

美の觀念といふ事は知的取扱をすべき性質のものではない、情のものである、情は口で説明する事は出來ない、之に理窟をつけて説明すると往々誤を傳へる事がある。

5　畫題に就いて

兒童は滑稽に對して餘程興味を持つ、又奇拔にも興味を持つそれから又偶發的のものにも興味を持つ隨つて教授細目の如き豫定は、兒童の時々の傾向によつて變更して行かなければならぬ、算術や國語とはちがつて圖畫とか、綴方のやうに主觀的に發表する能力を養ふ教科目に於ては便宜變更すべきものである。

教授の方便としては是非系統を作つて教授する事が必要である、けれども常に其の系統を保たなければ教育を進行せしむる事が出來ないと云ふものではない。豫定は時により必要に應じて變更してもよいと思ふ。例へば遠足の後には遠足といふ題目を捉へ、大風の後には大風といふ題目を捉へて兒童の思想界に浮んでゐるものは何んでも描かせるがよい。兒童の頭の中にないものを畫題として仲々良い成績は出來ぬ。

圖畫は形式陶冶の教科であるから強いて嚴密な順序を追ふ必要はないのである。

6　兒童の描畫の狀態

兒童が畫を描くのは只「描きたい」といふ事が動機となつて描いてゐるものゝやうに思はれる、描く事がすきだから、又描く事それ自身が面白くて描いてゐるのであると思ふ、之が低學年兒童の態度である。良く描かうと云ふのは上級になつてからの事である。低學年ではスペースの美など云ふ事は考へない、只蒐集的に描き集めるのである。之は兒童が野に出て遊べば同じ花を取り、同じ花を集めると同樣で、蒐集的本能か

ら來て描くのである、此の程度の兒童には美術の説明をして型にはめる事は私のとらない所である。尋常三年頃迄は自由に描かせるがよい。

それから低學年兒童は非常に大膽で、出來樣が出來まいがどんなものでも描く、畫題はいくら範圍を擴張してもよい。併しだん〳〵と觀察力、批評力が進んで來れば確實に自分の描いて出來る程度のものを喜ぶといふやうになる。自分の能力を自覺するやうになると、却つて萎縮する傾向が見える。

今一つ見方をかへて云ふと最初の時は寫生も臨畫も記憶畫的に描くものである、精密な觀察や精密な描寫は年が進んで來なければならぬ。

7　私の必要主義授教法

教授法で云ふ階段などといふものも一種の型である、實際の教授法は學者の研究した教授法の型に入つたのではいけない。生きた教授法は變らなければならない。

然らば如何に變るかといふと必要に應じて變化するのである、教授法は常に必要上から眺めなければならぬ。一歩〳〵變り進めば進む程變つて行く。兒童に自分の能力で行けるだけ行かしめて、行けぬ時に助ける、尋常一二年の生徒にこゝが惡い、あそこが惡いなど、批評訂正などしても效果がない、出來上つて居る繪を批評する事は、水に溺れて死んだ人に人工呼吸をするやうなもので何にもならない。此の時代には描く前に氣をつけてやつて、出來上つた上は批評も訂正もいらないと思ふ。最も困難な時は尋常四年である、人間がやがて獨立しやうとする境になる、一二年時代のやうな放膽な繪を描かずに、ごく簡單なものを描くが仲々出來ないので、此時代は圖畫がいやになる時で、教師が努力して救ひ上げて教授する必要がある、又授業も最も困難な時代である。此時代から成績に對しては批評訂正をしてやつて安心して先に進む事が出來るのである。

尋常一年時代高等科時代の教授法も同じではいけない、低學年では教師は先に廻り高等科になるに從つて教師は後に廻つて教授するのが大切である。

議長、次に中村君に御發表を願ひます。

發表題　# 圖案教授に於ける研究一班

武儀郡　中村　保君

現代の圖畫科には寫生畫の尊重せらるゝ割合に創作を尊重しない傾がありはすまいか。多くの教育者は個性の差異と言ふ事に餘りに敬意を拂ひ過ぎて、それには可成多く郊外寫生などに引率しなければならぬ。それが現時の大勢に順應するのだと思つてゐる感じがします。申すまでもなく、個性的自由を解放せよとの叫びは昨日や今日俄かに初まつた問題ではありません。それだのに寫生萬能主義のみやかましく論ぜられて、圖案などの方面を輕視する傾向になつたのは少しく誤つて居るのではないでせうかそれが果して普通教育を施すべき小學校として間違のない教材の採り方でありませうか、私は頗る疑問に思ふのであります。

私は今チト古い樣な感じのする『圖案に關する研究』などいふ問題を敢へて持つて參りました理由は即ち此處にあるので御座います。

圖案に關する教材の配當は別表の樣に私案を立てゝゐますが、この説明は略しまして私は教材の攻究とそれに關聯する資料についての實際經驗を述べて見たいと思います。

教材は教科の目的を達する爲めに有効なものでなくてはなりません。そこで圖案の目的は何かと考へますと、

1　工夫創作の精神を養ふこと
2　美的鑑識眼を養ふこと
3　圖案の實用化

この三つにならうと思ひます。實際の創作の精神を養ふには材料の便化とか配列とか配色とか云ふ教材になつて課される次第にあります。そしてそれ等は既に過去の人々の手によつて色々な形式が作られてゐますが私は可成初めから形式を教材としないで何うしたならば美の要件に合ふだらうと兒童をして努力させそして出來た成績を形式に纏めてやるといふ風にしたいと思つてゐます。そんな考へから私の學校では例へば一つの内部便化を課するにしてもたゞ漠然と書き並べて見ろといふ樣な事を避けて、子供の浴衣地として考へよとか大人の縞模樣として考案せよとか或は立體圖案などを課する場合にも鐵製の火鉢として考へよとか陶器製の花瓶として立案せよとかいふ風にして居ります。

尙實用を背景として考へて各種の表紙やウヰンドバック新年の賀狀などは可成其の成績品が實用的要求に沿ふ樣にとつとめて居ります。

次に美的鑑識眼を養ふことについては資料の大切なる事を痛切に感ずるのであります。價値ある資料を多く集めて圖案に親ませ兒童の鑑賞眼を養ふ機會を多からしめる事は、軈て工夫創作の豫備として大なるヒントを與へるものであらうと信じます。

私の學校では隨分澤山な資料を集めてゐます、そして分類して時々展覽會を開いたり圖畫教室に掲げたりしてゐます。可成兒童の生活や社會の生活に實際用ひてゐる材料をといふ精神で選んだのでありまして、この活きた材料の提供によつて批評鑑識する力を養ひまた工藝に關する趣味を養ひ得る事を信じて居ります。

私は意匠圖案に對する國民の鑑識力の多少は確かに一國の盛衰に影響するものだといつても過言ではないと思ふて居ります。

資料を集めて居ります内に特に私の記憶に殘つた材料が一二ありました。一つは今日も尙隨所に掲げられてゐる左側通行の宣傳びらであります。（實物提示）努力の割合に効果の上つて居らないのはお互に殘念に思ふのであります。今こゝで細かい誤りを指摘する必要はありませんが大體これはポスターの精神を沒却してあまりに欲が深すぎて要求が多すぎる樣であります、殊に官服を着せた警官をあしらつたといふ失敗は誠に遺憾であります。然かも之れが岐阜縣人の仕事として縣下の隅々までも廣告されて居るのであります。

今一つはキリンビールの廣告畫であります、（實物提示）勿論石版とオブセットでは同日の論には參りませぬし色の多少によつても出來ばえは違ひますから今甲乙を定める事は出來ませんが、しかも白の地質を巧みに利用してエプロンに使用した點や赤色の主部を浮き立たせ樣が爲めに綠をバックにした用意などは實に周到であります。

根が人の感情に訴へて其の効果を修め得ようとする宣傳ビラなどは社會に發表するまでよほどの攻究があつてほしいのであります。

効果が大いになければならぬ當局の仕事が斯かる不成功に了つて無くともがなの廣告畫が無言の中に雄辯な宣傳をしてゐるなどは痛嘆に堪へないのでありま す。この罪はそも〳〵何處にありませう、もしも此處に寄り合ひましたお互が岐阜縣の圖畫教育に比較的關係の深いものばかりの集りだとしたならば此の樣な明白な事實を目の前にする時甚だ慚愧に堪へない筈でありまず。云ふまでもなく專門家の手になつた圖案と然らざるものとでは雲泥の差は生じて來ることは當然であります。併しながら、これらの圖案教育を受けたものは圖案に對して相當な鑑識眼を持つといふ事と或程度迄に効果の上るポスター位は誰もが出來なければなるまいと思います。圖畫科の使命の一つは即ちこれで我々の責任も亦此邊にあらうと思ひます。

近頃の雜誌にアメリカの中學では相當な圖案が出來なければ卒業證書を渡さない事になつたと報じてゐるのを見まして殊に其の感を強くしたのであります。

圖畫科に於て、考案力を養ひ思考力を練るといふ事はさりとなはさず此圖案にあります、色彩の考案をしたり配列を考へたりすることは直接に美的思想の養成になる計りでなく商品の改良となり輸出品の增加を促す事にもなります、こゝに標的を置いての圖案教授こそ、我國の商工業を助け一國の富を左右し得るに到るであらうと信ずるのであります。

圖案教材配當

尋常科第三學年

1 二方連續模様　あぢさゐ
2 便化法　草花、弄具類
3 單位模様　同上

尋常科第四學年

1 二方連續模様　蝶、木の葉、大根
2 圍み模様　朝顔、蔦、萩の葉
3 單位模様　草花
4 配色　三原色、間色

尋常科第五學年

1 二方連續模様　中心移動法による製作、蝶、桑ノ花、タンポ、
2 圍み模様(當飯)　圖、多角形等
3 編模様　吳服類に例を取る
4 配色　反對色、同色、類似色
5 表紙圖案　雜記帳、日記帳の類
6 エハガキ　新年賀狀など

尋常科第六學年

1 配色　稍々複雜なる配合
2 四方連綴連續模様　中心移動法による
3 立體圖案　幾何形體に屬するもの
4 意匠圖案　鉢、花瓶類、表裝、ポスター、ウキンドバツク

(議長) 以上五君の御發表に對して御質問はありませんか。質疑もありませんければ次の討議題に移ります。

討議題　尋常五六學年に屋外寫生をなさしむるの可否

山縣郡　山田高一君

説明

(山田君) 新定畫帖によりますと全教科の半は寫生によつてあります、其の中殆ど靜物寫生で景色寫生は少うございます、靜物の如き人工的な配置によるのも勿論必要ではありますが尙進んで屋外寫生により景色の寫生をなさしめて自然に接せしめ之れに對する美觀を養成することも必要であります、そして自然の景物に趣味を持たしめる樣に指導すれば必然圖畫科に對する兒童の趣味を向上せしめ得ることゝ思ひます。されど尋常科兒童の教材としては場所の選定にも困難で又程度も高すぎるためかへつて自然を醜化し兒童の自然に對する趣味を殺ぐ樣な結果になりはしますまいか。要するに屋外寫生は尋常五六年の程度に適するか否かの問題であります。

質問

（議長）御質問はありませんか。

（加賀君）五六年とありますがより以上の意味ですか。

（山田君）高等科は意味しません尋常科です。

（宇佐見君）承りますと景色の寫生の樣に思はれますが一本の花の如きはこれに入りますか。

（山田君）主として景色です。

（河合君）御校では屋外寫生をおやりになつて居るのですか如何です。

（山田君）私は四月より受持つて研究中です。

（中島君）場所の選定に困るとは敎師が困るのか或は兒童が困るのですか。

（山田君）適した敎材を得るのに困ります。

（議長）質議もすまない樣ですが御意見の御發表中に承はる事として御意見の御發表をお願します。

討議

（中島君）屋外寫生は兒童心理の方面よりも圖畫養成の方面よりも甚だ價値の多いものだと思ひます自然は常に美的要素に富み從つて美觀養成に最もよろしいから大體を表現しても美の感じは表はれるものである。それで私は是非屋外寫生を課したいと思ふ。たゞ五六學年でなく尋三四學年から初めたいと思ふ。

靜物のこともありましたが之れは靜物との割合を定めて進むものでなく、氣候其他のことを考へて行ふべきだと思ふ。

（河野君）屋外寫生の可否に就いては私は屋外といふことを取つてしまつて寫生を多く行へば發題者の趣意にかなふと思ひます。

（金子君）兒童は屋外の美しい物を描くことを好むもので大人の考へたよりも主觀的に見るから左程程度の高いものではなく要するに屋外寫生を可としま す。

（山下君）私も屋外寫生は可とします。若し之れが否であるとすれば大問題であります、吾人は自然の中に住んで居るのだから自然を描くのは當然のことで其の自然の心に寫つた狀態を心を通じて描けばよいのです、それで一二年相應に描けばよろしいけれども大きい筆つきで描くから精密といふ點に於ては缺けるが主觀的に差を表すことが出來るからよろしい。

（中島君）出題者の御意見の如く屋外寫生の必要なことは今更喫々を要せぬ所であります。故に義務敎育中上級學年たる尋常科五六年に於て屋外寫生は當然やらなくてはならないので今更可否を論ずるまでもないと思ひます。私としてはもつと低學年からでも出來ると思ひます。それはそうとして實施する場合に於ては色々な困難が伴ふだらうと思ひます。

出題者の御意見では適した敎材を得るに困るとのことですが私は敎材の如きは到る所にあるもので決して困る樣なことはないと思ひます、本校の樣な變化の乏しい所に於ても敎材に困る樣なことはありません。敎授者は立派な風景でなくては敎材にならぬと思つて居らるゝかと思ひますが校庭の一木、道路の一石も敎材とならぬものはないと思ひます。此の外に私は困難な事情があると思ひます。第一は兒童が場所の選定に困難を感ずるといふことでありますが、これに就ては豫め畫面の切り方等は敎へて置けば左程困難を感ずることもないだらうし初めは課題的に範圍のせまい所を採り順次自由にせしめればよいとことでありますが、これも相當學年が進めば順次訓練して行かねばならないことであります。要するに敎師の指導宜しきを得れば五六年以下の學年でも出來るものと信じます。

（大平君）私は私の藝術觀より正確に描かねばならぬと思ひますから景色畫を描くことは五六學年では問題だと思ひます、なぜなれば遠近が取れないからであります。併全くなくすることは私も考へものだと思ひます、興味を起す點から見て少しは課せなければならないと思ひます。

（議長）しますとあなたは可とせらるのですか。

（大平君）左樣であります。

（野尻君）私は可とします。總べて美の根元は自然より入ります。圖畫は眞の美を愛する態度から出發せなければなりませんから私は屋外寫生は大にやるべきだと考へます。

（淺井君）可とします。けれ共注意を要する點は訓練上の問題でありますが之れは敎師の努力によつて敎

慣れることゝ思ひます。
（議長）これで本問題の討議を打切ります大體に於て可とするの御意見の樣に承りました。

討議題　一、毛筆畫廢止につきて

惠那郡　金子龜遊君

私が直接小學校の圖畫科教授に當つたのは僅か數ヶ月にしかなりませんから其の研究といふ樣な研究も出來ず甚だ淺薄でたゞ圖畫科の外面を見たに過ぎなかつたのでありますそこで討議題などにして出しましたが幼稚で題にもならないかも知れませんけれど一應私見を述べて見ます。

一、私は現今の小學校圖畫科教科書としては新定畫帖が最も進歩したものとして是を使用してゐますその手本の内容は御承知の通り低學年はクレヨン畫漸次鉛筆畫水彩畫と進んでゐます、其の内全學年を通じてゐるのが毛筆畫でありますが其の毛筆畫は尋常科のみで五十幾枚あります、多くは毛筆の使用練習とし臨畫として出してあります、殊に尋一、二學年の毛筆畫は毛筆の使用練習が主となつてゐます今では毛筆廢止論がある位毛筆は社會から葬られようとして硬筆が益々用ひられる樣になりました書き方にても追々毛筆はなくなり低學年にては硬筆習字が用ひられてゐます、だから圖畫科に於ても毛筆畫を廢し使用の簡單な硬筆を以て思想發表をなし又通常の形態を見取る練習をすべきであると思ひます、殊に思想發表などは強く感じた其の時によく出來ると思ふ其の時期を逸してはならないのでそれには使用に容易な硬筆が便利である。

二、毛筆は使用が甚だむつかしい手指の筋肉の發達不完全な兒童には尚更である、特に低學年の圖畫科の教授眼目は思想感情の自由發表及手指の筋肉の基礎練習の時代である故困難な毛筆よりも容易な硬筆で以上の練習をした方が効が多いと思ふ。

三、毛筆畫を二三枚畫かしめた經驗によると、臨畫でも最初色彩を施す中はよい具合に出來ても之を最後に毛筆で畫く際兒童は意の如く毛筆の使用が出來ず、時に二三枚も畫きなほしをするのがある。これ兒童が毛筆にては思ふまゝに美的な描寫が出來ない爲でこの點から見ても毛筆は廢してもよいと思ふ。

四、毛筆は美といふ處まで兒童の觀察が出來ないと思ふ、なんとなれば色彩を施したものを美として各自に色彩を施す事を好む敢て毛筆でなくとも美感の養成は出來ると思ふ。

五、物と物との境界は黑線の如くはつきりしていないすべて物には線はないそれに兒童が黑線で描寫するのは兒童が線を感じてゐるのではなく、周圍からの模倣である故に毛筆廢すべしだ。

結論　高學科に至りて毛筆を必要とすれば毛筆習字の力により毛筆の使用法を知らばそれで圖畫科と聯絡する事が出きると思ふ。

（議長）何か御質疑はありませんか。

（保井忠雄君）兒童は面で表すのは困難でありますから、墨線で描く方が明瞭しますが其の點は如何ですか。

（金子龜遊君）毛筆でなくとも表はれると思ひます。

（宇佐見綱雄君）毛筆畫の意味ですが、墨で黑く書くのを止めるのですか水彩畫も含むのですか。

（金子龜遊君）墨で書くものゝ意味です。

（宇佐見綱雄君）下學年でも止めるのですか。

（金子龜遊君　左樣であります。

（議長）どうぞ其の邊りを明にして戴きたいと思ひます。

（河野大助君）黑だけ止めて繪具は用ふるのですか。

（金子龜遊君）繪具は別です。

（保井忠勇君）繪具は墨より塗るに易いのですか、毛筆使用が困難であるならば墨も繪具も同じではありませんか。

（金子龜遊君）繪具の使用は下學年にはありませんからです。

（大平茂樹君）墨は繪具の中には入りませんか。

（金子龜遊君）輪廓を墨でとるの意味です。
（川合佐治君）意味によつて議論が分れますが、墨引のことですか。
（金子龜遊君）左樣です。
（川合佐治君）新定畫帖の臨畫はいかにして取扱はれますか。
（金子龜遊君）墨繪はやらないのです。
（大平茂樹君）墨で取つてあるのを他の色でとるのですか。
（金子龜遊君）畫帖には輪廓はとつてありません。
（大平茂樹君）毛筆畫帖にはありますか。
（金子龜遊君）知りません。
（大平茂樹君）色鉛筆は如何ですか。
（金子龜遊君）之れはよろしいと思ひます。
（大平茂樹君）色で輪廓をとつたものがありますが如何です。
（金子龜遊君）それは硬筆でやります。
（議長）承りますと墨で輪廓を取るとの意味の樣ですから其の御積りで御意見の御發表を願ひます。
（河野大助君）輪廓を筆でとるのを止めるのは餘りひどいやうに思はれます毛筆で描く能のあるものには之を行はせてよいと思ひます。兎に角白濱先生方の御作りになつたものを吾々が一度に廢することは如何と思ひます。何もかも混せた方が穩當かと思ひます。
（淺井清一郎君）私も新定畫帖の精神によつて毛筆畫を廢止することは不贊成であります。
（保井忠男君）毛筆畫には（一）形を明瞭にし、（二）軟な感じを表し、（三）筆勢を知らしむる價値があるが、（三）は專門的だからよくないが、（一）はクレヨンを使用すれば十分表すことが出來る（二）は下學年では困難だから五年位から入れる方がよろしいと思ひます。要するに學年の程度教材の種類によつて適當に取ることが肝要であります。
（平塚庄次郎君）新定畫帖は西洋畫日本畫の長所を取つて畫いたものであるから之を廢止するのは不贊成である。
（大谷利一君）書き方に於て硬筆の盛になつたのは意味が違ふので圖畫から毛筆を取るのは不贊成である困難と云つても尋常科全體とは思はれませんから、議論の餘地がないと思ひます。
（議長）大體御贊成がない樣だから此問題は之で打ち切りにいたします。
（議長）淺井君に御發表を願ひます。

發表題　色彩教授に就て

海津郡　淺井清一郎君

實を申しますと私はまだ研究が淺いので今皆さんに向つて發表するだけの材料を持つてゐませんから、御免を蒙りまして皆さんの御研究になつた高說だけを承ることにしたいのでありましたが研究會からの御すゝめに止むを得ずホンの申譯的に一口お話することに致します。

私の發表題は色彩教授に就てと云ふのでありますが、色彩に關する事柄は甚だ複雜で又其の範圍も餘程廣いのでありますからこゝには時間の都合上單に其一部分である尋常五年の色圖教授に就いて感じたることを少し申し上げやうと思ひます。

新定畫帖には尋常五年から水繪具を使用せしめて色彩に關する正しい智識を授けることになつて居ますがこれは兒童心理の發達に留意した最も適當な配置であらうと私は思ひます。思ふに色彩は兒童が先天的に好む所であつて、是迄隨分多くの色に接し又色鉛筆などで書いて居りますが、これ等は單に色彩を弄んで居ると云ふに過ぎないので色彩に關する智識は甚だ幼稚なるものであります、よく此の時代には實際授かつてあるにも拘らず青色と綠色とを混同したり橙色の名を知らなかつたり、甚だしきは赤色の何たるかを知らぬ兒童をも見受けることもあります。最も是等は近時やかましい色盲の關係にもよりませうが、兎に角此の時代の兒童の色彩觀が混亂して居ることは確かであります此の混亂して居る兒童の色彩觀を五年になつたらすつかり整理して正しい色彩の智識を與へなければならな

いのでありますから、敎授者は餘程骨を折らなければならぬのであります。そこで左に色彩敎授上注意すべき二三を申上げます。

一、確實なる觀念

是迄硬筆のみを使用して居つた兒童に色彩の觀念が薄弱なことは、無理のないことであります。そこで敎授の際は色の掛圖種々の色紙等を使用することは勿論でありますが、私は此の際プリズムの實驗をなして太陽の光線を分散し確實明瞭に兒童の腦裏に基本色の觀念を與へたいものであります。

二、色の名稱

色の名稱は千差萬別で甚だ複雜して居りますが、先づ色想上から標準色の名稱を授け次に材料上から繪具の名稱を一通り授ける方がよからうと思ひます。

三、色彩表

三原色、三間色、明暗色、寒暖色等の色彩表を兒童各自に作らしめ、之を散佚させないやうに綴らせて一の色彩表を作らせるのであります。

四、文章

元來新定畫帖の兒童用書に挿畫と竝行する所の文字文章の無いことは大なる缺陷でありますが說明的敎材には此の感が一層深いのであります。そこで敎授者は隨時兒童に讀解の出來る適當なる文字文章を作成して之れを筆記せしめ以て說明の記憶を確實にならしめたいのであります。之が爲には圖畫筆記帳なるものを作らしめるもよろしいが便宜手本挿畫の裏に記入せしめてもよいと思ひます。

五、試問

今日の圖畫敎育は單なる技能敎授即ち畫かしむるのみを以ては到底滿足は出來ないのであります。そこで敎授者は時々既授智識的方面に就て試問を行ひまして大いに兒童の注意を促したいものであります。

發表題

圖畫科に於ける質表現の指導に關する研究

武儀郡　平田兼一君

敎則に「圖畫は通常の形體を看取し正しく之を描くの能を得しめ云々」とある。其の正しく描くと云ふことは形と質の感じを其の物によく似た樣に表現することである。そこで外形を正しく描くと云ふ事は誰しも力を入れて敎授するけれ共其質の感じを表はす方面に到つては往々等閑に附せらるるものである。否時には全々念頭に置かれないことがある。若し繪畫であつて此の質の感じが十分に表はされて居なかつたならば如何に其外形が上手に表はされてゐても之は正しく描かれたものとすることは出來ぬ故に此の質を表はすその指導も餘程骨折つてやらねばならぬ。而して此質の感じを表す事は小學校の程度に於ては困難であつて出來ないと云ふ人があるかも知れぬが若し有りとすればそれは其理想を望むからである。そんな理想を望むことなく兒童の發達程度に應じた表現を望むのであればそんなに困難なことでないと思ふ。然らば小學校に於ては如何なる程度に如何なる方法によつて指導すればよいかと云ふことになるが本校は大體次の樣な程度方法で指導してゐる。

一、程度

色又は線により硬軟强弱光澤を表す位。

二、方法

イ　範畫による　各部分の色又は線を比較して其質の如何を知らせる。

A　範畫　敎材と全く同一の繪畫

B　鑑賞畫　敎材に關係した敎材以外の繪畫でよく質の表現されたもの。

ロ　實物による　各部分を比較して觀察させて其質の如何を知らせる。

ハ　兒童の作品による　適當な作品（質表現の適否につき）を得たる時隨時之が取扱をする。

三、質表現の指導と各學年敎材

（イ）第三、四學年に於ては線による表現には鉛筆又はクレイオンを用ひ色による表現はクレイヨン又は色鉛筆の簡單なる採色を以てす而して該學年に於ては主として硬軟に關する指導をする。

（ロ）第五六學年に於ては前學年の程度を高むると共に線による表現に毛筆を色による表現に水彩繪具を加へる。

（ハ）四學年に質の指導する敎材の少いのは理論的敎材が多いからである。

（ニ）次の表中二重丸を附したものは最も其指導に適する敎材である。

（ホ）該表は新定畫帖を基礎として作製したものである。

第三學年

教材	教科書目	的	方法	質の表現上特に注意すべき點
◎學校裏の杉	一の二	木色、硬軟	實物	杉の老いたる葉は緑色を濃く新芽は淡く土堤の草は一層淡く描きて其硬軟の度を表す。
野邊	三の二	色、硬軟	範畫	木は緑色を濃く野原は淡くして其硬軟を表す。
蓮花草	二ノ六	色、硬軟	實物	緑色にて葉は淡く莖は濃く描きて葉の軟きと莖の稍々硬きことを表す。
◎薔薇	三ノ四	色、硬軟	實物	花はクレイヨンを輕く使用し花瓣各片を明に描かずして軟きことを表す。
煙草盆	三ノ九	線、強弱硬軟	實物	太くて強き線にて箱を描き丈夫にして硬きことを表す。
◎家	三ノ一九	線、強弱	範畫	柱は線を太く障子は細く畫きて其強弱を表す。
簞笥	三ノ二二	線、強弱	範畫	太さ一定の強き線にて畫き簞笥の丈夫なることを表す。
角火鉢	三ノ二四	前同	實物	前に同じ
聯隊旗	三ノ二五	線の強弱	範畫	房を太き線にて描き其多く組合せて丈夫なることを表す。
南天	三ノ二九	同硬軟	實物	葉柄を強き線にて描き硬きことを表す。
林檎	三ノ三九	色、光澤	實物	色の濃淡により表面やゝ光澤ありて丸味あることを表す。

第四學年

教材	教科書目	的	方法	質の表現上特に注意すべき點
國旗	四ノ八	線、硬軟	範畫	竿は線を強く太く描きて其硬きことを表し國旗は細く弱く描きて布の軟きことを表す。
朝顏の葉	四ノ一一	同	實物	線を弱く描きて軟きことを表す。
◎金魚	四ノ一七	同	範畫	細き弱き線を以つて金魚の軟きことを表す。
慈姑	四ノ二七	色、光澤	實物	一部分の色を淡くして稍光澤ありて丸きことを表す。
茴香	四ノ三二	色、光澤 線、硬軟	實物	色による光澤の表し方は前にほゞ同じ線を強く太く描きて其硬きことを表す。

教材	教科書	目的	方法	質表現上特に注意すべき點
鳩	四ノ三四	線、硬軟強弱	範畫	胸、脚元等の線は細く弱く描きて其軟きことを表し脚大翼等は太く強く描きて硬く丈夫なることを表す。

第五學年

教材	教科書	目的	方法	質表現上特に注意すべき點
◎桑の花	五ノ四	線、硬軟	實物	花は線を細く弱く描きて其軟きことを表し葉及葉柄は稍強き線にて描き稍硬きことを表す。葉は下方のもの程色を濃くして其の硬軟の度を表す。
◎蝶	五ノ五	線、強弱	實物	線を細く弱く描きて其翅の弱きことを表す。
たんぽゝ	五ノ八	線、硬軟	實物	五ノ四とほゞ同じ。
砲彈	五ノ一〇	色線光澤	範畫	色の濃淡線の細太により圓錐にして表面の稍々光澤あることを表す。
筍	五ノ一一	同	實物	五ノ一〇にほゞ同じ。
◎蝸牛	五ノ一二	線、硬軟	範畫	蝸牛は線を細く弱く描きて其の軟きことを表し葉は、線を強く描きて硬きことを表す。
茄子	五ノ一九	色、光澤	實物	色の濃淡を以て表面稍光澤あることを表す。

教材	教科書	目的	方法	質表現上特に注意すべき點
◎朝顔	五ノ一九	線、硬軟	實物	花は極めて弱き細き線にて描き軟きことを表し葉は稍強き線にて描き花より硬きことを表す。
菊	五ノ二七	線、硬軟	實物	前と同じ。
栗	五ノ三〇	線、硬軟	實物	強き線により刺の硬きことを表す。
柿	五ノ三一	色、光澤	實物	色の濃淡により表面光澤あることを表す。
いんきつぼ	五ノ三九	色、光澤	實物	前同、（但濃淡の度を強くする）
◎筆洗	五ノ四〇	色、光澤線、硬軟	實物	色による光澤の表し方は前に同じ強き線にて其硬きことを表す。
釜	五ノ四一	同同	範畫	前に同じ。

第六學年

教材	教科書	目的	方法	質表現上特に注意すべき點
櫻	六ノ一	線、硬軟	實物	花は淡き墨にて線を弱く細く描き軟かきことを表し葉はやゝ濃きものにて強く描きて硬きことを表す。

提灯	六ノ五	線の強弱	寫物	帯を淡く線を細く弱く描きて弱きことを表し口、底は線を強く描きて丈夫なることを表す。
◎土瓶	六ノ六	色、光澤	寫物	色の濃淡により土瓶の表面光澤ありて丸きことを表す。
◎植木鉢	六ノ七	同	同	前に同じ。
筆立と栞	六ノ一一	色、光澤線、硬軟	範畫	筆立の一部を淡くし光澤ありて丸味を帯ぶことを表す。栞の紐は細き弱き線にて描き軟きことを表す。筆立は太き強き線にて硬きことを表す。
卷紙と狀袋	六ノ一二	線、强弱	寫物	卷紙は淡墨にて線を細く弱く描き紙の弱きを表す。
羽箒	六ノ一四	線、硬軟	寫物	鉛筆を輕く弱く使用して羽の軟きことを表す。
鋏	六ノ一五	線、硬軟	範畫	鋏は線を弱く笹は強く描きて其硬軟を表す。
傘	六ノ一六	線、硬軟	寫物	弱き線にて洋傘の布の軟きことを表す。
桔梗と薄	六ノ一七	線、硬軟	寫物	桔梗の花薄の穗等は墨を淡く弱き線にて其軟きことを表し葉は強く描きて硬きことを表す。
◎鷲	六ノ二一	線、硬軟	範畫	鷲の胴は淡墨にて弱くみの毛は一層細き弱き線にて描き軟きことを表す水草は強き線にて描き硬きことを表す。
◎ばけつ	六ノ二四	色、光澤	寫物	明暗により稍光澤ある金屬の質を表す。
如露	六ノ二五	同	同	前同
硝子器		同	同	バック又は其物の明暗を強く表し光澤ありて透明なることを表す。
◎鯛	六ノ三〇	線、硬軟	範畫	各鰭鰓蓋口等は强き線にて描き硬きことを表す其他は稍弱き線にて描き軟きことを表す。
乾魚	六ノ三一	同	寫物	線を一般に強く描きて魚の軟きことを表す。
蝦	六ノ三二	同	範畫	前同
◎包	六ノ三四	同	寫物	弱き線の細太により布の軟きこと皺の樣子を表す。
顏の諸部	六ノ三五	同	範畫	弱き線の細太により軟き肉體を表す。

議長　次に野尻君に御發表を願ひます。

發表題　**教育としての圖畫教授**

益田郡　野尻二一太郎君

教育とは學校で敎へられたものを全部忘れて然して、後に殘れるものなり（エマーソン）自分は眞の敎育の意味は此の言葉の中にあることを眞に信ずる學んだ事以外に築かれて行く背景の大小こそ敎育の効果の大小である。

A　態度の建設と其出發

從來の圖畫敎授は敎育の樣であつて眞の圖畫敎育ではなかつた言はゞ死に近いといへると云ふ譯は作者に確實な意識が伴はなかつたことである。それは兒童の圖畫に對する態度が創作欲求の態度から出發して居ないからである。自由畫たとか、美術敎育だとは口に言ふものゝ多くは方法弊れで即ちからあせりで主體である子供の態度の養成には一向無頓着である樣に考へられる。最も大切な根本である所の創作欲求の態度が建設されずして、美術敎育が出來る筈が無いよし出來たにしてもそれは皮相で眞髓ではない矢張り圖畫の爲の圖畫であつて人間の心理には觸れて居ないと思ふ。

一枚の繪が甘くかけたばかりが決して成功した藝術とはいはれない。暗さを越した明さ洗煉された一筋を求め得た所に眞の美が存在するのである。期すべき圖畫敎育の振興、美術尊嚴は必ず美を愛する兒童の態度から生れ出づべきである。

子供が圖畫をあさる時の心持……子供の美しい創作欲求の態度、眞の美意識の陶冶
求め得たとき←…………欲求態度の滿足、更に欲求を加ふ。

こうした子供の境涯に尊い然も根本たる敎育的價値の存在を忘れてはならぬ。然るに今迄はこの最よい所は皆敎師がやつてしまつて兒童には殘り粕を嘗さして居る樣なものである。美術鑑賞もこの子供の態度を忘れては到底眞にふれて出來る者ではない。兒童が通學中に於ても或は一樹の蔭に腰打ち下して無限の蒼空を仰いだ時にも絶えずあゝよい景色だ。あ廣告の意匠は妙だ……と偉大なる自然や人事に向つて味ひ得る萠芽を兒童の心中に作らなくては其の敎育は皮相である。

B　態度の建設と其方法

小學校の圖畫はこの態度を確立させなくては泡沫の如く或はさいの河原の子供の積んだ石みたいにすぐこはれるので一度校門をくゞれば消えてしまふ。これでは吾々は何をしてゐたか、少しもわからない。そこで小學校として論ずれば一二年生は態度建設の時代でやがて卒業までに立派に鑑賞技巧共に勝れるところの素要時代といふべきである。又學年期に云はゞ一學期間は二三學期に美果を結ぶ態度建設の時代に當るのである吾々はあまりに「こうせよ、あれを描け」と初めから焦り過ぎるのである大なる効果を欲せば心即ち胖にして大膽な出發が必要である。展覽會を見ても學年的に向ふ發達のない成績には譬へ一枚や二枚立派なものがあつても感服は出來ないのである。偶然の傑作であつて敎育としての圖畫ではないさらば如何にするか、勿論兒童心理の觀察も理論としての系統も考へたいが先づ兒童を許して見たい。許さなくてはならぬ。恐ろしいものではない現今の敎師位子供をとらへて許さぬ敎師はない決して許したとて曲るものでなく伸びるものである劃一を唱へる人なら許した態度を見てきつと放埒といふであらうこゝに敎育としての仕事が輝いてゐることを忘れてはならぬ一學期間位はよい成績が一枚も出來なくともよいから偉大な自然に親しめて美觀を受入する態度を築いて進みたいのである。故に第一の方法として寫生隨意選題が先覺者として進み次に課題を加味して基本を授けるのである。手本がなければ描けぬものとし敎師が題を與へねば寫生が出來ぬものと考へる樣な貧弱な思想を子供に與へては前途を患ふるのである、この貧弱な思想は何處の子供にも注ぎ込まれて居ると思ふ此の際一大鐵鎚を下して革新して欲しいものである。

第二に從來の如き限つた時間を與へて苦ませることを改造したい。すべて主觀客觀を併せて發表せしめやうとする藝術に於ては決して一週一時間或は二時間を與へて其心持で製作せしむべきものではない氣分が良い悪いにかゝはらずその時描かねば責めるそして其時

間が終れば自分の務終れり顔で過す様な心理を無視した冷淡な教育は神聖な小學校から一掃してほしいものである。よし客觀は衣したにしろ尊い主觀は靈であると思ふ。こんなことで何處に美觀が陶冶されやう矛盾も甚だしい圖畫や綴方を限つた時を以つてするのは大なる誤りであることを信ずる一週間一ヶ月すべてが與へられた時間であるたゞ設けられたる時間は彼等の活動伸びんとする本性にヒントを與へるべき特設的のものである。

C　信ずるもの「自分」

子供を見つめよ而して教育を施せすべての思潮は吾々の全部であつてはならぬ自分の見た子供この關係の中に信念を作つて進むべきである。小學校の圖畫は技巧と鑑賞と併行すべきものである。

圖畫 ｛ 技功－描く－喜ぶ－目手を練る－創作表現
　　　美感 ←→　陶冶 ←→　生 ←→
　　　鑑賞－味ふ－喜ぶ－思考を練る－個性表現

圖畫 ｛ 科學・藝術・道德 ｝ 文明の三部門

教育と云ふ立場からこの三大部門に皆ふれなくてはならない故に一枚の畫必ず有形にも無形にも迸る血潮が見たい。こうしたところに眞に尊い藝術があると思はれる。

D　最後に人の心を動かすものは言葉や筆では表せない一種の靈感である私が前に述べたことも眞美ではない實際は言へないんだから妥當を缺く文字がある要するに愛兒を見つめよそこに生じた敎師の信念が眞に辿るべき道である。

議長、次に花村君に御發表を願ひます。

發表題　兒童畫の特色に就て

羽島郡　花村孝三君

一、感覺的にして五官を通じて得たる其儘の感興を率直に表現せんとす。

子供の精神力の中心は感情であつて感情の特質として感覺的である。從つて子供の畫は思辨的でなくして感覺的である。凡そ子供に感覺的に起させた感興は最もよく彼等に印象される。そして彼等は其の感興を率直に赤裸々に表現しやうとするものである。これが即ち子供の眞純性であつて貴い所であると思ふ。其の具體例として自村の祭典當時には宮の鳥居、幟を描き草深き田舍に初めて電氣の引けたる時には最もそれに感興を起し家を書けば必ず不自然であつても窓より電氣の見える所を描く。

又子供は活動せるものは感覺的に印象され易い爲活動せるものより初つて漸次に活動せざる小部分に形狀の知識が發達して行くものである。例へば顏面の如きは活動的に印象され易いから目鼻口等の配合も自然的の敎育を受けて比較的に完全に描く次に手、手の指、足も活動的であるから忘れない樣に描き出すが靜的な胴體の如きは描くことさへ忘れる。

二、調和美統一美なき小部分の集合事實を描く

殊に低學年に於ては木曾川の風景を觀賞するにしても景中の白帆、水色、青松、白砂を取り離してそれぞれ個々のものとして美なりといひ全景の調和美とか統一美とかいふ眞に美觀を起すことが少い。從つて畫く場合にも調和美統一美を顧慮しないで小部分の集合事實を描く。例へば同一畫面に山は山、川は川、松林は松林と言ふ具合に別々に離れて統一なきものを描く如きこれである。斯の如き傾からして月を山中に描いて平然たる如きは月を描く際に畫面全體中の月と言ふ事を

考へないで月そのものに氣を取られて居るからである。

三、寫生の場合自己の記憶を混へて描く

兒童は寫生の場合其の實物を觀て描くと言ふ事が少くて既往の經驗より得たる其の物に對する形態の記憶若くば想像を以て描く卽ち觀念描寫である。例へば土瓶や湯飲を寫生する場合土瓶の蓋、湯飲の椽は圓いものであると言ふ觀念を觸覺又は視覺から得て居るから事實平たく見ゆる所を圓に近く誤るとか、火鉢の手は眞向から見る方が形態に覺え易いから斜の位置の場合にも其形を當箝めるとか遠くにある山は非常に高いもので前方にある木より大へん高いと言ふ推究から之を畫面高く描いて遠近法を誤るとか透見式に事實見えない木の根を描くなど記憶想像を混へる。

四、兒童は現實的にして計畫的ならず

兒童は物を見て感興を起した時或は何か考へ浮んだ時に彼等はきつと之を畫筆をとつて表現して見やうとする此の態度は藝術的な態度と言つてもよからう然し畫面上如何なる風に描くかと言ふ計畫を立てないで自分自身が内面的氣分を土臺として少しも客觀的論理に束縛されずに自由に描き出さうとするもので畫筆を手にすれば何處からともなく位置とか順序とかを計畫しないで觀念の移動する儘に筆を運んで行く。

五、思想感情を記述的に描く

繪畫美や藝術美よりも事實をお話的に描かんとする傾があつて技巧や論理には囚はれないで自分の思想や感情を凡て記述的に觀念のそれからそれへと漸次に移動するまゝ描き出して行くものでこれが兒童畫に活氣あり生命ある點である。例へば狩人を描けばそれに擊たるべき鳥を木に鹿や兎を山中に描いて置くとか人を描けば教師に分らなくとも兒童にはきつと何かして居る所と言ふお話的に意味を持つて居る又繪畫で以て表現の不足を感じた時には文章で以つて其の說明を「今鷄が餌を食つて居ります」「この鳥は僕の家のです」と言ふ具合に畫中に挿入するなど思想感情の記述的描寫である。

六、輪廓描寫に描足する傾向

兒童は最初は輪廓描寫のみをして中味を描かない其原因は輪廓が最も觀念に明であるからだと思ふ。

七、模式的に羅列畫を描く

殊に女兒にこの傾向は多い模樣式に羅列する其の形は代表的な卽ち最よく特徵の表はれた記憶され易い方法でなす。例へば花、鳥、木などに最も多く應用して居る樣で山の兩側に同大同形の木を同距離に描くとか道の傍に同形の草花を列べるとか同形の鳥を澤山列べるなどである。

八、兒童畫には時間的區別なし

兒童は說明描寫であり觀念描寫であるから觀念移動に從つて畫筆を動かして行くから時間的考慮がなく從つて同一畫面に時間的の區別がなく例へば田舍の景色を畫き家の所に電柱を立てた其の時は晝の積りであつたものが電柱から電燈を聯想して遂に窓より電球及電光の洩れて居る所を描いて表すなど其所に時間的區別がない。

九、如何なる繪畫も動的物を挿入する

兒童は元來活動的である所からして凡て動的のものを好んで描かんとする傾がある。よし靜的な物を描いた場合でも何處かに動的物を挿入する特に男子はこの傾向が多い。

發表題

圖畫科の使命

大垣市　平塚庄次郎君

苟も人類と生れて來て文化的生活が出來ない樣では不幸であります。偏頗な偏つた人格者では幸福とは云へません眞、善、美、聖之の四の內の美之を解する事が出來ないならばあはれなものと云ふべきである。昔の教育者中には有つたさうでありますが今の人はそんな事はないはずで特にこのお集りの方々はその道に達せられた方々でありますから申上げるまでも御座いませんが而ながら今だに地方に於ては毛筆畫帖や鉛筆畫帖で平氣でをられる校長先生があると云ふに到つては慨歎に堪へぬ次第で前途尙遼遠であると云はねばなり

ません。新定畫帖も立派なものには相違ありませんが而し御發表になられた樣に又世間一般に信じられて居る程の金科玉條ではありますまいと思ひます。之の新定畫帖も明治時代に出來たもので今日では色々な方面に於て訂正せねばなりますまいと思ひます。第一圖畫敎育の一大目的たる鑑賞卽ち美觀美成には何等見るべき要素がありません之れなぞは大に加へる餘地があるかと考へます。それはさて置きまして兒童に圖畫を如何に敎育すべきかと云ふ事に就いて申上ますそれには敎則が根底ならうかと思ひますから一寸思ひ出して下さい。「正シク畫ク能ヲ得シメテ兼テ美觀ヲ養フ」とありますこれでは餘りに天保錢に思はれますから此に最近新圖畫敎育會で規定したものを紹介致します。

「圖畫ハ物象ニ關スル觀察鑑賞ノ力ヲ練リ其創作力ヲ啓發シ描寫ノ能ヲ得シムルヲ以テ目的トス」

語句はさて置きまして觀察力、鑑賞力、創作力、描寫力、考案力之れ等全部をなす事に於て兒童自身の藝術觀を高め兒童の人格を向上せしめ兒童日常生活を美化し藝術化して行かねばなりますまい。

近來自由畫と云ふ聲が中々やかましくなりました之の自由畫の純粹なものは絕對に兒童の創作其のまゝを發展させて兒童の心理を基として絕對的に干涉せない敎法なので之を心理主義といひます所がこれと全たく反對に初めは個性も何も考へないで其基礎となる幾千年の昔より傳へ來た美學なり法則なりは授けて以て其基礎が出來てからは技術を改めやうが型を打壞さうが大に大に獨立獨步で自由の天地に勝手に乘出せと云ふ論理主義の黨派もありますが之の兩說は取に足ぬ者として心理主義の缺點を、ある方法でおぎなひ之に新心理主義と云ふのが出來又兩極端說の長所を取つて出來た折衷說といふのが出來ました今後は之の兩說が有力であらうかと思ひます。次は鑑賞力の養成卽ち審美心の養成ですが之には古今の名畫博物館展覽會等を見せしむれば先よろしいかと思ひます。何はさて見よくて畫きよい設備寫生敎材の豐富參考畫の豐富敎師の熱心なる奬勵其れに最大切なるは敎師の研究が第一ですが新智識の吸收、及たえざる修養が大切です而して何でも珍らしい事をむやみに喜び其の爲に溺れない樣にせねばなりません。

之の樣に圖畫敎育が進んで來ては師範の圖畫敎育を今一步進めていたゞきたいと思ふのでございます。

其れを個條書にして見ますと。一、美學をもつと深く授けること。二、專門藝術家のお話を聞かせること。三、美術展覽會をもつと多くすること。四、成績品は個人的に批評すること。五、もつと實社會に活用されてゐる美術を系統的に授けること。六、實際活用されて居る美術と學理と結び付けて授けること。

結局兎にも角にも圖畫に趣味を持たない者下手なものそれは圖畫を受け持つ資格がありますまいと思ひます或人は云ひます小學校は專門家の畫家を養成する所でないから其の樣に畫かせんでもよいではないかと云ひますが而し發達出來る才のある者は大に發達さすべきで決して惡い事でないのは明白で發達させる事が圖畫科の最大目的であるはずです。本年の二科會に十三歲の兒童が入選して居るではありませんか、其で指導者は腕に覺がある者たる事倘外國の樣子も見てこねばなりますまいから敎育狀況視察にどし〳〵行ける樣にしていたゞき少くとも洋行の一度位出來る樣に致したならば必然的に効果は偉にして大なるものがあらうかと思ひます。

質問　討議

（議長）以上五君に對して御質疑はありませんか。

（中島源九郎君）十三番に御尋ねします色の名稱を御授になるのはどの位ですか。

（淺井淸一郎君）三原色三間色を授けます。

（中島源九郎君）他の色は如何ですか。

（淺井淸一郎君）便宜時間によつて授けます。

（中村保君）十三番に御尋ねします色彩の試驗の問題や方法の具體的なことを承はりたうございます。

（淺井淸一郎君）新定畫帖の說明的のものを一學期に一度行ひます例へば三原色とは如何。暖色の例を擧げよといつた樣な極簡單なものを行ひます。

（中島光雄君）十三番へ御尋ねします。色彩の名稱には學理的に名づけたものと事物の色から取つたものとありますがそれ等は何學年より何れの物を御授けになりますか。

（淺井淸一郎君）學理的の名稱とは

（中島光雄君）例へば赤と紫との中間の色を赤紫、綠と青との中間の色を青綠と云ふ意味で事物の色から取つた名稱とは茄子の色を茄子色、小豆の色を小豆

色と云ふ樣な例であります。兒童は色彩に對しては相當の觀念を持つてゐるから其の觀念を明確にし且名稱と如何にむすびつけるかと云ふ事や又家庭では就學前にも後にも事物から取つた名稱はよく敎へられてゐますから其邊の所も取りたいのであります。

次に十一番へ御尋ねします。兒童畫とは何時頃のものを云ひますか。

(花村孝三君) 特色の最も表はれる尋六迄の兒童の畫を言ひます。

(議長) 次に加賀君の御發表を願ひます。

發表題　行き詰れる圖畫教育

岐阜縣女子師範學校附屬小學校　加賀虎馬三君

(一) 題目について

私は小學校の圖畫教育に全く行き詰つたので何か一つ求めたいものだとあせつてゐる中に子供の藝術生活が味はれた。ひいて圖畫教育に光明を認めることが出來たのです。

(二) 私は小學校の圖畫教育は、子供をして、子供の世界を觀照させ、子供の表現法によつて自己を表現させ純眞なる子供を育てることだと信じます。

(三) 子供はこんな藝術的生活をしてゐる。

雨上りに出た虹を見たり、夕やけを眺めると跳ねまはつたり、歌つたりする。木枯に舞ひ散る木の葉を見ると胸ををどらせる。水上を走る木の葉を見つけて共に走る。鳶の空高くまふのや、鳥のねぐら急ぐのや、聲や、飛んで行く馬や、飛行機を見ては、馬になつたり、鳶になつたり、鳥になつてしまふ。

日が暮れて來ると淋しくなる、お母さんや友達や自然がなつかしくなる。

子供がお母さんに抱かれてゐるのを見ると自分のお母さんにすがりつく人形と對話する、散歩にも出掛ける、子供は眞に自然に向つて自己の眞實を語るこの樣に子供は子供の世界を觀照し、子供は子供の表現法で表現してゐる。

(四) 子供はこんな繪を畫く。

(1) 自分の家を畫くに屋外の電柱から屋内の電燈へ連絡してゐることやお母さんが、お座敷で裁縫をしてゐる屋内まで見透してゐる繪を畫く。又着物を着てゐる上にお乳やお臍を畫く。

(2) 人を畫くのに顏のアウトラインは畫かないで目や鼻や口や手足はどんなにも落さない。禿鷄頭を畫くと色のあざやかさは見落さない。

(3) 側候所を畫くと風力計の回轉を「クル〳〵」と文字によつて示したり。周圍に蝸卷線を畫いたりする。飛行機を畫くのに畫いては輕く消し畫いては又輕く消し幾つも〳〵畫いて前に進め途に紙の端に畫いてやめ、或は太陽に目鼻をつけて人間化して笑つて居るところだといふ。尙現せないところは口で唱つゝ描く。

(4) 簡單な兩手を擧げたものを畫いて萬歲を唱へて喜んでゐるのだといふ。

(5) 其他木の葉を畫くと一枚では滿足しない幾つも〳〵も竝べる。

(6) 又技巧も繪具にない色は混色する。白いところは白墨を使ふ。光るところは強く捺でる。廣いところは橫なでする。遠いところは上の端に、近いところは下の端に描く。

以上擧げたのは一例に過ぎないのです。私は繰り返して申します小學校の圖畫敎育は藝術的敎養を以て純眞な子供を育てることだと信じます。

發表題　圖畫科成績品の處理法に就て

羽島郡　小島彌曾哉君

私は目下尋六に實行しつゝある圖畫科成績品處理法の一端を申上げて皆樣の御敎示を仰ぎたいと思ひま

す。先づ順序として、

1　圖畫科成績品に對する態度を申上げます。何れの學科の成績品でも、皆兒童が努力したその結晶でありますから、決して粗末にはならぬが、私はお恥しい事ながら、その成績品を全く殺して取扱つて居た時代がありました。兒童全人格の表現である藝術品、卽ち本科の成績品『綴方、手工、書方も同じである』はその巧拙は問はず、大いに尊重してこれを生かす樣取扱はねばならぬと思ひます。從來に於ては兒童の成績品を大體、上中下とか甲乙丙丁とか、乃至は十點法等に依つて評語を附けて返附してゐたが、これではよい點を貰つた兒童は大いに滿足して得意になつて居たが、良くない點を附けられたものは、いつも失望落膽ばかりしてゐたのであります。しかも良い點を附けて貰つた者の中にも眞の藝術としての價値あるものか、これすら怪しい物があつたやうに思はれます。敎師の頭で、敎師の考へてゐる型によく篏つてゐる小綺麗な成績品卽ち兒童の個性の全く表現されてゐないものを良い作品と考へた時代があつたやうですが、これでは生きた取扱ひとは云へぬと思ふ。次に一言したいのは

2　美の標準の相違であります。一體美と云ふことは客觀的でなく、主觀的のものでありますから、各人の主觀に相違がある以上、美の標準にも相違が出來るわけであります。故に敎師と兒童とでも美に對する感じが共通する點もあるが、又相違する點もあります。故に敎師が見てきたない、拙いものと思ふ物の中にも兒童同志では非常に共鳴してよい作品だと感ずる事があります。故に型に篏つた私共の考のみを以つて、兒童の作品に對するといふ事は非常に危險で又罪惡の樣に思はれます。私の取扱方法はこゝに出發點があるのであります。かく申しますと、敎師の力を餘り少さく思てつゐるといふそしりがあるかも知れませぬけれども、この主觀の相違を無視する事が出來ませぬ。

3　臨畫成績品の處理法。玆でいふ臨畫といふのは極めて狹義に申したので、むしろ模寫と申した方がよいかも知れませぬ。卽ち筆法を會得させやうとか、彩色法を練習させやうとか透視畫の法則を會得させ

やうとして課するもので、この成績品は敎師の考で評點を附しても大なる誤がなからうと思ふから、甲乙丙丁の評語や簡單な批評を裏面に記してゐます。尙次の批評や掲示の方法をも併用することもあります。次に

4　創作畫成績品の處理法　玆でいふ創作畫とは、寫生畫、考案畫、記憶畫、想像畫や廣義の臨畫（手本に自己の主觀をもまじへて描いたもの）であつて、これには大人の考へ及ばぬやうな觀察や表現の方法があるから敎師の型に篏つた考のみを以て、評點評語を附けたりすると、殺した取扱になると思ひます。これで私の實行して居ることは、批評、鑑賞、掲示、兒童の互選等であります。

（一）批評を個別的批評と一般的批評とに別けます。

（い）個別的批評。机間巡視の時に行ふものと、課外成績品に行ふ場合とあります。卽ち寫生等をして居る場合に、机間巡視して、誤りをしてゐる兒童に、モデルと對照して批評してやるがこれは最も有効であります。しかし感じの押賣や補筆は絕對に避けてゐます。課外の成績品には必ず畫題を、描かうとしてねらつた中心點、自己の感想、年月日、場所等を裏面に記させてゐます。これは後の參考の爲にであります。これには、その感じが十分に表現されてゐるや否や、美點と大なる缺點は何處か、前回の成績と比較して如何等の批評をしてやります。この批評は口頭のみで返す時もありますが、裏面に記してやる事が多いが、これは父兄との關係であります。口頭のみの批評では父兄は、なまかはで、つけぬと思ふ事があるからである。

（ろ）一般的批評

1　兒童相互の批評。鑑賞の一部として敎室内に掲示して兒童相互に、作者のねらつた感じが十分に表現されて居るや否やを批評させる。この時には最大な美點と缺點とを擧げさせ、生命に觸れた批評をするやうに指導してゐる。

2　他級兒童の批評　休憩時間を利用して高學年兒童の批評をして貰ふことがあるが、兒童は先輩よりの批評として興味を持つて聞きま

す１２共に脫線的の批評をすることがあります。この時は程よく取扱つてやります。敎師よりの批評。前述の脫線的批評の補正と進歩を促し、畫が好きになるやう、槪評を試み、前回と比較して進歩の有無共通の缺點等を指摘してやります。

（二）兒童の互選といふ事をして居ります。一般的批評をして後に各兒の最も良いと思ふ作品二三點宛を投票させて居ります。これは佳作として掲示します。尙敎師の佳作としたものと一致しない時には、それも同時に掲示します。次に

（三）成績品の掲示について述べます。圖畫科に於て重大なる任務を有つてゐる、鑑賞敎授の一方便となし又兒童の發奮努力を促す爲に次の樣な成績品の掲示をしてゐます。

（い）成績品全部の掲示　一般的批評の時に掲示した物をそのまゝ二三日殘すものである。

（ろ）傑作品の掲示　兒童の互選及び敎師の見た傑作品の掲示である。

（は）他級との交換掲示　高學年兒童の傑作品を借りて掲示す。

（に）他校との交換掲示　一學期に一回位行つてゐる。

（ほ）範畫の掲示　敎師の作品、大家の複製品、雜誌の口繪、繪葉書等を掲示する。

以上の掲示に於ては、兒童の發奮努力を促すのと、鑑賞の一方便とするのでありますが、各畫の美點を紙片に記して附することもあります。又陳列方法、畫の配合等には兒童のみに任す事も、兒童敎師共同で行ふ時もあります。畫の配合に依つて一層美観を增すものであるから兒童に陳列させるといふことは鑑賞敎授の上に大なる効果が有るものと信じてゐます。尙鑑賞敎授としては特別に時間を設けて行つてゐるけれども今日は述べませぬ。

發表題

圖畫科に於ける考査に就きて

本巣郡　高田儀十郎君

私の述べんとするは圖畫科に於ける考査に就て一言せんと思ひます。只今九番の方が御發表なさつた事柄と私が述べんとする所とは殆んど共通の點多く今更改めて言ふ必要もなきが如きも、私の實施し來りたる考査方法に就きて各位の御批判を仰ぎたきものであります。

抑從來の普通敎育に於ける圖畫科は單に兒童の外界に存在する通常の形體物象を看取し描く能力を養ひ、且又描き方を授けんとする。極めて低級なる無意味なる敎科目として扱はれ甚だしきは本科を以て厄介視するが如き有樣にして況や其敎授法たるや、實に他律的にして劃一的の描寫で兒童の伸びんとする彼等の內心から湧出する兒童の眞生命を奪ひ、個性的創造力を壓迫して貴き彼等の人格や生命を無視してしまつた。然るに大改造の日は來て時勢の進展、敎育の新潮は遂に圖畫敎育に根本的一大刷新を叫ばしむるに到つた。曰く自由描寫の高調、鑑賞敎育の鼓吹、創作表現の絕叫となつたのであります。

私は先年近畿方面の諸校を視察し奈良女高師を視察せし時、同校橫井氏の說を親しく聞きて大いに感銘する處があつた。況んや私が且つて抱きつゝあつた兒童成績品の處理方法に就きて同氏と大いに共通點を見出して甚だ意を强くしたる次第で有ますが、要するに圖畫敎育の向上振興策と言つては餘りに大きいが、純眞なる兒童をしてより以上に圖畫的趣味を涵養して益〻彼等をして努力せしめんには成績品の處理は勿論、彼等の描かんとする心理、描寫能力を我々敎育者は大いなる注意と敬意とを以つて査定すべきであると思ふ。實に過去に於ける成績判定は、敎育者の無定見なる專斷であつた。其の結果たるや、幼き彼等の歡心を悲し

き自暴とを買つたに過ぎない。純眞なる彼等の全人格の表現辛苦の結果に對しては吾人は熱愛の至情を以つて公平に眞に同情を以て測定したいと考へます。敢て私が本題を掲げて逑べんとする微意は此處にあるのであります。如何なる學科でも考査せんとする對稱は其の教科の學習目的に依らなければならぬ。然して圖畫科にありては即ち兒童の美的感情の陶冶をなし美を愛する純眞性を啓發する所にあると思ひます。故に私は本科の考査すべき點は此の鑑賞能力及描寫能力の如何を査定するにありと思ふ。故に考査の眼目は此の見地よりして鑑賞能力の描寫表現能力の如何にあると確信致します。私は更に此を今少し立入つて逑べたいと思ひます。考査の要點を分類すれば即ち次の如くにして私は査定致して居る次第です。

- 鑑賞する力
  - 形式美に關する方面
    - 1 形狀に對する美的判斷力
    - 2 色彩に關する方面
    - 3 空間的關係に關する方面
  - 內容的の美に關する方面
    - 表現せられたる物の彼等の理想化せんとする其の感じ深淺、强弱、正否如何を見るのである
- 描寫表現能力
  - 畫かんとするものを受け入れる方面
    - 1 材料のとり方良否
    - 2 看方考方の良否、正不正
  - 描寫表現する方面
    - 1 描寫の遲速
    - 2 形狀、コムポヂションの美醜
    - 3 意匠考案の良否拙、巧
    - 4 色彩の如何等

次に如何なる場合に考査するかと言ひますと、私は斯く考へます。あらゆる兒童の表現、教室であらうが運動場であらうが、机上であらうが、苟も兒童の描き表はしたる時は即ち考査の機會である、故に我々は細心の注意と努力とを以つて彼等の圖畫的能力を洞察して彼等を益々刺激して向上せしめなければならぬ。

私は考査する場合先づ描寫前の彼等の態度を注意する。次に描寫中の半成品に就て及完成品に就て調査致して居る。

大體右申逑べたる如くにして考査致して居るのでありますが、其描寫能力に就ては兒童各自が自己の力の如何なる程度にあるかを自覺せしめ發奮せしむるが爲に私の受持學級には其描寫成績の表を作成して居ります。其成績品は毎回出來得る限り展覽してやります。全部を黑板上に竝べて各自の自由なる鑑賞批判を行はせ尙佳良なる成績品は表裝して展覽して居るのであります。幾分は効果あるものと感じて居ります。評點は私は優、甲、甲下、乙上、乙、丙、丁の七段に分ち學期末には家庭へ報知する樣に致して居ります。私の主義としては成るべく出來得る限り個別的に評價したる成績物に就て又描寫中にありても彼等の相談相手となり半面には前申上げたる如く彼等の鑑賞能力の如何描寫能力如何を測定致し出來得る限り公平に同情を以た判定を期して少したりとも兒童等の圖畫科に對して面白味を感ぜしむる樣に致して居ります。

質問討議

議長　以上三題に就いて質疑が御座いますれば此處で承ることに致します。

（中村保君）　加賀虎馬三君に御尋ね致します。兒童の世界と言ふ中に在る藝術の意味は世の中で言ふ藝術と同じに認めますか。

（加賀虎馬三君）　私は私の藝術觀を持つて居ります。兒童の生活を例に上げてそれを味ふことによつて兒童の藝術觀を認めます。

（中村保君）　更に承りますが私は小學校の教育ではどんな風にしむけるかゞ重要な問題だと思ひます。御意見や印刷物は誠に立派だとは思ひますがさすれば藝術的の意味は如何ですか。

（加賀虎馬三君）　的は私の誤植ですから左樣御承知下さい。

（中村保君）　着物の上におへそやちゝを書いた畫で能事終れりとの御考ですか其へん御尋ね致します。

（加賀虎馬三君）　只今例に上げた樣な事は兒童の生命であつて圖畫教育の眞髓かと思ひます。

（平塚庄次郎君）　四十八番に御尋ね致します。其御發

表の主義で小學校全部を御通しになりますか。

（加賀虎馬三君）左樣であります。

（河野大助君）四十八番に御尋ね致します。そうするとうそを書くことになりますが差支はありませんか。

（加賀虎馬三君）子供はそんな畫を書くと言ふことを申上げたのであります。

（河野大助君）表現の意味は如何でありますか。

（加賀虎馬三君）自分の世界觀を觀賞した時表現が出來るので感じた美を表すし方です。

（河野大助君）表現派と言ふた樣なものですか

（加賀虎馬三君）それは違ひます。

（中村保君）四十八番の言はれることは徹底しない感じが致します。私は四十八番に申すのではありませんが實際困ることが多い樣に思ひます、帶の上におへそを書いたものを見て藝術品だとはどうしても見ることが出來ない、之は偶然に兒童の書いたものである、美的軌範によつて追々發達したものでなくてはならないと思ふ、いたづらに兒童の表現のみを見て喜ぶのは不可解であります。

（加賀虎馬三君）三十二番に御尋ねします。何を書かせると言ふことが分らねば圖畫敎育は出來ませんがあなたは何を書かせる御考ですか。

（中村保君）私は感じは大切でそれを表した時は面白味はありますがそれを藝術品上とは言ひません。

面白味とは何の事ですか。

兒童の個性生活を表現したものです。

それが私の言ふ圖畫敎育なのです。

發表題　圖畫敎授用塗板の簡易製作法

揖斐郡　野村雋吉君

私は圖畫を黑板上で敎授する際どうも黑い板に描いて示しては不充分な感じが致しました。何とかして白色若しくは其の他の色を含んだ塗板に描いて示し度いものだと思つて居ました。所が一昨年縣敎育會の開かれた時、或る商店が此の種の塗板を賣出しに參つて居ました。そしてそれは誠に理想的のもの丶樣に見受けました、而し價額が隨分高いので到底田舍の貧弱な私等の學校では購求する事が出來ません。それで何とかして之に似寄つたもので極安價に簡單に製作する事は出來まいかと思つて此の樣なものを作つて見ました。之は固より餘り理想的のものではありません。又耐久力も商品とは遙に劣つて居ります。而し塗換さへすれば隨分長く使用出來るものと存じます。今日の如くクレオン畫全勢時代にはこんな樣なものに色チョウクを以て兒童に示したならば、描法、色彩共にクレオン畫によく似たものが出來て好都合だと存じます。

さて之れを製するには次の樣な材料が必要であります。

材料、滑にして丈夫な板、厚きビー紙、三千本膠、粗製胡粉、糊、色

製法は次の順序に致します。

一、右の板にビー紙を固く張り付くること。

二、粗製胡粉を乳鉢にてよく磨碎くこと。

三、三千本膠三本計を水一合位の割に溶したる液に前の胡粉十匁位を入れて隨意の色を施しよく攪拌すること。

四、ビー紙を張りたる板に前の液を二三回塗ること。

發表題　透視畫に就て

加茂郡　川合爲一君

A　自由畫　兒童の人格尊重は最も肝要である。注入を事として創作的敎養を忘れてをるのは確かに現代の弊である。しかしながらもし兒童の圖畫は兒童の領域に偏して兒童の心理を無視するは誤つてをる、模倣

であつて敢て大人の口を挿むべきものでない、そは兒童の人格を侵すものであるといふが如き絶對無干渉を標榜する論者あらば、模倣なくして創造ありや、交渉なくして敎育はなし得べきや、と反問したいと思ふ。

B　鑑賞と描寫能力の助長　鑑賞方面の忘却亦現代の弊であらう、しかし、それのみで美的訓練が十分できて描寫能力養成の必要がないといふものはないであらうと思ふ、兩者は必ずしも一致するものではないけれども大體に於て相伴ふものである、まして描寫能力それ自身が立派な圖畫科の目的であるに於ておや。

C　寫生と透視畫法　作品に大切である感じとは何より來るものであるか、一、形態　二、色彩（明、暗、調子、陰影）三、線（方向、强弱）四、空間關係（構圖）これを離れて求められるものでない、筆者の人物、着想の巧拙これらを透してあらはれるといつてもよからう。中にも形態は主要なる分子であると思ふ、勿論物によつて何れを主とするかは異るべく何れも重要な要素ではあるけれども。かの感じ〳〵とやかましくいふものといへば太低は甚しく形態を輕んずる風あるは誠に誤れるの甚しいものと思ふ、而して形態を重んずべしとせば、そは先づ寫實を第一とせねばならぬ、實物と畫面との關係を科學的に研究するのは卽ち透視畫法であるから、透視畫法の重要視すべき亦論がない筈である。

D　表現慾と描寫能力助長　畫法を無趣味に注入して兒童の圖畫趣味を阻止し、時には寧ろこれを壓にしむるに至ることとあるは、之を認める、しかしそれは畫法の罪ではない、罪は敎授者が兒童の心理を解せぬ所にある、短所をけなさず長所を賞揚せねばならぬ、非常に難しいものだ自分は到底だめであると、いふ感を懷かせてはならぬ、つめこまずヒツパリ出す、僅かに一歩だけ先んじて不知不識の間にこれを誘導する方法をとらば、表現は益自由となるべく、欲求は益盛となるべき筈である。

E　透視畫の誤れる見方　透視畫が一般に重要視されざるに際し、更に又寫生とは沒交渉の如く言つた人がある、而も其人が我小學校圖畫敎育會に於ける錚々たる人であつて斯樣な研究會席上の講演といふにいたつては誠に慨歎にたへない。其講演の一節に「地平線下に於ける圓筒を眺めた時透視畫法よりいへば下の方程目を去ること遠ければ細くすべきである。又視點を左右に距りたる水平なる圓は透視畫法にては楕圓の長軸が水平にはならない、今これ等をその通りかけば却つて實寫に見えない。」其他色々の例をあげられたが何れも一應尤らしいことばかりであつた、しかしそれは、一、視野、距離、位置の無視もしくば、二、畫面透視畫法の種別の誤謬等畫法理解の不徹底の結果のみ、透視畫は決してさる實際と沒交渉なる不用の長物視すべき畫法ではないのである。平行透視畫法で主要なる物體を視點に甚だ遠ざけておくもの、圓の透視を正楕圓ならずとするもの等誤つた敎授をよく見ることがあるが何れも研究の不徹底のためである。

F　結論　透視畫法は尋四より大意を授ける樣加へられてあるが必ずしも其處で授けねばならないとは思はないけれど適當の方法により適當の時機に一歩一歩と其理を覺らしむべきものである。苟も圖畫科を擔任する敎師は相當に本畫法を研究しておくべきものである、少くも敎師だけはこれに適してゐなければ本科の目的を到達せしむるに遺憾があるものであることを切言したい。

發表題　農村の手工科に就て

郡上郡　村井清吉君

一、落口合の日常使ふ物價は依然として高價を唱へられ益々農村の疲弊を來す樣になるだらうと思ひます。之であるから小學校の手工科も之れを課す上に於ても大いに意義あらしめて農業以外の副業的製作品を作る基礎的の修養を與へなければならないと思ひま

す。今後も尙農村の手工科に就て研究する必要があると思ひます。

二、農村の製作品

農村の製作品は特別の原料費を要するのではありません農耕によりて得たる副産物や天產物を巧に利用して作つた物で從つて專門的なものでもなく美術とか工藝的とかの方面から見ましても原始的で粗製的の物であるかと言ふに決して左樣なものではありません。

農民は常に素朴な親しみを以てゐまして自然に接觸してゐます。そうして其樣な田園生活そのまゝの情緒が農民の頭腦に反映して具體化されましたところのものが農民の美術的製作品ではないでしやうか。

三、我村製作品の現狀

私の村は八幡町に接續して居りますので之等の製作品の販賣に誠に便利でありまして殊に郡農會の催にかゝる日用品の糶賣場で依託販賣をする樣になるので相當利益がありませう。

そこで我村農業者の副業的製作品の製作の時期は大牢冬季でありまして氣候の關係上冬の大牢は爐邊で生活を續けなければなりません此長い冬の間に製作しますので手際よくやります者はなか〳〵利益を擧るのであります。

種類を擧げますと藁細工とか竹細工などが大多數でありまして原料は彼等の最も親しく接觸してゐますもので其の性質も材料を得る方法も知り盡してゐますから總べてのものが生して使つて作つた物が多くございます。

そうして兒童の頭にも之等の細工物の觀念が先天的に先入主と成りて浸込で彼等兒童の素朴な想像力にも趣味上にも影響をあたへてゐます。

其の實例としましては本校の兒童は十一、十二歲頃から段々農村的製作物に親しむ樣に成りまして十三歲頃ではずつと進步いたしまして自分の用ふる草履や下駄の緒などや家庭で用ふ簡單な道具などを學業の餘暇に作つてゐます。

處で近來此等の良習慣が一般農村に於て年々歲々退化して頽れてくる樣ですから特に此の點に注意いたしまして本校では尋常一年から四年までは世間一般に配當せられて居る敎材を課して居ますけれど五六年頃からは其れに農村向の地方化した手工敎材を課外に加へてゐます五六年はごく初步の簡單なことでありますから我々も指導出來ますが高等科や補習學校へ配當いたします樣な困難な敎材になりますとその作業に熟練した老人等を雇つて指導せしめ樣と考へて硏究して居る次第であります。

補習學校や青年會等では數年前から每年製作品の品評會を開いて之を奬勵し其の製作物は共同販賣にして雜誌などを購讀して居る樣です。

四、學校に於て材料を得る方法

なるべく自然物を利用することや種類や性質を知らしめる考で藁細工に用ふ藁は自作の田から取つたものから丸木細工に用ふる材料は山から直接切つて來るとか薪の中から選ぶとかして蒐集せしめてゐます。下級で使ふ粘土も學校の附近から澤山出ますからそれを利用してゐます。

こう致しますと材料を整理する點が非常に困離ですがそれは個別的に適切なる指導を致して居ります。

故に現在の樣に敎育品代が非常に暴騰してゐます學用品の節約を唱へられる時に多大の經費を充つると云ふ事は容易でありませぬが本校では手工の材料費は極て少くて宜しくあります。

五、成績物の取扱方法

しかし兎角自然のみに親しんでゐる兒童は至つて自由に樂天的に力ある創作的の製作品を作りますから模倣と言ふきらいは少しもございませんが自分の創作品の意匠技巧の反省とか相互の批正とかをする對照物、地方的工業の種類及これ等に關する槪念を興ふるための參考品の少しも得られない淋しい村落の事ですから兒童自身の製作物の優良のや獨創的の作品や農產的副產物の模範的の物などを集めて自由に觀察する機會を與へたいと思つて居ります。

次ぎに列べてある製作品の種類は私の村で製作して居ます副產物の主なるものであります。

藁細工

細繩(壁下地繩)	中繩(荷造繩)	黍　箒	豆　靴	七五三繩
下駄の緒	石吊畚	大繩(荷造用)	稃心箒	草履靴
草履深履	草　鞋	砂利畚	井戸繩	機械箒

菰　米俵　莚　しざ　箕
被蓑　しゆうたん　腰蓑
ねこだ　胴蓑

此外竹の皮や菅等を原料として上品な美的な草履や莚を作つたり麻を用ひて麻繩も色々の種類を産出せしめてゐます。

竹細工

魚串　煙管筒　團扇挿
笛　籠類　ぬきなし
まごの手　菜箸　布帶の柄
柄杓　筆立　たまりだて
がんごじ　竹箒　簓（箒子）
火吹竹　文絞竿　花筒
笊類　饂飩揚　簀
杓子挿　手拭掛　卓上三脚生花臺

質問討議

議長、以上三人の發表につい質問をねがひます。

「河野大助君」透視畫上机の近くに置いては惡い理由は如何ですか。

「川合爲一君」物體を正しく視野の内に置かねばならぬ。それは書かんとするものは視野の限界に依つてきまるからです。描く物を机の横に置くは視野外になるから正確に描くことが出來ないだから其方向に體をむけて畫かしめねばならぬ。又教師畫くものを手に持つて黑板に板書するときは教師には適當な距離であるけれども兒童から見ると距て過ぎてゐて、完全でないものとなる描く者の一倍半の距離を保たねばならぬ。

討議題　手工科と理科との連絡の良法如何

稻葉郡　勝野貞一君

手工科で眼や手を鋭敏器用ならしめ様とする事を重んじ過ぎる爲かその製作する物品は完成した物品を見てそれに倣つて製作させる模作が多い。模作もなくてはならぬが其の製作の過程に於ける理科的智識の應用を顧慮した智的取扱が足りない。これをもう少し技能に智的を加味して理科との聯絡を計りたい。これは既に定められたる物品を製作する場合で有が尚一歩進んで理科に於ける原理原則を出發點としてそれを應用して創作的自由製作をする樣に誘導する方法はないか。理科的手工的教材として凧とかポンプとか乃至は飛行機までも製作をしてもそれは一の形を見ての模作であつて創作ではない。これでも兩者の連絡は取れんではないが理科の理論を手工によつて具體化する樣に考案する事が發明發見の基をなすのではなからうか。

かういふ見地から一つの原理原則を使つて其の製作品が實用であると否とに論なく種々雜多の物を作つて見るといふことは發見的才能の乏しい我國人としては最も必要であつて小學校兒童から相當の訓練を與へてもよいと思ふ。然し何の據り所もない抽象的理論をもとゝしてだけでは兒童として仲々容易の業ではないその良法如何といふのである。

（橋本祝二君）

題意をよんでみますと「手工は手工獨自の目的よりして模倣が多くて創作が少い云々」とありますが私はこんなことは斷じてないと思ひます。若しありとすれば手工教授の方法が惡いのだと思ひます。この點は發題の意見に同意が出來ません。然し手工に於て理科的取扱が不足だといふことは發題者と共に私も深く感じてゐることであります。然し發題者はこれが爲に自由製作をして理科的實驗器具を作らせたいと云ふお考の樣ですが甚だ結構であると思ひますがこれは唯一部分の方法であらうと思ひます。私は今少しひろく考へて如何にして聯絡すべきかを述べてみたいと思ひます。

一、兩科の目的上から考へますと

元來理科は自然物及自然の現象に關する一般理法とこれが利用の道を會得させる教科であります。手工は自然物人工物を使用し自然界の理法を適用して物品製作の能を得しむるものであります。かゝる見地から私は此の兩科を考へますと其の本質に於て密接不離の關係があると思ひます。この意味に於て發題者が已に着目せられつゝあることは

甚だ結構なことゝ思ひます。

二、聯絡の方法

然らば如何にして聯絡すべきか順を追ふて申上げて見たいと思ひます。

1　教師側から

理科の教師は手工の教授をなし得、手工の教師は理科の教授をなし得る者でなければならぬ、理科の教師だとて器具の製作や修繕が出來ない樣ではいけない、手工の教師も化學的物理的智識を根底とした技術をもたなければならぬこれが聯絡の第一だと思ふ。

2　教材の上から

先づ理科で授けた原理原則を應用して色々の物を作らせる例へば重心を授けてヤジロベイを作らせ、空氣を授けて空氣鐵砲を作らせる等の類であります、然しこれは理科で授けたからとて直ちに作らせることは出來ないことは當然です。卽ち工具の上から材料の上から工作法の難易の上から見て出來ないのです。故に適當の學年で適當な教材を作らせる樣にしなければならないと思ひます。後に陳列してある私等の作りました實物細目はこの點に十分顧慮致しまして所々に理科的玩具だとか理科的器具だとか交通機關だとかいふ課が設けてあります。どうか御覽察下さいませ。

次に理科實驗に關する器械器具を作らせることであります、これも出來得る限りやりたいと思ひます。然しあまり強く考へてこれを作らせることが理科と手工との聯絡である樣に考へたくないと思ひます。

今夏期休暇に東京高等師範で開かれた文部省主催の手工の講習の時にも講師阿部七五三吉先生が『理科と聯絡と云つてやかましく云ふが必ずしも理科の器械や器具のみを作るが聯絡ではない鉋の頭を叩くとなぜ鉋身が拔け出るか釘はなぜ斜にうつと丈夫なかといふ樣な理窟を知らせていくのが眞の理科との聯絡である』といはれまし。私はこの點に大いに共鳴します。そこで私は私の作りました手工の細目につきまして材料、工具、工作法を片端から考へてみましたが一として理科的でないものはありません樣に思ひます。勿論中には理科的色彩の濃淡はありますが必ず其意味がある樣に思ひます。手工則理科とまでいひ得るかと思ひます。故に材料、工具、工作法に於て理科的取扱をしていくことが大切だと思ひます。

尙別紙印刷物は教材の上から見ました前に申しました兩方面からして兒童に作らせ得る樣な理科的器具玩具器械等の一部を書いたのでございます。

多少とも御參考になれば結構に思ひます。

尙手工展覽會場にある成績品の中には特に私がこの方面に意を用ひました作品も澤山ありますつもりですから御覽を願ひたいと思ひます。

3　成績品の上から

尙聯絡の一方法として成績品の取扱であります一例をあげて申しますれば、展覽會場の中に高三の子供の作つたものゝ中に米搗機が二三あります。あの中にも輪軸の理を應用したものとせぬものとあります。これを批評する時に其輪軸應用がしてあるものと否らざるものとを比較して批評することが大切なことゝ思ひます。こんな例はいくらもあります要するに成績品の處理批評單に作品の巧拙のみならず其考案の優劣理科的應用の如何等にも着目して批評するがよいと思ひます。

以上申しました點に注意して兩科の聯絡をなるべく圖ることが大切だと思ひます。

理科的手工教材

橋本祝二君

空氣に關するもの

風車、押車、矢車、廻り燈籠、紙鳶、凧、風船、竹

トンボ、飛行機、空氣鐵砲、扇子、團扇、フイゴ、扇風器風の起る實驗器

水に關するもの

ポンプ類、サイフオン、水の反動車、水の壓力試驗器、水鐵砲、霧フキ、バーカー氏水車、眞空噴水器、水車、船、汽船、ヨツト、軍艦、モーター、水入

光に關するもの

百色眼鏡、反射實驗器、混色獨樂、暗箱、寫眞機、混色板、太陽の高さと方角測定器、活動寫眞の原理を示すもの、手燭

熱に關するもの

線膨脹計、發火點實驗器、火吹ダルマ、簡易蒸氣機關、寒暖計、蠟付敎材、鐵材等の鍛工、自動車

音に關するもの

鳩笛、尺八、橫笛、單弦琴

力に關するもの

慣性實驗器、滑車、楔螺旋の應用器具玩具、轉上體、斜面振子、天秤、轆轤、重心應用器具玩具（ヤジロベイ）彈力應用（空氣鐵砲）挺子の應用（スミ挾ミ、試驗管挾ミ）せみの模型

電氣に關するもの

電氣蝶、電氣渡金、押釦、電鈴、電動機、電信機、電車、精米機、絕緣臺

磁氣に關するもの

磁石、磁石を應用せる玩具

化學に關するもの

酸の腐蝕をなすもの、藥液の着色、ワニス、ペンキ等の塗法

發表題　余の取れる圖畫科の成績を向上せしむる一方法

大垣市　林　長　雄君

一

私が圖畫科の成績を向上せしむる方法と題すれば成績本位のみに捕はれて居るが如く考へられるが私は只單に美麗なる成績品を得ることのみを以て成績が向上したとは考へないのである。

元來美しく描くことのみが圖畫科の本質ではなくて各自の持つて居る思想や感情を正確に美的に表出することが其本質と考へる。即ち個人の思想や感情が主體であるから兒童成績品としてはこの主體發表の結果になつたものでなければ生命がない。故に個性の閃き感情の流れのある成績品を以つて眞の佳き成績品と考へるのである。

二

そこで私の取つた其方法といふのは、愛畫會といふ樣な名のつくものを組織したことである。

一體圖畫の直接敎授時間にあつて題材は比較的一定的で尙又比較的智的取扱をする事に急であるから（勿論比較的の話である）のんびりとした圖畫が得難い樣な感じがする。そこで私は兒童各自に思ふ存分の圖畫を描かしめてやりたいと考へて愛畫會を組織した。初めは圖畫の好きなもののみが一週間に一枚以上の圖畫を提出することにした。兒童は最早愛畫會なるものの名だけで圖畫に對すと氣分が異つて來た。

而して最初は會員の氣に入つた好きな材題を撰ばしめた。そして自由に描かしめた。後追々と寫生を奬勵して靜物畫、景色畫等を課題とし材料は各自隨意に撰ばしめた。

かうすると會員が多くの場合各自の好きな圖畫を描くのであるし、時々課題もし撰材に對するヒントも與へるから自由畫反對者の唱ふる所謂、「行詰る」といふ樣なこともないので圖畫に對する趣味が旺盛になる「好きこそ物の上手なれ」で、趣味と共に成績は向上するのである。こうして得られた個性の表はれた各自の氣分の現はれた作品を敎室の後のこました額に掲げたり机の上に列べて兒童相互に鑑賞せしむる。

勿論敎師も之れに加つて幾分の指導（例せば明暗、遠近、寒暖等）をなす。是れによつて美的感情が表はれ圖畫に對する理解が充分出來るので圖畫趣味は益々湧く。而して全級の兒童も其れに引き付けられて行くのである。

尙成績品全部をまとめて各學期一回づゝ愛畫會の展覽會を催すのであるかの先生の手を加へられたる圖畫

展覧會、先生畫の展覧會か兒童畫の展覧會かわからない様なものとは異り實に伸び〱とした展覧會を催すのであるそしてそれを全校の生徒に見せる、後愛畫會員が相互に投票して優劣を決定するのである。かうすると會員は圖畫に對する自負心が出來、益〻圖畫に向つて勵むことになる。

趣味を以て勵むことになれば其處に成績は向上進歩するを考ふるのである。

三

私は四年前から前述の施設方法を五六年に課して成績が伸びる様な感があつた。

折しも山本氏の自由畫敎育説が表はれ個性尊重が叫ばれるので益々意を強くし極めて平凡な方法とは考へ乍らも玆に御話し申して諸賢の御批正を仰いだ次第である。

發表題　圖畫趣味養成に就て

揖斐郡　野原惇一君

本問題は實に廣汎な意味のもので、既に各方面より種々論議されて居りますので今改めて此に愚論を申し上げる要も有りませんが、唯過去に於ける私の圖畫敎授中特に趣味養成に資したと思ふ二、三の要項を申し述べて見たいと存じます。

【一】學校。（我校としては大體寫生中心主義により大いに寫實力の向上につとめて居る）

A　兒童製作品の鑑賞。

イ、展覧會……………學級、全校、分團（我校にては各村はそれぞれ分團と云つて居るしたがつてこれは學校で無くて各村々で上級兒童が主催する。）

ロ、揭　示、全體、優良品

ハ、批判、敎師の批判、兒童の批判（作者 他兒童）

B　模範作品に多く接せしめる。

イ、敎師の作品

ロ、兒童の優秀作品（本校のみにあらず）

ハ、雜誌の口繪

ニ、原色版の繪畫及繪ハガキ

ホ、寫眞

C　美術工藝品の鑑賞……特に應用的方面機會ある每に見せる。

例　各種金屬製品。陶磁器類。織物類等

D　スケッチ展覧會。學級。分團。全校

E　揭示板の活用。

（イ）範畫、優秀作品及其の批評等揭示

（ロ）每月一回以上、其月の代表的行事等を揭示（例へば運動會。オ祭。オ月見等の繪）

（ハ）特別指導事項の揭示

例　各季節每に其景色寫生上の注意事項。新年繪葉書圖案法。各種考案畫問題（○△□等の連接による形の研究の如し）等

【二】家　庭

A　スケッチ散歩（室內スケッチ會）

日曜日を撰んで特に各分團每に敎師一名の監督の下に行ひて、其の作品に對しては敎師も兒童も共に批判研究を重ね、これを翌日學校に持參させて更に敎師及他兒童の批判を加へて思考させる。

B　平素餘裕の時間あれば各種のスケッチを取らせ且又五分か十分宛を利用して模樣の單位を作成させ他日圖案敎授に利する樣にして居る。

（圖案の時はこの平素貯へた所の單位をスケッチブックより取出して配列すればよいので兒童實際に於て大なる趣味をもつて居る）

又細目編成上にも前述の各項を基礎として寫實力の養成（寫生中心主義）につとめ兒童の自由意志の圓滿なる發表を得せしむる樣にして以て圖畫科に對する趣味を向上せんとして居ります。

発表題 **低學年圖畫教授に就て**（繪心を養成するには）

可見郡　中川大映君

イ　一、兒童心身の發達に考慮を要す

一、趣味的敎材を撰ぶこと

一、季節時期に適合せる敎材たること

二、美的要素を具備するものたること

三、日常目撃するものたること

四、他敎科と連絡あるものたることとなるべく右要項を具備する敎材を活用して最も説明を巧妙になし兒童をして面白く感ぜしめて描かしむるにあり。

五、

イ　無生物　春モチ ヒバチ　夏フウセン 川フネ チャウチン　秋カヾシ ハタ　冬ダルマ キネ

ロ　生物　春タンポポ　夏ウリ　秋カキ　冬

ハ　活動的　春チフ　夏セミ　秋スヾメ　冬ウサギ

ニ　壯觀的　春日ノ出　夏ニジ　秋月ト海　冬スキー

ロ、趣味の變化（兒童周圍に於ける著しき社會的時事）

一、春門松飾　夏ボートレース 角力　秋運動會 演習（軍）　冬モチツキ 雪合戰

二、其の他發突的時事

ハ、發表的觀念の幼稚

普通名詞をとり其の概念を發表せしむるを要す

一、橋、島、家、牛（概念發表敎材）

ニ、眼及手指の發達

眼は手指より先進。手指は遲る故に下學年に於ては觀察練習よりも手指の練習を主とする敎材を撰ぶを要す。

（一）空と原野（鉛筆を横に）

（二）森（同横斜に）

（三）諸種の簡易なる輪廓畫を塗抹せしむること（鉛筆を各種に使用）

ホ　成績物取扱ひ上の注意

一、劣等兒と雖も自暴自棄に陷らざる樣前成績と比較し採點評語を與ふるを要す。

二、優等生と雖も慢心を起さしめざる程度に前成績と比較し採點評語を與へ一層の努力をなさしむるを要す。

ヘ　處理法

一　全級兒童の成績陳列

二　優等兒童の成績陳列

三　進歩と認めたる成績の陳列

四　全級兒童の成績家庭廻覽

五　他校との成績物交換　相互批評

ト　兒童年齢に適當せる繪を多く見せること

イ　概念發表

ロ　觀察練習

ハ　思想發表

発表題 **我校の圖畫鑑賞教授**

吉城郡　山下泰助君

一、鑑賞敎授の必要

（1）美的陶冶より見たる鑑賞

吾人が美に對して二つの方面がある一は美の創作で一は美の鑑賞である。從來一般に美の創作の敎養は重んぜられてゐたけれ共美の鑑賞とい方面は比較的に輕んぜられてゐたかの感がある。圓滿なる美的陶冶をはかるにはどうしても此兩方面の調和的發達を必要とする。

（2）圖畫科の目的より見たる鑑賞

圖畫科本來の目的とする所は要約すれば大體次の樣であると思ふ。

美的陶冶｛描寫能力の養成／鑑賞能力の養成｝

即ち圖畫科の目的は描寫能力の養成と鑑賞能力の養

成とが其の中心をなし最高の使命は美的陶冶である。描寫能力のみを重んじて鑑賞能力養成に缺くる所のある圖畫教授は眞の圖畫教授といふ事は出來ぬ此の兩方面の能力養成をはからねばならぬ。

二、鑑賞教授の價値

(1) 美を樂しむ事によりて精神的の樂を得る事

世は道德的世界であらねばならんと同時に美的の世界であらねばならん。これによつて熱のない沒趣味の世界に熱あらしめ趣味あらしむるのである。

人は美的感情を持つことによつて自己の周圍より美を見出すことが出來て生活を美化する事が出來るのである此の幸福は造化の神の吾人に與へた權利である。此の悅樂は上流下流を問はない貧富を論せない實に平等なものである。吾人が日常の生活より美を認めて之を樂しむ卽ち生活則美とでも觀する事が出來る樣になつたらどれ位幸福かも知れない。殊に現代の傾向は物質的に走り低級なる趣味に快をむさぼらんとする今日高尙なる藝術によつて之が療養を試るといふ事は最も大切な事である。

(2) 德性の涵養に資する事

一國の文化と國民の品性との關係は言ふ迄もない高尙なる品性は高尙なる藝術に依て養はれるのである。美醜を識別するといふ考はやがて善惡を識別し美を好むといふ念はやがて善を求めんとする心を養ふものである。實に堅實なる德育の基礎は堅實なる藝術に依つて養はれるのである。

(3) 美術眼を高めて工藝の進步を促す事

工藝の進步は富國の母である。平和の戰爭に於て優勝の位置を占めんにはどうしても意匠に於て考案に於て優秀の物品を作らねばならぬ。しかして工藝の發達は少數なる創作の專門家のみによつて出來得るものではない、全國民の是に對する水準が高まらなければならない。全國民の鑑賞眼の低い間はどうしても立派な作品は出來るものでない。

其であるから製作の方面に就ては少數の創作的天才にまつべきものであるが一般としては美の鑑賞的修養を必要とするのである。小學校の圖畫科についても此の意味の考へを必要とする。

(4) 描寫創作力の原動力となる事

一般に都會地の兒童が山間地の兒童に比して藝術的

思想は豐かである又表出も巧妙である。之は常にいろ〳〵の藝術に接して之が刺戟を受けてゐるからである。多くの美術品を鑑賞せしむる事によつて美的思思を豐富にし描寫創作の原動力とならしむる事が大である。

(5) 美術上の常識を養成する事

美術は社會の一要素となつてゐる。是が常識を養ふといふ事は他日社會に出でゝ活動する人としての資格を全ふせしむる所以である。

三、鑑賞資料選擇の標準

(1) 圖畫科の目的より見たる

鑑賞力を養成するもの

發表力を啓發するもの

(2) 兒童心身の發達より見たる

趣味に適したるもの

季節により、　男女の別により

學年の程度により、境遇により

理解し易きもの

兒童の經驗界又は思想界にあるもの、或は彼等の容易に想像し得らるゝもの

少くとも發表力より一步進みたるもの

(3) 教授の方面より見たる

模式　基本的のもの

構圖色彩等の代表的なるもの

成るべく他教科と連絡あるもの

筆者　畫題等に於て

印畫の優良なるもの

國民性の陶冶に適するもの

兒童將來の常識上必要あるもの

(4) 實際生活より見たる

容易に得らるゝもの

土地の狀況に適するもの

四、主なる鑑賞資料

(1) 圖畫敎科書に出でたる繪畫

現今の手本は所謂描かせるための手本であつて鑑賞させるための手本でない、將來改訂の場合は鑑賞資料を相當に入れてほしい。現行の畫帖に於ても之を取扱ふ場合手本の鑑賞的取扱を忘れてはならぬ。

(2) 大家の作品

日本畫
西洋畫 ｝過去の人 現在の人｝肉筆 模寫
　　　　　　　　　　　　　　　複製

(3)教師の作品
受持教師 自校教師 他校教師

(4)兒童の作品
自校兒童 過去 現在
優良兒童畫集
標準兒童畫集
他校兒童

(5)其他
各種の圖畫手本及圖案集
書籍雜誌の口繪及表紙
口繪集表紙圖案集
廣告のビラ
レッテル類 各種のレッテル集
各種の切拔き 廣告 新聞 雜誌等より
布片 織物 染物等
各種工藝品 彫刻品 陶器 漆器 金屬器 硝子器 木製器具 徽章メタル等
文房具 學用品・寫眞

(6)製圖
建築に關するもの
土木に關するもの
機械器具に關するもの

(7)自然物
山川、草木、花鳥等

五、鑑賞教授の設備

(1)教室の裝飾
特別に鑑賞教室、圖畫教室あれば好都合
普通教室
之等は兒童に工夫考案せしめて裝飾せしむるがよい。

(2)揭示
全校 學級
揭示板は三尺に六尺位の襖仕立の物がよい色は鼠

(3)額
各教室に數枚づゝ備付け置く

(4)展覽會
學校展覽會
學級 自校 他校 聯合
(各學期一回)(年一回)
其他の美術展覽會
神社の繪馬堂

(5)實物幻燈
理科兼用に設備するを得ば幸である。

(6)店頭裝飾等家庭に於けるもの

(7)校園 其他 自然

六、鑑賞教授の方法

(1)兒童の年齡と描寫と鑑賞との關係
兒童は自己の思想を畫として發表する事を好むのみならず他人の作品を見て之を味はんとする傾向を持つてゐるものである。しかし乍ら此の描寫と鑑賞との關係に就ては年齡によつて差があるものである。此點について研究が必要である。

(2)鑑賞教授と學年との關係

(3)鑑賞教授の機會

學年	尋常科 一 二 三 四 五 六	高等科 一 二 三
鑑賞資料の排列	兒童趣味を基礎としたる畫 實的の畫 確に描きたる寫 形狀色彩を正	精圖技工を主としたる畫
	主として兒童、教師及び手本によつて鑑賞せしむ	名畫等の複製品によりて鑑賞せしむ
教授の機會	教授時間外 附帶的の鑑賞時間	特設的鑑賞時間

(イ)教授時間中

特設的
附帶的
(ロ)敎授時間外
掲　示　研究し活用すれば効果大なるを認む
美術品の蒐集、レッテル、口繪、布片等美術品を兒童に蒐集せしむるといふ事は一面鑑賞材料の蒐集となり又蒐集てふ過程に於て美的判斷の練習ともなりて美の應用的取扱として甚だ有効である。
展覽會見學
環境の美化實習
敎室なり校舍なり或は敎室なりを自己の考案によりて裝飾するといふ事は美の應用上有効である。

(4)　鑑賞資料の取扱方法

(イ)說明による指導
美の要素について說明して之を知らしむるのである。此の場合あまり注入的受動的に流れぬ樣にする事が大切である。主として初步の鑑賞時代に採る可き方法である。

(ロ)比較によりての指導
たゞ一枚の畫について美醜を見分くる事はやゝ困難であるけれ共美なるものと醜なるものとを同時に出して比較せしむる時は容易に其の美を判斷する事が出來る。
美なる點を說明し現すことの出來ぬ場合も有効である。
流派の差別を知らせる場合も亦有効である。

(ハ)暗示に依る指導
識別について何等かの暗示を與へて其要點を兒童に發見させるやうに指導するのである。

(ニ)自己判斷による指導
鑑賞を自己判斷によつて行ふといふ事は最も大切な事で指導として最後の理想である。しかして此の場合判斷の正鵠を得てゐるか否かについて指導する事が大切である。

以上は指導方法の主なるものについて述べたのであるが之等は全然其一方法のみによる事は出來ぬ。材料により兒童の發達により適當其取るべき方法を定めねばならぬ。

七、鑑賞の要項

美の鑑賞は直覺的綜合的でなければならぬしかしながら是に達する道程として鑑賞の要素について分解的に取扱ふことも大切である。

(イ)形式美
形狀に對する美
線の美　骨格の美　輪廓の美
色彩の對する美
發色の美　明暗の美　配色の美
排列に對する美
位置の美　區劃の美　組合せの美

(ロ)內容美
物は其自身の目的に適つてゐる時に美しく見える即ち形式によつて表れたる意味內容から來る美である。

八、鑑賞と敎師

敎師の兒童に對する感化の至大なる事は言ふ迄もない。敎師は道德的智的の修養に於て缺くる所があつてはならないやうに美的修養に於ても缺くる所があつてはならない。要は人格が人を敎化するのである。

質問討議

(議長)以上四人の發表に對して質問を願ひます。

(加賀虎馬三)六番の御發表の中に圖畫敎育は美を表はすのみならず思想を表はすとありますが圖畫敎育に目的が二つありますか。

(林長雄)綺麗に描くばかりでなく思想發表も含んでゐると思ひます。

(加賀君)故に二つあるといふのですか。

(林長雄)兩方が圖畫科の本質であると思ひます。故に小學校の圖畫の目的は思想を表はすといふことも其一つです。

(中島光雄)印刷物の六の鑑賞敎授の方法についてゐる特設的鑑賞時間には如何なることをおやりですか。

(山下君)目下研究中で最も意味あるものにしたいと考へてゐますからやらうとしてゐることを申し上げませうか。

五十五番　後に討議題がある樣ですから其節に御願ひします。

(加賀君)圓滿な美的陶冶を以て小學校の圖畫科の目的とするのですか。

四十五番　これは描寫の能力を養成して行くことに

によつて美的陶冶が出來ると思ふ。
三十二番（中村君）鑑賞の要素は如何ですか。
四十五番　鑑賞は假に人間の味ふならば手は手、足は足として切り離して味ふことが出來ずして總合的に見なければならぬ。それで圖畫科に於ては鑑賞もやはり總合的に作品をみることである。

發表題　新定畫帖教材の分類的研究

本巣部　河　合　佐　治　君

第一項　理論的方面よりの分類的研究

第一、位置法

1 位置は圖畫全般に於ける最初の最も肝要なる條件であつて種々の限られたる形（例へば正方形、長方形、圓形、楕圓形、團扇の形、扇子の形等）の中に物體が良き位置を占めたる繪を描かんとする努力である。

2 此の位置法の要素は美の要素と同じく

a 變化　變化あるものは活動して見え賑かに感ずる

b 統一　統一あるものは落著いて見え嚴かに感ずる

が必要である。

3 一個の物を位置せしめる時は全體の紙面の中央部に程好く收めなければならないが物體の種類によつて各注意を要する。

a 上下左右の一方に片寄らせて描くもの
例　尋三　第五課あぢさゐ　尋五　第十九課朝顔

b 畫元より畫先の方を少し明けるもの
例　尋四　第三十一課鳥錦六、第二十一課鷺

c 眼より上に見るものは上部に
｛飛ぶもの　例　尋三第三十四課梅に鶯
｛吊されたるもの　例　尋六第五課提灯

d 眼より下に見るものは下部に
｛歩むもの　例　尋四第三十四課鳩
｛置かれたるもの　例　尋五第十課砲彈

二個以上の物を列べる時は變化と統一とを要することは尋五第十四課に說明してある通りであるが尙種々の場合の注意を要すること左の如し。

a 大小あるものを撰ぶもの
例　尋五　第二十九課　茸

b 形の異なるものを撰ぶもの
例　尋五　第十六課　笠と鍬
　　尋五　第三十九課　インキ壺とペン

c 關係あるものを撰ぶもの
例　尋五　第十五課　盆と茶碗

d 位置の安定なることゝ自然なること
例　尋五　第三十八課　書物二冊
　　尋六　第十二課　卷紙と狀袋

e 畫面の中に同じ種類の物を同一の水平線又は同一の垂直線上にあらしめない樣にすること
例　尋五　第十課　砲　彈

f 畫面に現はれたる物體間の距離は皆異なる樣にすること（三個以上の場合）
例　尋五　第十八課　茄　子

4、畫面の區劃法に就いては尋五第三十二課、尋六第二十九課及第三十八課に說明がある。

5、位置法に關しては上の如くであるが兒童を最初から強ひて此の型に入れようと餘り要求してはならぬ、自然にさとる樣に誘導せねばならぬ。

第二、輪　廓　法

1 位置を整へた後に起るべき問題は如何にして其の輪廓を畫面に描き現はすかといふ事である。描かんとする物體を正しく眼で認識してもイロ〳〵に線が複雜になつて之を畫面に描出することに非常な困難を感ずる。

2 輪廓をとらしむるには見取枠を使用せしむれば比較的容易に大體の形を寫し得る。

3 通例輪廓法には左の三通りがある。

a 物體の外廓の線を描いて段々內部の方に移つて漸次細かく描く方法
例　尋六第十四課羽箒　尋五第十六課笠と鍬

b 骨格式とでもいふべき內部の方から段々外側に擴げて行く方法
例　尋五第二十五課紅葉（主幹竝びに主要なる枝から）

c a b の兩法を同時に用ふるもの
例　尋六第三十課鋼（中心線と體の膨み）

4　尋六第二課配色圖（中心線と左右の膨み）
輪廓を描くに肝要な事は直線にて描くことである。假令物體が種々の曲線を成して居つても大體の線は直線でなければならぬ。然し乍ら之は初學者には非常に困難を感ずるから先づ基本形の練習をせねばならぬ基本形とは次の如きものを云ふ。

基本形
平面（正方形、長方形正三角形、二等邊三角形、直角三角形、菱形、圓形、楕圓形等）
立體（小立方體、方柱、方錐、圓柱、圓錐、球等）

第三　遠　近　法

1　第三學年迄は平面的の描寫がしてあるが第四學年から遠近法が採つてある。併し乍ら此の遠近法の原則を説明するといふ事は困難であるから漸次さとらしむる樣に指導せねばならぬ。

2　教材として尋四に次の如きものが採つてある。
第四課　景色の透視圖　第五課　正方形の透視圖
第六課　石　盤　第七課　圓の透視圖
第十九課　立體の透視圖　第二十課　器物の透視圖

第四　明暗法及濃淡法

1　物體は線のみでは成立つものでない能く之を觀察する時は必ず面といふものがあつて其の面に光線を受ける時は明るい所と暗い所とが出來るものである。然し明暗といふものは餘程複雜したものであるから此の明暗法を教授するには簡單なる幾何形體から始め尙一方光線でなければならぬ。

2　暗いと云ふ部分に二つある。
a　陰　物體其の物についた
b　影　物體が光線の爲に投出されて地面に映つた影

3　尋六第二十二課及第二十三課には立方體に屬するもの圓柱及圓錐に關するものゝ陰影法がある。

4　我が國の毛筆畫は一方光線によつて明るい所を淡く描き影の部分を濃く描くと云ふ事には定まつて居ない見る人の感じによつて濃くするのと淡くするのとが出來るのである。之が我が國の濃淡法である卽此の方法では必ずしも明るい所を淡くし影を暗くしない、故に新定畫帖では線を毛筆にて描くときは日本畫の形式で濃淡を附する場合は明暗法の理窟を毛筆畫に應用すのである。

第五　色　彩　法

1　色彩を教授することに二通りある。
a　著色法　實物を寫して其の物の通りに色を著けること
b　配色法　圖案等に理想的の色を彩色して其の好き調和を圖るといふことである

2　著色の練習は尋常科第一學年より之を授け第五學年以上には配色法を授けて居る。

3　尋五以上に於て特に色彩の教授をなすべきもの左の如し
尋五　第一課　色圖三原色三間色竝びに是等明色と暗色
第二課　色圖三原色の種々の混合色
第三課　色圖評準色の作り方
第二十課　濃淡を異にする同一色の配色法
第二十五課　一の原色と他の二原色にて作りたる間色との配色法
尋六　第二課　一種の原色と其の原色を含める間色との配色法

第二項　教法的方面よりの分類的研究

第一、臨　畫

1　臨畫に於ては先づ範畫を充分觀察せしめ其の實物につき內容の問答を試み觀念を整理し畫題が
a　單なる器物植物等であつたら其の構造組織を明瞭ならしめ
b　景色畫であつたら其の趣向を味はしめ
c　動物、人物等であつたら其の心情を思ひ遣らしめ
d　用器畫であつたら其の描法を記憶し推考せしめ
e　尙位置の美方向の美間隔の美組合せの美背景の美等につき美醜を判斷せしむること

2　新定畫帖の臨畫教材を分類すれば左の如し。

學年＼種別	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
景色	野邊、秋の景色、虹と森、軍艦、家（五）	富士山、稻村（二）	ナシ	ナシ
動物	鼠、猫、梅に鶯（三）	蝶、鳥、鳩、餅、金魚（五）	蝶、蝸牛（二）	鷲、人物、蝶、鳥類、鯛、蝦、顏の諸部（七）
植物	櫻、林檎、薔薇（三）	紅葉（一）	栗、（一）	ナシ
器物	鎌と稻 筐筒（二）	重箱、茶筒 文箱（三）	砲彈、笠と鍬、釜、卷物（四）	茶碗、筆立と栞（二）
圖法	線、三角形、菱形、碁盤目（四）	絲卷の工作圖 立方體の透視圖 箱の工作圖（三）	色圖、模樣、本箱の工作圖幾何形（四）	配色圖 立體の陰影圖（二） 位置の取方（四）
計	十七課	十四課	十一課	十三課

第二、寫生畫

1 新定畫帖に採れるものにては第六學年迄室內寫生のみである。之を描出方法より云へば

a 投影的寫生 例 尋三 第九課 煙草盆

b 透視的寫生 例 尋四 第壹課 文箱

に分つことが出來る之を敎授法より云へば寫生物の大小、長短、員數の多寡、位置の高下等によりて

a 個人寫生 例 尋五 第四課 栗の花

b 分團寫生 例 尋六 第廿四課 バケツ

c 全級寫生 例 尋五 第廿三課 机の工作圖

2 寫生敎材は左の如きものにして卽第三學年に於ては主として簡單なる器物の寫生を行はしめ順次植物及比較的複雜なる器物に進ましめてある景色の寫生は皆無にして動物も殆んど無いと言つてよい。

學年＼種別	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
動物	ナシ	ナシ	ナシ	乾魚、手と足（二）
植物	あぢさゐ、蕪菁（二）	植物の葉、萩の葉、朝顏の葉、蔦の葉、木の葉、慈姑、大根（七）	菊、柿、蜜柑、栗の花、筍、たんぽぽ、胡瓜、茄子、朝顏（九）	紅葉の折枝、植物、桔梗と薄（三）
器物	提棒、壜、角火鉢、煙草盆、踏臺、折紙の兜、本箱、折紙の蟬、團扇、額緣、扇、羽子板（一二）	畫板、國旗、硯箱、湯呑（四）	器具、書物二冊、インキ壺とペン、筆洗（四）	バケツ、手桶、如露、提灯、盥、羽箒、土瓶、硯と筆、植木鉢、包傘、卷紙と状袋、菓子折（一三）
用器畫	四角形（一）	立方體の工作圖、器物の透視圖、圓柱の工作圖、文箱の工作圖（四）	机の工作圖、筆入の工作圖（二）	茶筒の工作圖、圓錐の工作圖（二）
計	十五課	十五課	十五課	二十課

第三、考案畫

1 考案畫は次の二つに分けることが出來る。

a 作畫＝自己の意匠によりて寫生以外に繪を作り出さんとするものであつて其の簡單なものは寫生又は臨畫の組合せである。

b 圖案＝考案力を養ひ色彩の調和を練習せしむる爲に種々なる考案をなさしむるものである。

2 圖案の種類は次の二つに分つことが出來る。

a 平面圖案＝帶狀模樣、單獨模樣、連續模樣、繪畫模樣等

b 立體圖案＝小は器物の圖案より大は建築の圖案に及ぼす

3 考案練習の三階段

第一 單位を工夫すること

第二 單位を美なる排列となすこと

第三 各自の理想を以て配色すること

4 學年別教材配當割合次の如しである。

尋三 四課　尋四 三課

尋五 十課　尋六 七課

5 新定畫帖に現はれたる考案法に關する教材を試に分類すれば左の如きものである。

a 思想發表の練習をなすもの

尋三（海戰、月と海、雪と木）

b 位置に關する考案をなすもの

尋五（二個の物體の位置の取方 盆と茶碗 柿と栗 模樣の單位の配列法、立體面を描く方法）

c 形態に關する考案をなすもの

尋六（器物の形の考案、花瓶の考案、器物の展開圖）

d 配色の考案をなすもの

尋五（濃淡を異にせる同一色の配色練習、本の表紙の配色練習）

尋六（器物の彩色練習）

e 幾何圖形を基礎としたる考案をなすもの

尋三（正方形を組合せたる紋形）

尋四（一點より出でたる線を基礎として模樣を組立つること、正方形の四隅より出でたる模樣の組立て方、透視圖の練習）

尋五（二方連續模樣、帶狀模樣、四方連續模樣、圓形內の意匠）

尋六（四方連續模樣）

第四、記憶畫

1 記憶畫の性質として形及色の觀念を確かならしむる爲に能く記憶させるといふ事が目的である。

2 記憶畫は單に記憶を練つて記憶觀察すべき要點を知らしめ其の着眼を鋭敏ならしむるのみならず考案畫の土臺である所の想像力の基礎を作ると云ふことに至大の關係がある。想像力とは記憶力の綜合によつて或る一種の異れる未だ經驗せざる事を發明する能力であつて圖案の基である。

3 嘗て經驗し記憶したるものを描出する上にも尙左の三通りある。

a 一度觀察した實物を思ひ出して描くもの

b 一度描寫した物を記憶によつて描くもの

c 記憶畫を多少改めたり圖案化して描くもの

4 教材配當左の如し。

尋三（聯隊旗、南天、土瓶と茶碗、紙雛）

尋四（圓柱の透視圖）

尙此の外考案畫と記憶畫と兼ねたものが各學年に多數ある。

第五、用器畫

1 用器畫とは三角定規、コンパス等の器械の力をかりて描く畫法の總稱で其の範圍は頗る廣い新定畫帖にては其の中幾何畫と工作圖とが掲げてある。

2 幾何畫の分類をすると次の如くなる。

a 平面幾何畫＝幾何學の原理を應用して圖を描く畫法

例 尋五 第二十五課 幾何形

b 投影畫＝平面や立體に關する抽象的描寫の方法を說明して工作圖を描く方法を示したもの

例 尋三 第二十三課 箪 司

c 透視畫＝眼に映じた儘の物體描寫の基礎的畫法

例 尋四 第三十五課 文 箱

d 陰影畫＝光線によつて物體が照された時に其の陰と影とが如何なる有樣になるかを研究するもの

尋六 第二十二、三課 立體の陰影圖

3 工作圖に用ふる線卽實線、點線、破線、鎖線（鎖

線)等を明確に知らしむること
4 製圖に關する正面圖、平面圖、側面圖、切斷面圖等につきても充分會得せしむること。
5 工作圖の教材配當左の如し。
尋四(絲卷、立方體、圓柱・箱、文箱)
尋五(本箱・机、筆入)
尋六(茶筒、筆立、圓錐、コーヒー茶碗)

備考 一、以上の研究は本校に於て目下使用しつゝある尋三より尋六迄の間を主とせり。
二、本研究には左の二書を主に參考とせり。
新定畫帖の精神及其利用法　白濱徵著
新定畫帖教授の實際案　藤原代策著

發表題 圖畫教育の系統

岐師附屬　中島光雄君

一、序

自由畫教育論がやかましく唱へられてから、或る自由畫論にかぶれたり、曲解したりして、無軌範無指導の圖畫教育をやる人が出來てきました。

又目的觀のみを論じて、其の實際案を顧みない方や、或は、自由畫論にあきたらないで、迷つて見える方が漸次其の數を增して來たやうに思はれます。

かゝる時に、今までのやうな兒童の個性を没却せしむる系統でなくして、伸び行く兒童の生命を益〻伸し得るところの系統案を作らん爲めに、研究努力することは、無意義な企てではないと思ひます。

で、今私の考へてゐる系統案を申上げて、會員諸賢の御高見や、御批正をお願ひする次第であります。

二、目的觀

吾々の圖畫教育は、小學校教育の中の、藝術方面の陶冶に其の目的が存して居るかと思ひます。

此の目的を達する爲には、美を中心として觀察力、描寫力、鑑賞力、創作力を養ふことによつて成し得らるると思つて、各々一つ〱の系統を調べて見ました。これから印刷物について説明致しますから御覽願ひます。

觀察力養成の所で科學的觀察とあるは知的客觀的の觀察を言ひ藝術的觀察とあるは情的主觀的の觀察を意味するのであります。研究上三種に分けましたが或る物象を繪畫によつて表現する場合には、勿論此の三種は同時に行はれ、又養成されなければならないのであつて、唯々其處に學年によつて大體の主副があると思ひます。ですから線によつて面積に廣狹を作り、其の主副を示したのであります。

此の如き關係が以下にもありますから、其のつもりで御覽願ひます。

三、方法觀

次には方法觀の系統を申す前に描寫心理の系統について申します。

低學年では自分の思想を概念的描寫によつて表現せやうとしますが、中學年になると寫的、知的、説明的の描寫に變つて來ますし、高學年になると美的に情的に表現するやうになります。

言葉を換へて言へば尋一、二、三では表象的描寫をなし、尋四、五では科學的描寫になり尋六以上では藝術的描寫に變つて行くのであります。然し尋三では科學的描寫の傾向を帶んできますし、尋四では未だ表象的描寫を存してゐます。又之と同樣に尋五では藝術的描寫の傾向を帶び、尋六では科學的描寫を殘して居ます。

次には教材の系統について申すのでありますが「教材の系統を如何にすべきか」と云ふ討議題がありますから其の時に申すことゝして省きます。

四 描寫種別の系統　五 用具の系統の説明は省きまして學習法の系統に移ります。

兒童の心身が發達する以上其の學習法も自然其の程度によつて異るが故に其處に系統があるかと思ひます。從來は意を餘り此處に用ひずして劃一的な教授で、約束的の繪を描いて居ましたし、今盛んに唱へられてゐる。或一派の自由畫説は尋一から高等科まで、優等生も劣等生も、同一の教法によつて押通さうとし

て居ます。兩者とも其處に無理はないでせうか。

私は兒童の表現を擴充し生命表現を益々伸し得る學習法があり、其の學習法は始めから終りまで同一の方法では無く、變化して行く中に系統があるかと思ひます。圖畫の表現能力は製作することゝ、製作した成績品や參考品を鑑賞批評することによつて向上して行くのでありますから、先づ其の二つに分けて見たのであります。

鑑賞批評の學習法の系統については圖表の通りであります。製作に就いては私は、自由畫（私の自由畫の內容については又後に「自由畫の具體的方案如何」といふ所で述べたいと思ひます）と非自由畫との二つを取つて行きたいと思ひます。面積の廣狹によつて其の兩者の割合を示しておきました。數字は本校細目にあらはれた學習時數を書いたのであります。

次に如何なる態度で學習させねばならぬかと申しますと、尋一二では圖畫時間には面白く喜々として描くやうにしたいのであります。唯々何んでも好きなものを描きなさいの一天張では學級全體の成績の向上は遲々たるものでありませう。それには他律的學習によつて、感想の流を誘導したり、描寫欲を善導してやつたりせなければならぬと思ひます。別紙學習要目の題材はあの通りに行ふべきものではありません。あれはたゞ參考の爲に擧げたのみですから、兒童の狀態を見て適宜變更したらよいと思ひます。

尋二から尋三にかけて自由畫の時間や課外に兒童は或る種類の繪を多く描くものであります。此の時教師は此れを利用して益々其れの練習をなさしめ、例へば自分は馬が上手だとか、人の顏を上手に描くとかの如く他人より秀でた繪が描けるやうに仕込で圖畫を好きにさせ、課外にもどし〳〵と製作して來て教師に提出するやうな態度を作りたいと思ひます。

尋三の後期から尋四にかけて野外寫生を加へ、圖畫を一層好きにさせ日曜にもスケッチブックを持つて郊外寫生に出掛けるやうにしたいと思ひます。

尋四の頃は概念的描寫が感覺的描寫に變る頃でありますから、先づよく觀て描く態度を作り、次には自己を自覺させ、自分はどうも器物が下手であるから器物を多く練習せやうと云ふ風に心を向かせなくてはならないと思ひます。だから此頃より自律的學習に漸次よらしむるがよいと思ひます。

尋五頃からは成る可く一ケ月一題材として、研究題目を與へ研究させ自覺的に學習されるやうに導き、此の科に趣味を持たしめたいのであります。又其の上に自分が或る場所を選定したなら其處に誰も居なくても、自然にぴつたりと接して眞劍になつて製作するやうな態度卽ち其の物を充情直觀して其の物の本質をつかみ生命にふれた表現の出來るやうな態度を作りたいのであります。

高等科に於いては一層此の科に趣味を持たせ、自學的の學習をなさしめたいと思ひます。

×　×　×

別紙印刷物に本校の學習要目を附けておきましたから御願ひます。

岐阜縣師範學校附屬小學校

圖畫教育の系統

一、目的觀の系統

高等科　尋六　尋五　尋四　尋三　尋二　尋一	目的觀
藝術的觀察／科學的觀察／部分的觀察	觀察力の養成
輕妙の描寫力の練磨・／眼、腦と手との總合的練磨（科學的表現の場合も藝術的表現の場合も行はれる）／手腕の筋肉練磨（迅速大膽の表現）	描寫力の養成
主觀的鑑賞（形式美）／多樣の統一の鑑賞（形式美）／直覺的鑑賞（形式美）／感情的內容（內容美）／形式／內容／寫實的鑑賞（形式美）／部分的鑑賞（形式美）／概念的鑑賞（形式美）／表象的內容（內容美）	鑑賞力の養成

創作力の養成	
概念的描寫をかりて思想を表現する方面の創作力養成	
自然を美的に表現する方面の創作力養成	

備考

一、線によつて面積に廣狹あるは兒童敎師と共に力を入れる分量を示したのである。

二、科學的觀察をなさしめたる場合には同時に部分內的觀察も行はれつゝある而して藝術的觀察を行ふ時は同時に科學的觀察部分的觀察が行はれてゐるのであつて科學的觀察をした爲後學年になつて藝術的觀察に害を及ぼすことはないと思ふ。

二、方法觀の系統

(一) 描寫心理の系統

高等科	尋六	尋五	尋四	尋三	尋二	尋一
←―― 藝術的描寫（趣味的 情的 美的）		←―― 科學的描寫（眞的 知的 說明的 圖的）		←―― 表象的描寫（思想的 觀念的）		

備考

一、尋三にありては科學的描寫の傾向を帶び尋四に於いては表象的描寫を存す。

二、尋五にありては藝術的描寫の傾向を帶び尋六に於いては科學的描寫を存す。

(二) 敎材の系統

(1) 理論的敎材の系統

學年＼理論	透視	平面幾何圖	投影圖	色彩	陰影	圖案	美
尋一	1 兒童の自然の觀察によらしめ多少の指導をなす ←――		1 一面圖 ←――	1 六標準色の名（クレヨンの色の名稱）			兒童の自然の觀察によらしめ多少の指導をなす ←――
尋二				右の外簡單なる混色法（間色）		簡單なる二方つゞき模樣（繰返し）	
尋三		四角形三角形直線の等分法平行線 ――		右の外白地の利用混色法は稍程度を高む（再間色）再間色の名稱（四年までに漸次授く）	兒童の自然の觀察によらしめ多少の指導をなす ――	（繰返中の變化） ←――	繰返中の變化の美 ←――

	尋四	尋五	尋六	高一	高二	高三
	景色の透視附(立方體、圓柱の部分的のもの) 圓柱の透視	右の外 立方體方錐 圓錐 横臥せる圓柱	—	—	—	←
	←	右の外 正多角形 楕圓形	—	←	右の外 建築製圖	←
	二面圖 寸法記入法 製圖規約の一部	右の外 三面圖 製圖上の規約	右の外 展開圖 切斷圖	←	右の外 切斷圖の稍々程度高きもの	←
	←	水繪具の標準色、明暗色、想色の系統 混色法 平塗法 重ね塗法 にじみ込せ法 同一色の配合 類似色の配合	餘色の配合 つきこみ塗法 黒及び白の配合	右の外 金銀の配合	—	←
	←	右の外 立方體、圓柱 圓錐、球の陰影	—	←	稍複雜なる陰影	←
	右の外 内形・外形便化 色彩の便化 景色の便化	右の外 二方連續模樣 簡單なる四方連續模樣 圍み模樣	右の外 四方連續模樣 文字圖案 模樣の應用	←	右の外 繪模樣 立體圖案	←
	右の外 左右對稱の美	リズムの美 物體の美なる方向の見出し方 物體の組合せ方 位置の取り方 畫面の切り方	春景の美 對比と調和 多樣の統一 (變化と統一)	←	—	←

(2) 練習敎材の系統

教材 學校	主要題材	幾何形體	器物	交通機關 玩具建築物	植物	動物	人物	景色
尋一	交通機關 玩具 草花、景色 人物、動物、建築物	線(縦横斜)		汽車、軍艦 飛行機 電車、汽船 人形	草花	鳥、犬、魚	顔	山、海、野菜

尋二	同前	直線形の易なるもの		同前		同前	同前	同前
尋三	同前	直線 曲線 直線形 曲線形		同前		同前	同前	同前
尋四	果物、植物、魚類、器物、野菜、昆虫	平面形 立體の易なるもの、圓柱		同前	簡單なる葉、實、	昆虫、魚類	同前	同前
尋五	同前	立方體 圓錐 方錐		同前	簡單なる花	同前	同前	樹木、建築物を主とする景色
尋六	植物、果物、野菜、景色、人物、動物	同前		同前	同前	鳥類	簡單なる人物	同前
高等科	同前	同前	3.光澤あるもの 3、透明なるもの	同前	複雜なる花、葉、實	同前	2.獸類	1.人物の部分畫 2.人物

(3) 鑑賞教材の系統

高等科 尋六 尋五 尋四 尋三 尋二 尋一

兒童優良成績品(1)

範畫手本(2)

製作品(圖案方面)(3)

大家の作品(4)

○時間内の何處かで行ふ場

一、成指導を行ふに適當なる鑑賞材料を(1)(2)(3)(4)中より適宜選出して鑑賞教材とす

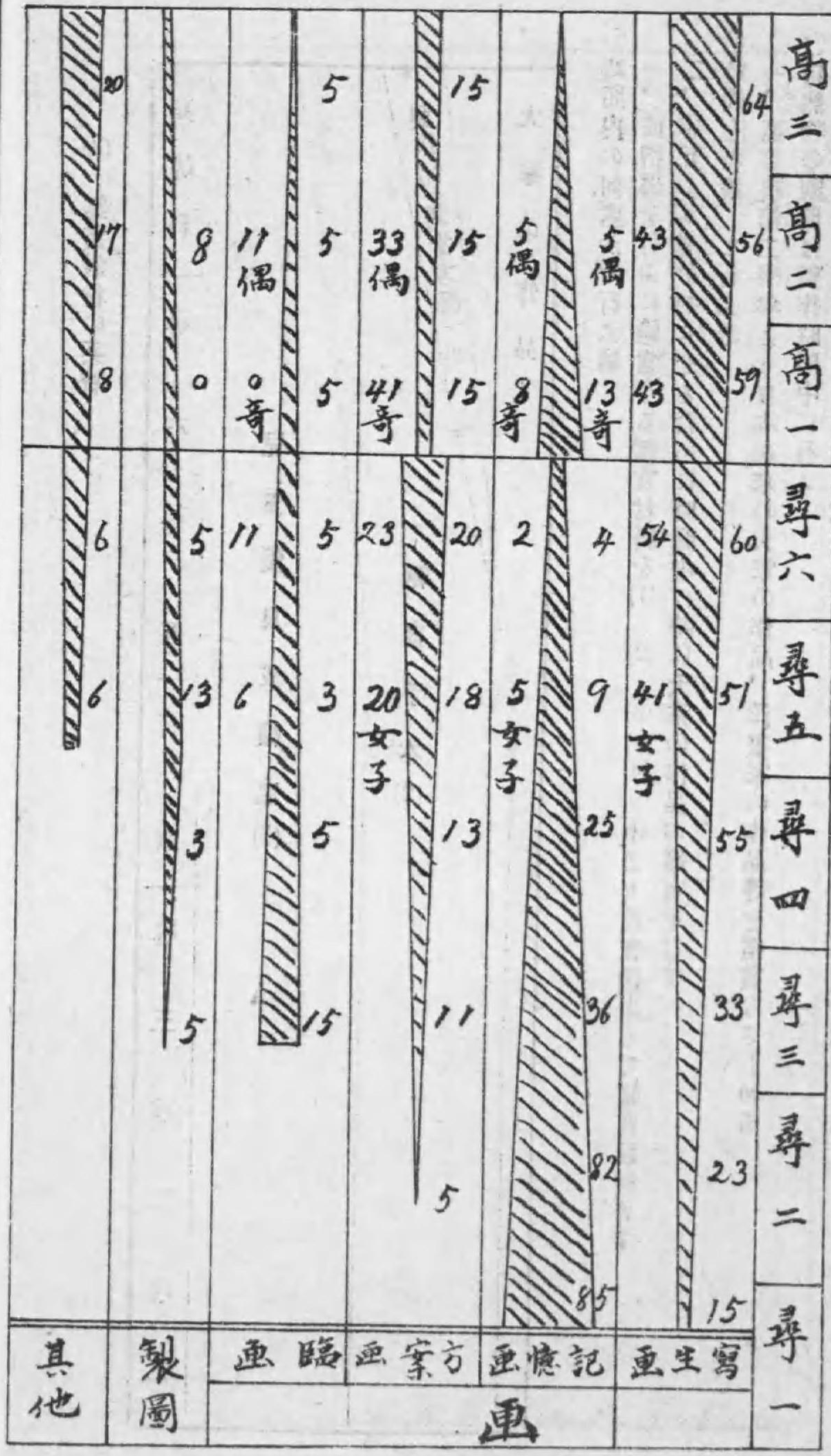
二、尋五より美を知らせるために時間中に特に大家の作品の鑑賞をなす

○時間を特設して行ふ場

一、高等科第二學年より日本在來の大家の作品、洋畫家の作品等を鑑賞なさしめる

○自然物の觀照は製作時間中に行ふ

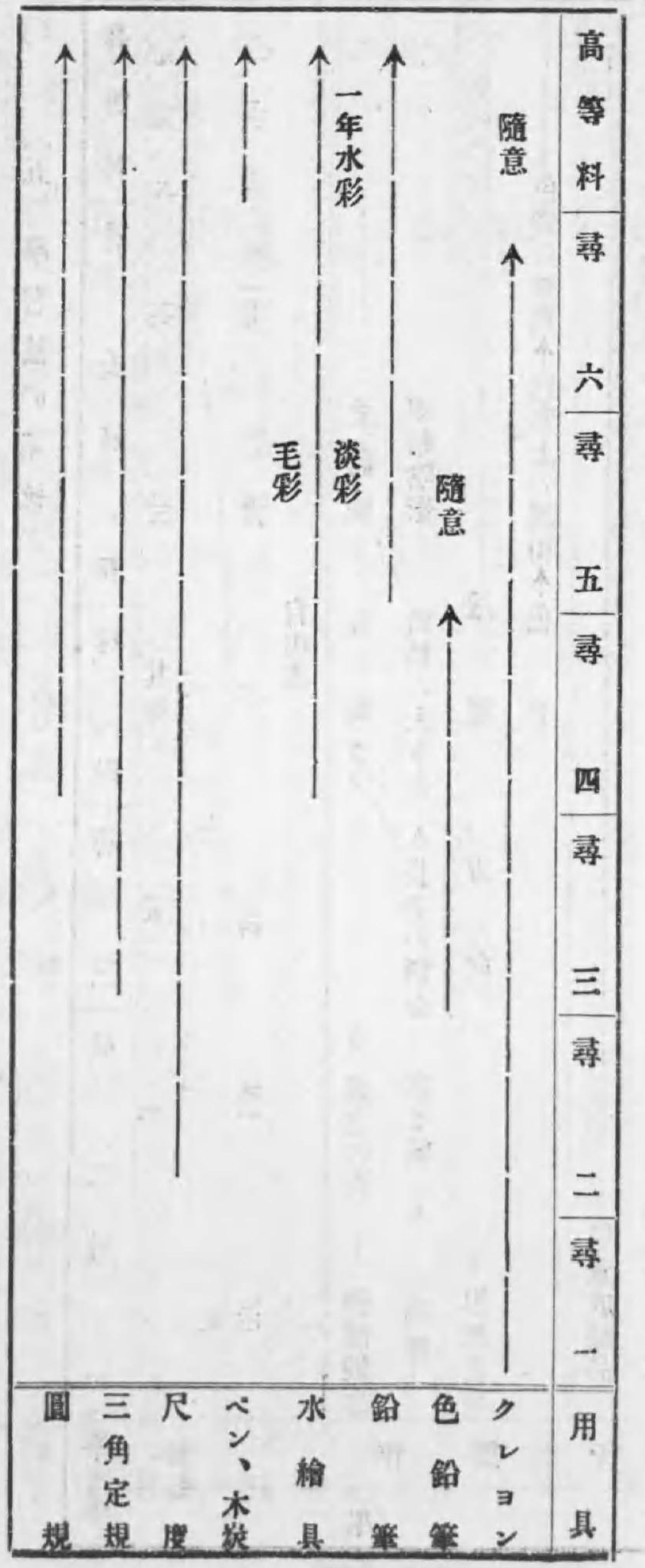
(三)描寫種別の系統



備考

一、面積の廣狹にて圖示せるものは理想案にして廣狹は時數の多少を示す
二、數字にて示せるは本校の實際案なり
三、女子は尋五より圖案を多く課すことゝしたから考案畫の時間が增加を示せり

(四)用具の系統



（五）學習法の系統

學年	尋一	尋二	尋三	尋四	尋五	尋六	高等科
其他	一九	六	一五	一九	三	一六	九　一三　五
自由畫	三〇	三二	一四	二〇	五三	一九	三一　二六　一四

學習

製作

1 個體觀念の明確
2 思想表現
3 感念の豐富と統一

立體觀↑―面の廣さ
明暗陰影↗　體積の大きさ↑長さの割合
透視　方向

色彩の對比↑色彩上の調和↑色彩

鑑賞

兒童成績品
範畫手本
實物（圖案的方面）
學級展覽會時間の特設　帝展等の複製
名畫鑑賞時間の特設↑――繪葉書の鑑賞、作品、掲示

批評

學習態度

喜んで描かせる――→好きにさせる→一層好きにさせ自己の力を自覺させる→趣味を帶たせる→一層の趣味を持たせる

時々物を充情直觀して物の本質をつかみ生命に觸れるやうに描く態度を養ふ

學習態度養成法

他律的學習――→自律的學習

思想の流の誘導　描寫欲の善導

他人より秀でたる練習材料を一つ作らせる

成可く一ケ月一題材とす　研究題目を撰て研究させる

野外寫生を課す

圖畫科學習要目

◉尋常科第一學年

月	題材	時數	方法	種類
四	色の名と好きな繪	一	記	▲クレヨン
四	好きな花	一	同	▲同
四	好きな景色	一	同	▲同
五	春の野原	一	臨又ハ記	クレヨン
五	城趾の松の木	一	寫	同
五	安良田川	一	記	同
五	山	一	同	▲同
六	金華山	一	寫又ハ記	同
六	海に舟	一	記	▲同

月	題材	時數	方法	種類
六	風船球	一	臨	▲クレヨン
六	提灯かざり	一	記	▲同
七	壺の花	一	寫	同
七	鉢植の花	一	同	同
七	好きな繪	一	同	▲同
八	同	一	同	▲同
九	體操	一	記	▲同
九	門	一	同	▲同
九	家の人	一	同	▲同
一〇	先生	一	寫	同
一〇	お父さんお母さん	一	同	▲同
一〇	○○さん	一	同	▲同
一〇	好きな繪	一	記	▲同
一一	國旗	一	同	同
一一	兵隊遊び	一	同	▲同
一一	好きな花	一	同	▲同
一一	電車	一	同	▲同
一二	汽車	一	同	▲同
一二	おもちや	一	記	▲同
一二	好きな繪	一	同	▲クレヨン
一	お正月の飾物	一	同	▲同
一	好きな繪	一	同	▲同
一	犬	一	同	▲同
二	牛	一	同	▲同
二	鳥	一	同	▲同
二	おさかな	一	同	▲同
二	好きな繪	一	記	▲同
三	戰爭	一	同	▲同
三	飛行機	一	同	▲同
三	好きな繪	一	同	▲同

◉尋常科第二學年

月	題材	時數	方法	種類
四	天神樣の祭	一	記	▲クレヨン
四	花瓶の花	一	寫	同
四	好きな花	一	寫又ハ記	同
五	好きな景色	一	記	▲同
五	遠足	一	同	▲同
五	好きな繪	一	同	▲同

月	題材	時數	方法	種類
五	鉢植の花	一	同	▲寫
六	花壇の花	一	同	▲クレヨン
六	好きな草花	一	記	▲同
六	二方つゞき模樣	一	考	▲同
六	雨の日	一	記	▲同
七	好きな繪	一	同	▲同
七	夕立	一	同	▲同
七	好きな繪	一	同	▲同
九	好きな繪	一	記	▲同
九	學校	一	寫又ハ記	同
九	私の家	一	記	▲同
九	十五夜	一	同	▲同
一〇	好きな繪	一	同	▲同
一〇	遠足で見たもの	一	同	▲同
一〇	猫	一	寫	同
一〇	運動會	一	記	▲同
一一	門と國旗	一	同	同
一一	二方つゞき模樣	一	考	▲同
一二	果物	一	寫	▲同
一二	軍艦	一	記	▲クレヨン
一二	汽船	一	同	▲同
一二	好きな繪	一	同	▲同
一二	年の暮	一	同	▲同
一	お正月	一	記	▲同
一	可愛いゝ子供	一	記	▲同
一	先生	一	寫	同
二	好きな繪	一	記	▲同
二	雪だるま	一	同	▲同
二	馬	一	同	▲同
二	けもの	一	同	▲同
三	鳥	一	同	▲同
三	おもちや	一	寫	▲同
三	好きな繪	一	記	▲同

◉尋常科第三學年

月	題材	時數	方法	種類
四	天神樣の祭	一	記	▲クレヨン
四	櫻	一	臨	色鉛
四	お花見	一	記	▲同
五	薔薇	一	臨	同

月	題材	時數	方法	種類
五	花瓶の花	一	寫▲	色鉛
七	氷屋	一	臨▲	隨意
七	入道雲	一	同▲	同
七	好きな繪	一	同▲	同
九	夏休み	一	同▲	同
九	四角形と線	一	寫▲	同
九	三角形	一	同▲	同
九	校門	一	同▲	同
一〇	海に月	一	臨▲	同
一〇	家	一	寫▲	同
一〇	西洋館	一	同▲	同
一〇	好きな繪	一	記▲	同
一一	運動會	一	同▲	同
一一	電車	一	同▲	同
一一	汽車	一	同▲	同
一一	秋の景色	一	臨▲	色鉛
一二	花瓶	一	寫▲	隨意
一二	瓶の色々	一	同▲	同
一二	好きな繪(曲線、器物)	一	寫▲	隨意
	續き模樣	二	考▲	同
	お節句	一	記▲	同
	雨の日	一	同▲	同
	軍艦	一	臨	同
	海戰	一	考▲	同
一	正月の遊び	一	記▲	隨意
一	林檎	一	臨▲	色鉛
一	好きな繪(球形)	一	寫▲	隨意
二	好きな繪(球形)	一	同▲	同
二	雪景色	一	考▲	同
二	好きな繪(曲線形)	二	寫▲	同
三	平行線と等分法	一	臨	鉛
三	時間表	一	考▲	同
三	好きな繪	一	記▲	隨意

◆尋常科四學年

月	題材	時數	方法	種類
四	天神樣の祭	一	記▲	隨意
四	景色	二	寫▲	同
五	好きな景色	一	考▲	同
五	好きな繪	一	記▲	同
五	蝶	二	寫▲	色鉛
六	木の葉	二	同▲	同
六	葉の便化	二	考	同
七	蝶の便化	一	同	同
七	金魚	一	臨	同
七	金魚鉢	一	記▲	同
九	好きな繪	二	同▲	隨意
九	景色の透視	二	說 寫	同
一〇	景色附(立方體、圓柱)	三	寫	同
一〇	僕の一日	一	記▲	同
一一	景色附(立方體、圓柱) 21	三	臨、寫▲	同
一一	景色の便化	一	考▲	同
一二	果物又ハ野菜	三	寫	同
一	圓柱の工作圖	一	同	鉛
一・二	圓柱のもの	五	同 2 ▲	隨意
二	好きな繪	一	記▲	同
三	鷄	一	同▲	同
三	鳥	一	同▲	同
三	好きな繪	一	記▲	隨意

◆尋常科第五學年

月	題材	時數 男	時數 女	方法	種類
四	色圖(一)と繪具	一	一	說	
四	混色法	一	〇	考	水繪具
四	色圖(二)	二	二	臨	同
四	蝶	二	〇	寫▲	鉛淡
五	草花	四	二	同▲	同
五	二方連續模樣	四	二	考▲	彩色
六	好きな繪	一〇	一	記▲	隨意
男 六 女 六、七	立方體方錐のもの 附(方向による美)	七	五	寫▲ 5	鉛淡とクレヨン
七	好きな繪	一	〇	記	隨意
七	野菜	四	〇	寫▲	毛彩
七	學級展覽會 (兒童ハ之ヲ小展覽會トイフ)	一	一		
九	夏休み	一	一	記▲	隨意
九	圓錐工作圖附(製圖用線)	一	一	寫	鉛
男 九 女 九、一〇	圓錐圓柱のもの (附二物の組合せ方と方向による美、畫面の切り方)	六	六	寫▲ 4	鉛淡とクレヨン

月	題材	時數	方法	種類
一〇	好きな繪	一〇	記▲	隨意
男一〇 女一一	球體のもの	六四	寫▲4	鉛淡とクレヨン
一〇	小展覽會	一〇		
一一	樹木、森、村	八〇	寫▲6	クレヨン
一一	附（畫面の切り方）			
三	大菊	二〇	寫▲	毛彩
三	四方連續模樣	四二	考▲	彩色
三	附（同一色の配合）			
三	小展覽會	〇一		
一	好きな繪	一〇	記▲	隨意
一	畫板工作圖	一一	寫	鉛
一	本箱工作圖	二二	同	同
一	自由工作圖	二〇	同	同
二	好きな繪	一〇	記▲	隨意
二	幾何形	三二	臨	鉛
二	圍み模樣附（類似色の配合）	四二	考▲	彩色
三	好きな繪	一〇	記▲	隨意
三	靜物	四二	寫▲	クレヨン
三	小展覽會	一一		

尋常科第六學年

月	題材	時數	方法	種類
四	景色（田舍）	六三	寫▲	隨意
五	景色（町）	七三	同▲	同
五	小展覽會	一一		
六	好きな繪	一〇	記▲	隨意
六	草花	五二	寫▲	鉛
六七	四方連續模樣	四四	考▲	彩色
六七	附（餘色の配合）			
七	小展覽會	一一		
九	魚類	32五 22四	臨と寫	毛彩
九	草花	三〇	寫▲	鉛淡
一〇	好きな繪	一〇	記▲	隨意
一〇	靜物	七四	寫▲	鉛淡
一一	秋景色	七四	同▲	同
一一	文字の便化（附モノグラフ）	一一	考▲	毛彩
三	ポスター廣告圖案	五一	同▲	同

月	題材	時數	方法	種類
三	小展覽會	一一		
一	好きな繪	一一	記▲	隨意
一	鳥	三二	臨	毛彩
一	傘圖案	二〇	考▲	彩色
二	展開圖斷面圖	二一	臨	鉛
二	器物表面圖案	四三	考▲	彩色
三	建築製圖	二〇	臨	鉛
三	人物	六三	寫▲	鉛淡

高等科男第一學年

月	題材	時數	方法	種類
四	景色	三	寫▲	隨意
五	花	22四	記と寫▲	毛彩
六	昆蟲類	21三	同	鉛淡とペン畫
六七	器物表面圖案	三	考▲	彩色
六七	附（繪模樣）			
七	小展覽會	一		
九	野菜	22四	記と寫▲	鉛淡と色彩
10	魚類	四	寫▲	ペン畫
二	秋の郊外	四	同▲	水彩
三	果物と器物	二	同▲	同
三	小展覽會	一		
一二	冬景色	42六	臨と寫▲4	鉛淡
二	小展覽會	一		
三	傘圖案	三	考▲	彩色

高等科男第二學年

月	題材	時數	方法	種類
四	景色	三	寫▲	水彩
五	獸類	三	臨	鉛淡
五	名畫鑑賞（圓山派）	一		
六	草花	21三	記と寫▲	水彩と毛彩
六	名畫鑑賞（南宗派）	一		
七	休日日誌の表紙圖案	二	考▲	彩色
七	小展覽會	一		
九	秋草	二	寫▲	毛彩
九	名畫鑑賞（四條派）	一		
10	鳥	三	記と寫	毛彩
10、11	秋の景色	三	寫	水彩

月	題材	時數	方法	種類
二	花瓶の五體圖案	二	考	彩色
三	名畫鑑賞（倭繪）	一		
三	器物の立體圖案	二	考	彩色
三	小展覽會	一		
一	人物	三	寫▲	鉛淡
二	人體石膏	三	同▲	鉛又ハコンテ
二	名畫鑑賞（洋畫海）	一		
三	建築製圖	三	寫	鉛

◎高等科男第三學年

月	題材	時數	方法	種類
四	景色（町）	三	寫▲	水彩
五、六	器物（光澤あるもの）	五	同▲	同
六、七	自由圖案（平面）	三	考▲	彩色
七	小展覽會	一		
七	名畫鑑賞（浮世繪 北宗派 雲谷派）	二		
九	靜物（透明體のもの）	四	寫▲	水彩
10	名畫鑑賞（北宗派狩野派）			
10	草花	二	寫▲	水彩
二	秋景色	四	寫▲	水彩
三	果物	二	同▲	同
三	名畫鑑賞（洋畫ナポレオン）	一		
三	小展覽會	一		
一	器物	二	寫▲	水彩
一、二	器物圖案	三	考▲	彩色
二	名畫鑑賞（裝飾派）	一		
二、三	人物	三	寫▲	コンテ
三	小展覽會			

奇數年度

◎尋常科第三四學年（複式）

月	題材	時數	方法	種類
四	天神樣		記▲	クレヨン
四	櫻	一	臨	色鉛
四	お花見	一	記▲	同
五	薔薇	一	臨	同
五	花瓶の花	一	寫	同
五	つゞき模樣	二	考▲	隨意
六	お節句	一	記▲	同

月	題材	時數	方法	種類
六	雨の日	一	記▲	同
六	軍艦	一	臨	同
六	海戰	一	考▲	同
七	氷屋	一	記▲	同
七	入道雲	一	同▲	同
七	好きな繪	一	同▲	同
九	夏休み	一	同▲	同
九	三年 四角形と線 四年 線直器物	一	三年 寫 四年 寫▲	三年 鉛 四年 隨意
九	三角形 同	一	同 同	同 同
10	體操器具	一	寫	隨意
10	電車	一	記▲	同
10	汽車	一	同▲	同
10	運動會	一	同▲	同
二	景色の透視	二	寫	同
二、三	景色（立方體、圓柱）	四	同	同
三	景色圖案	一	考▲	同
一	圓柱工作圖	一	寫	鉛
一、二	圓柱器物	五	寫2▲	隨意
二	好きな繪	一	記▲	同
三	鷄	一	記▲	同
三	鳥	一	記▲	隨意
三	好きな繪	一	同▲	同

偶數年度

月	題材	時數	方法	種類
四	天神樣の祭	一	記▲	隨意
四	景色	二	寫	同
五	好きな景色	一	考▲	同
五	好きな繪	一	寫及記▲	同
五	蝶	二	寫▲	色鉛
六	木の葉	二	同▲	同
六	植物便化	二	考	同
七	蝶の便化	一	同	同
七	金魚	一	臨	同
七	金魚鉢	一	記▲	同
九	好きな繪	二	記と寫▲	隨意
九	三年 四角形 四年 花瓶	一	三年 寫▲ 四年 寫	三年 鉛 隨意
10	三角 花瓶の色々	一	同 同	同 同

月	題材	時數	方法	種類
10	校門	一	寫▲	隨意
10	海に月	一	臨	隨意
10	家	一	寫	同
一一	西洋館	一	同	同
一一	僕の一日	一	記▲	同
一一	秋の景色	一	臨	同
一一	景色の透視	二	寫	同
一二	景色（立方體、圓柱）	二	同	同
一二	景色の便化	一	考▲	色鉛
一	正月の遊び	一	記▲	クレヨン色鉛
一	林檎	一	臨	同
一、二	球形のもの	四	寫▲	同
二	雪景色	一	考	同
三	平行線と等分法	一	臨	鉛
三	時間割	一	考▲	同
三	好きな繪	一	寫と記	クレヨン色鉛

◆尋常科第五六學年

奇數年度

月	五年	六年	時數	方法	種類
四	色圖(一)と繪具	球體	一男 一女	說寫▲	隨意
四	混色法	球體	一 〇	考 同	彩色 同
四	色圖(二)	球體	二 二	臨 同	同 同
四	蝶	球體	二 〇	寫▲ 同	同 同
五	草花		四 二	寫▲	鉛淡
五	二方連續模樣（同一色の配合）		四 二	考▲	彩色
六	好きな繪		一 一	記▲	隨意
男六 女六、七	立方體、方錐のもの	附（方向による美）	七 五	寫▲5	鉛淡とクレヨン
七	圓錐、圓柱のもの（附方向組合せの美 畫面の切り方）		三 〇	同	同
七	野菜		二 〇	寫	毛彩
七	小展覽會		一 一		
九	幾何形		三 二	臨	鉛
九、一〇	團み模樣		四 四	考▲	彩色
一	附（類似色の配合）				

月	題材	時數	方法	種類
10	樹木、森、村	六 〇	寫4▲	隨意
	附（圖面の切り方）			
10	小展覽會	一 一		
一一	文字の便化	一 一	考▲	彩色
	附（モノグラフ）			
一一	ポスター廣告圖案	五 二	同▲	同
一一	傘圖案	二 〇	同▲	同
一二	鳥	32 五 三	臨と寫	毛彩
一二	小展覽會	一 一		
一	果物	六 三	寫	隨意
二	平面圖案	八 四		彩色
	附（餘色の配合）			
三	景色	五 二	隨意	
三	小展覽會	一 一		

偶數年度

月	五年	六年	時數	方法	種類
四	色圖(一)と繪具	球體	一 一	說▲寫	
四	混色法	同	一 〇	考 同	彩色
四	色圖(二)	同	二 二	臨 同	隨意
四	蝶	同	二 〇	▲寫 同	鉛淡隨意
五	草花		四 二	寫▲	鉛淡
五	四方連續模樣		四 二	考▲	鉛淡
	附（同一色の配合）				
六	立方體方錐體のもの		五 三	寫▲2	（鉛淡とクレヨン）
	附（方向による美）				
六七	圓柱、圓錐のもの		五 三	寫▲2	同
	附（方向組合せの美、畫面の切り方）				
七	小展覽會		一 一		
九	魚類		八 四	臨と寫	毛彩
一〇	草花		四 二	寫▲	同
一〇	四方連續模樣		四 二	考▲	彩色
	附（類似色の配色）				
一一	秋景色		八 四	寫▲	隨意
一二	書板工作圖		一 一	寫	鉛
一二	本箱工作圖		二 二	同	同
一二	自由工作圖		三 〇	同	同
一	展開圖斷面圖		二 一	臨	鉛
一	器物表面圖案		四 三	考▲	彩色

月	題材		時數	方法	種類
二	建築製圖	三	〇	臨	鉛
二	靜物	五	三	寫▲	隨意
三	人物	六	三	同▲3	鉛淡

⊕高等科女第一、二學年

奇數年度

月	題材		時數	方法	種類
四、五	花	22	四	記と寫	水彩
五	昆蟲		三	同	ペン畫
六	器物表面圖案		四	考▲	彩色
七	著物の圖案			同▲	同
七	小展覽會				
九	秋草		二	寫▲	毛彩
九、一〇	鳥	31	四	記と寫	鉛淡
一〇	秋景色		三	寫	同
一〇、一一	花瓶立體圖案		三	考▲	彩色
一一、一二	器物立體圖案		三	考▲	同
三	小展覽會		一		

偶數年度

月	題材		時數	方法	種類
一	室內裝飾		一	說▲	
一	配色圖		二	考	彩色
二	靜物		四	寫▲2	水彩
三	傘圖案		三	考▲	同
四	景色		三	寫▲	鉛淡
五	獸類	2.2	四	臨ト寫	同
六	草花	2.1	三	記ト寫▲	水彩
六	文字圖案		一	考▲	彩色
七	休日日誌表紙圖案		二	同▲	同
七	小展覽會		一		
九	野菜	2.2	四	記と寫	鉛淡
一〇	魚類		四	寫	ペン畫
一一	秋景色		三	寫▲	水彩
一一、一二	ハンカチ、フクサ圖案		四	考▲	彩色
三	小展覽會		一		
一	人物	1.2	三	臨と寫	鉛淡
二	配色圖		二	考	彩色
二	半襟圖案		二	考▲	彩色
三	手提袋圖案		二	同▲	同
三	小展覽會		一		

備考

一、方法の欄に（記）とあるは記憶畫（寫）は寫生畫（臨）は臨畫（考）は考案畫（說）は說明畫の略なり。

▲印とあるは自由畫取扱をなす題材にして2▲は自由畫扱二時取間の略なり

自由畫取扱の時間

高三	高二	高一	尋六	尋五	尋四	尋三	尋二	尋一
三一	二六	三四	男五九 女三〇	男五三 女二二	二〇	二四	三二	三〇

二、種類の欄に（クレヨン）とあるはクレヨン畫、（色鉛）とあるは色鉛筆畫（鉛）とあるは鉛筆畫（毛彩）は毛筆彩色（鉛淡）は鉛筆淡彩（毛鉛とクレヨン）とあるは或教材は色鉛筆畫にして或教材はクレヨン畫（色鉛又はクレヨン）とあるは隨意といふ意味の略なり。

討議題　圖畫科に於て鑑賞能力養成の必要ありとせば其の方法如何

不破郡　栗田信一君

討議題　小學校に於ける美術鑑賞の良法如何

羽島郡　中島源九郎君

說明（一）

發題の趣旨＝圖畫科を教育の一科と見るときは（從來の如く技藝的能力の涵養に專ら努力するは不可ならずとするも）美の鑑賞鑑識を重視すべきものと思惟す願くは諸君の實施し又は實施せんとする方案を示されたし。

（參考資料）鑑賞能力の査定方法

一、四種の曲線につき‥‥最も優美なる曲線を選擇せしむ。

二、三種の曲線應用花瓶につき‥‥一番氣ニイツタ花瓶を選擇せしむ。

三、三種の電燈裝置につき‥‥何れに最もよく曲線美が應用されてゐるか。

四、背の組合せ三種につき‥‥線や點を最も面白く配列してあるのは何れか。

五、莖、電光、渦卷、水流に似たる直線曲線の組合せ各三種宛‥‥何れの線の集りが最も穩かな落付いた心持をさせるか。

六、花の形三種につき‥‥圖案材料として最も適する花形を選擇せしむ。

七、充分に濃厚に描ける三色の組合せ三種‥‥色の配合の最も面白きものは何れか。

八、戸三つにつき戸の棧の位置は何れが一番氣に入るか。

九、風景山水畫三つにつき‥‥どの山水が一番綺麗か

一〇、方形内にデザインの字を書きその配り方を變へたもの三種‥‥どの書名の位置が最も表紙に適當であるか。

二、六本の柱の遠近を示すもの三種‥‥遠近畫方に適ふ柱の繪は何れか。

三、家屋の遠近を示すもの三つ‥‥斜景法に適ふ家の繪は何れか。

三、子供用上衣三種につき‥‥丈の低い肥えた女の子（大きな丈夫な子）には何れの上衣の模樣（形）が最も適當であるか。

說明（二）

小學校圖畫科の目的を達する上に於て美の創作即描寫能力の養成と相俟つて缺くべからざるものは美の鑑賞即ち鑑賞能力の養成でありますこの二つは恰も車の兩輪の樣なものでこの二方面が圓滿に養成されて始めて圖畫科の主なる目的を達することが出來るものでありますが鑑賞を缺いた圖畫敎授は眞の圖畫敎授でないばかりでなく實に誤つた圖畫敎授と言はねばなりません。然るに一般からこれを觀ますに鑑賞敎授は輕んぜられ稍々もすると忘れられつゝあるのであります。茲に於て私は鑑賞敎授に於て諸君の實施せられつゝある事並に將來行はんとせらるゝあらゆる方面を細大漏れなく承り圖畫敎授の資に供したいと思ひましてこの問題を提出した所以であります。

討議

（議長）唯今の要求に對し附屬の說明を求めます。岐師附屬から鑑賞敎授に就いて謄寫物が出て居ますから先づそれについて御說明を願ひたいと思ひます。

鑑賞教授

岐阜縣師範學校附屬小學校

◇美術鑑賞について

一、鑑賞の意義

1 自己の利害關係を離れて感情を其の作品に打込んで直觀し感ずる事

2 自己の美意識を照して感銘した所を賞する事

3 表現方法に感ずる事

二、鑑賞教授の價値

1 人格陶冶に價値がある。感情を高尙ならしむ。

2 生活を享樂する事が出來る

(a) 社會方面より眺めて―物質的に傾いて精神的の慰安がない

(b) 人間生活より眺めて―人は眞善美の生活をしなくてはならぬ

3 俗惡なる趣味を廢棄し向ふべき正しき道をしる事が出來る

4 美の要素を解し取捨選擇の力を養ひ、自然竝に作品に對する心眼を擴大する事が出來る。―美意識を高める

5 造形衝動の喚起竝作品の向上に價値がある

6 附帶的に繪畫に對する常識を養ふことが出來る

三、鑑賞資料選定の標準

1 一般美術品の場合

(a) 兒童の愛好するもの

(b) 兒童の理解し易きもの

(c) 成るべく優秀なもの

2 名畫鑑賞の場合

(a) 作者が代表的であり圖柄が最もよく作者の特色を表はせるもの

(b) 印畫が明瞭にしてよく原畫の趣を表はせるもの

(c) 成るべく古大家の作品がよい

(d) 與國的氣分に富み國民的精神を發揮せしむるに適するもの

(e) 他教科と聯絡あるもの

四、鑑賞資料

1 繪畫の類

(a) 兒童の成績品（自校他校）

(b) お手本

(c) 教師の範畫

(d) 畫集

(e) 版畫、繪葉書

(f) 書籍雜誌の口繪

(g) 掛物

2 圖案工藝品

(a) 圖案集

(b) 新聞廣告、ポスター、廣告ビラ、レッテル

(c) 書籍の表紙圖案、箱、袋等の表面圖案

(d) 布片の模樣

(e) 各種の工藝品、花瓶等

3 建築彫刻製圖

(a) 各種の建築物の模型

(b) 建築寫眞建築圖

(c) 彫刻製圖彫刻寫眞

(d) 製圖類、器械製圖、器具製圖

五、鑑賞教授の方法

1 時間を特設して行ふ

(a) 學級展覽會　尋五以上

(b) 名畫鑑賞

2 鑑賞材料の掲示　説明を附す

3 資料陳列

4 製作のために行ふ

5 展覽會を參觀す

六、鑑賞教授の實際

1 一般美術品の場合

(a) 充情直觀せしめる　情的

(b) 部分的に美點を探し出す　情的

(c) 技巧の方面に及ぶ　知的

(d) 總合して味ふ

2 兒童成績の鑑賞

(a) 美點を味はせて缺點は批評せしめず

3 名畫鑑賞

(a) 筆者の傳記逸話

(b) 筆者の出たる時代の文物、風俗、習慣

(c) 作品の題意、來歷、流派、系統等

(d) 作圖の構成卽ち美の原則要素

(e) 描寫練習

1 ◇鑑賞能力養成について

一、鑑賞の要素

1 美意識を發達せしめること
2 作品を觀る態度即作品に對し充情直觀する態度
3 作品に對する知識を得しめること

◇美意識を養成するには

1 境遇を整理する、校舍の清潔整頓、室内裝飾
2 美術鑑賞による
3 自然觀照による
4 製作による

◇作品をみる態度を養成するには

1 敎師の指導敎師の鑑賞の態度をみせる

◇作品に對する知識を得しめるには

1 他敎科にて　家庭にて
2 知らないことは授ける

（保井忠男君）お答へ致します。鑑賞の理論方面に於ては先に山下さんから御發表がありましたのと似通つてゐますから省略しまして我が校が實際行つてゐることに就て說明します。

我校では鑑賞敎授を次に述べる五つの方法でやつてゐます。

第一は時間を特設して行ふことですが、これには學級展覽會と名畫鑑賞とをやつてゐます。學級展覽會と申しますのは圖畫要目を見ていたゞくとよく分りますが、尋常六年に例をとつてみますと第一學期の四月五月は景色の敎材になつてゐます、この一敎材がすんだ後で行ひますので、展覽の方法は主として兒童に自治的に行はせて後に敎師兒童共に鑑賞批評をします。但しこれは尋五以上です。

次に名畫鑑賞でありますが、これは要目にある樣に高等二、三年を通じて九時間東西古今の名畫の極代表的のものをとつて行ひます。

次に鑑賞資料の揭示ですがこれは說明を附して揭げます。

次に製作のために行ふといふのは製作の前後に於て敎師又は兒童の製品の鑑賞を行ふことなのです。

其の他の事はこの謄寫物を讀んでいたゞけば分ることゝ思ひます。

（村井淸吉君）保井君に質問します。場所を特別に設けて居られますか。

（保井忠男君）陳列館の樣なのをも意味するのですか。

（村井淸吉君）陳列したり授業したりするに普通の敎室でやるのですか、特列に圖畫室が設けられてありますか。

（保井忠男君）經費の關係上普通の敎室も圖畫室としてやつてゐます。

（村井淸吉君）授業もそこでやるのですか。

（保井忠男君）さうです。

（坂井範一君）一般美術の製品とは如何樣なものですか。

（保井忠男君）兒童の成績品と名畫に對していふのです。

（坂井範一君）兒童と同程度か又は高い程度のものですか。

（保井忠男君）同程度のも高いものもあります。

（小島彌曾哉君）名畫鑑賞に使用する實物はどんなものですか。

（保井忠男君）複寫したものを用ひてゐます。

（中島光雄君）私が說明します。名畫鑑賞は材料に困難します。奈良の横井曹一先生著のものを用ひてゐます。之れを使用するに低學年では困難であるし高學年に至つても稍同じ感があります。しかし他にありませんからこれでやつてゐます。

（小島彌曾哉君）名畫鑑賞について同感であります。其の名畫に就いては私の學校にも持つてゐます。

（河野大助君）中島源九郎君にお尋ねします。學校の經費はどの位ありますか附屬との比較は如何ですか。

（中島源九郎君）圖畫科に使用する錢はありますが附屬と比較したことはありません。費用は昨年二十圓今年三十圓あります。それで寫生臺や畫板を作ります。

（河野大助君）費用の關係で困るから家庭に於て父兄の領解を得て鑑賞をさせるとよいと思ひます。鑑賞は大切であります。私も父や伯父が繪が好きで色々な材料を集めて見せてくれたから其の中に好きになつたのです。故に論理的に走らずに家庭に於て少年の時から繪一枚でも粗末にせぬ樣に觀るといふ習慣をつけるとよいと思ひます。

（中島源九郎君）保井君にお尋ねします。學級展覽會は一學期に一回やるのか、又一種類が終つてからやるのですか。
（保井忠男君）一種類が終つてからやるのです。
（山下泰助君）保井君にお尋ねします、資料の蒐集について費用を少くしてやる方法がありますか。
（保井忠雄君）私の學校では多く商店に依賴して集めてゐます。
（中島光雄君）蒐集方法に就いて說明しますが、雜誌の口繪や新聞廣告などを利用します。自分が全部圖畫になつて居なければ蒐集は困難です。されば藥の包紙や其他色々のレッテルなどに依つて集め、帝展の繪ハガキなども常に集めて居ます。
（井坂範一君）高三の讀本の日本畫と名畫鑑賞との關係は如何。
（中島光雄君）あれとも聯絡したいと思ひます。
（中村保君）鑑賞資料の繪ハガキは三色版ですか。
（保井忠男君）さうです。
（中村保君）色彩まで鑑賞が出來ますか。
（保井忠男君）嚴密には出來ませんが、大體、概念位は與へることが出來ます。
（中村保君）私は繪ハガキでは充分鑑賞することが出來ぬと思ふ。寧ろ害がありはせぬかと思ひます。
（保井忠男君）どんな繪ハガキにも相當に美があるから、多く接した方がよいと考へます。別に害は無いと思ひます。
（中村保君）繪ハガキでは明暗や遠近の違つたのがありますから、充分に鑑賞が出來ないと考へます。
（中島光雄君）多く眼に觸れさせると云ふ事で、深くはやりませぬ。
（加賀虎馬三君）中島君に御尋ねしますが、鑑賞の要素の作品に對する知識を與へるとは如何んなことか、又其の方法はどうですか。
（中島光雄君）此の知識と言ふは其の繪の用具とか材料とかに對する知識でクレヨン畫に就いては、クレヨンに對する知識がなくては其の美を鑑賞しにくいと考へます。
（加賀虎馬三君）それでは作品でなくて用具の事ですか。
（中島光雄君）作品、用具、表し方の總ての知識であります。
（加賀虎馬三君）鑑賞の實際のやり方はどうですか。
（中島光雄君）其れは保井君に述べて貰ひます。
（保井忠男君）實際指導に就いては一に比較、二に敎師の說明、三に問答。四に自己判斷による指導をします。
（加賀虎馬三君）美意識を養成するだけでなくて、兒童に一枚の繪を與へて何か言はせる所までやりますか。
（保井忠男君）其處までやります。
（加賀虎馬三君）美意識の養成には感情、美的批評、美的判斷とをつけ加へたら如何でせう。
（中島光雄君）批評のわるい部分はやめさせます。
（宇野泰吉君）名畫鑑賞には要目をきめてやることが大切で其の名畫は兒童の程度によつてやりたい。又作品を見る態度の指導をしたいと考へる唯ぼんやりと見せるのは見ないのに勝る位であまり有價値でない。
（中川大映君）名畫の鑑賞方法に就いて二三を申し上げると私は年々京都へ行つて展覽會を見ますが田舍では寺院神社等の蟲ばしを利用します。又舊家に依賴して學校へ借りて學校で展覽會などを開きたいと考へます。
（坂井範一君）程度の高いものを見せるのは直觀して分解綜合させることは出來ない亂暴である。神社佛閣の寶物を見せることは不贊成です。下手な繪でも先生が描いて見せてやりたい。敎師の努力せようとした點を打ち明けて話してやりたい、程度の高いものは美の發露を示して、子供がうなづけばよいので批評は出來るものでない。鑑賞は兒童の程度に相應してやるべきです。
（河野大助君）名畫の鑑賞は問題で坂井さんの說は最です。靴下一足買ふにもネクタイ一本買ふにも子供の鑑賞になる樣な者を考へて資料にそれを取たい。
（栗田信一君）今少し先人の研究せられた美に對する心的判斷がある筈だ。故に其の美を決定する規範を研究していたゞきたい。
（加賀虎馬三君）坂井君の御說に贊成で、名畫に就いてはうなづいてしまふのが第一の出發點で次には知的に美の判斷が必要である之れが第二です。子供の

作品によつて美的の批判をすることが必要です。一口に言ふと兒童が自己の生命を打ちこむことです。

（議長）鑑賞能力の必要は皆御認めの樣で其の方法に就いては多少の見解を異にして居ますが各自の良點を取つていたゞきたいと思ひます。

發表題　誘導的圖畫教授に就て

海津郡　横川正男君

一、緒論

トルストイが「吾々の生活上最も尊いものは藝術であるど」と言つた。物質にのみ走つた現今の醜惡なる世相を見るにつけ誰しも第一に眼を注がなければならないのは現今の圖畫教育である。從來の圖畫教育は餘りに個性沒却であつた。自由畫思潮はこの反動として擡頭して來たもので如何にしても今後の圖畫教育は兒童個々の純眞なる心理的要求を重んじて然して個性の充實伸展をはからなければならない。

二、兒童と描畫能力

何等の指導もなくして畫を描き能ふ力卽ち子供本來の描畫能力の發達段階を知り得ずしては眞の圖畫教育は出來ない。

三、兒童の生活環境と圖畫

兒童の生活環境の圖畫に及ぼす影響の大なるは言を俟たない事で環境の整理は吾人の大なる事業の一である。

四、作畫衝動の誘發助長

畫を描かうとする本能すなはち作畫衝動は圖畫科に最も尊い根本要素である。吾人はこの尊い衝動を誘發しその進むべき正しき路を示してやらなければならない。然した理解ある導きは兒童の自由に輝く光明を見つめて思ひのまゝに伸展して行く礎である。

五、結論

要する吾人が子供の思想子供の力を正しく理解し眞に子供の世界に安住し得る事によつて始めて價値ある效果を生ずる圖畫教育となるのである。

質疑

（大平君）丹羽君に御尋ねしますが藝術の眞價は宗教にありと言ふことですが其の他にはありませんか。

（丹羽君）價値ではありませんが其の基調は宗教卽ち靈的作用まで引き上げたいといふことです。

（大平君）敬虔的態度にまでゞすか。

（丹羽君）然うであります。

（加賀君）生命則信仰ですか。

（丹羽君）それで差支ないと思ひます。

（議長）次は實地授業ですが場所は玄關の先の松の木の所ですから其の方へお願ひします。

（議長）引續いて行ひますが時間の都合上圖畫の批評會は午後に願ひます御發表を引續いでお願します。

發表題　創作に到る路

稻葉郡　榎本直臣君

畫尙は露しげき草深い片田舍で古い見にくい頭の私が考へたり行つたりしてゐる事は決して皆樣の御參考になる一事だもありますまいが馬は馬鹿は鹿と申しますから馬鹿は馬鹿な所で述べて皆樣の御指導を仰ぎたいと思ひます。

創作に到る路。何と言ふ大きな問題でせう。創作とか創造とか言ふことは如何なるものを指した言葉であるかさへ知らない私がこうした大問題について少しでも述べて見やうなんと言ふのは間違も甚だしいものでありますがやはり馬は馬鹿に考へてゐる所を御聞き取り下さいまして何卒御指導の程を御願ひ致します。

扨て如何なる問題に對しても私等は常に小學校に於けると言ふことを忘れてはなりません。こう申します

と或は「藝術である圖畫科に小學校に於けるも中學校に於けるもあるものか」と仰せらるゝかも知れませんが勿論個人として考へれば小學校も中學校もありません。藝術は藝術技術は技術その物でなくてはなりません。小學校は一人の天才を求むるものに非ずして五十人百人の趣味あり美を解し得る人間を養成すべく要求しつゝあるのであります。故に吾々はこの要求を離れて圖畫科を考ふることとは出來ません。所で近頃は自由畫熱！　いや誤れる自由畫熱が盛になりまして何でも描きたいものを描かせさへすれば圖畫科は上達するもの創作が生れて來るものと考へられて居ることが多い樣に思ひます。そして恐るべき放任敎授を平氣で行つてゐます。

「じやお前は誤れる自由畫熱に浮さるゝと言ふが眞の自由畫とは如何なるものか知つてゐるか」とお問ひ下さいましても私にはわかりません。唯私は圖畫に趣味もなければ技倆もないものが多年大家が研究の結果發表した新思想を一朝一夕にまねて自由畫々々と言ふ言葉をいゝ事に幸にその眞實を知らない私等の樣な多くの人が平氣で放任敎授を取りはせぬかと言ふことが心配なのであります。

「じやお前は圖畫科はどんなに取り扱ひたいと言ふのか」とお問ひ下さいますならば私は次の樣にお答へ致します。東西さへも辨へない子供にすら繪を描くことの出來るのはその子供が既に模倣によつて描くといふことを知つてゐるからできるのであります。

何も知らないものに筆を持たせて「さあ何でもよいから描け」と言ふたとて何が描けるでせう。

模倣の力は一歳の小兒にすら「母あちやん」「父ちやん」と呼び「マンマ」と叫ばしめることが出來ます。聾が成人しても一語だに發し得ないのは聞かざるがために模倣の餘地がないからであります。而して啞にでも熱心に口の形を模倣せしめましたならば遂には語を發し得る樣にすることが出來ます。そして緻密な啞の啞は人の口の動き方を見てその人の語りつゝある言語を解すそうです。こんなことは敎へ得るものではありません。

これが一面から言へば模倣から生れた創作とでも言ふものでせうか「手を上に擧げ」擧げ」前から擧げるもの橫から擧げるもの斜から擧げるもの種々あるでせう。そこで「いや橫からですよ」と注意すれば掌を反して擧げるもの反さであげるもの等又種々あるでせう。そこで又更に「掌は反して」とか「肩の巾より廣く」とか種々の言葉を以て敎へましても眞の要領を會得せしむることは仲々困難であります。こゝに到つて「こうしてやるのですよ」と示範と言ふものが生れて來たのではありますまいか。綴方の範文唱歌の範唱等皆同じ經路を取つて生れて來たのではありますまいかと考へられます。

示範模範範唱等が模倣を要求してゐることは今更申すまでもありません。鑑賞せしむるのもつまる所は模倣を要求してゐるのであります。

算術に於て算法を授くる際にその理由を解すると否とに不拘他の類似問題に對して模倣せしめんがために授くるのであります。

そしてその模倣法を上手に授くる人は「あの人は個性を尊重してゐるとか」「子供を活動させる」とか言はれて結局良敎師ともてはやさるゝのであります。こんなに考へて見ますと世の中のすべては第一歩は模倣の樣に考へられます。而し模倣はこれを最後まで模倣とは呼びません。模倣に模倣を重ねて自由に活用し得るに至つたならばそれはその人の智であり能であります。言ひかへれば智能のすべては模倣の結晶なのであります。

この模倣の結晶とも言ふべき智や技や能やが基礎となつて創作で生れ創造が行はるゝのでありまして模倣なくして創作や創造のあり得るものではありません。

故に私は言ひます「創作は模倣より模倣より創作へ」とこんなに申しあげると個性も何もあつたものぢやない一から十まで模倣ばかりだ。唯模倣さへしてゐれば創作が生れて來ると言ふ樣に聞えるかもしれませんが決してそうではありません。この模倣に最も恐るべきは個性を失することゝ型にはまると言ふことであります。

故に「これはこう描く可きものだ」「こんなに描くべし」と授くのでなくて「こんなにも描くことが出來る」と授けなくてはなりません。卽ち敎ふるのでなくて學ばしめるのであります。

「個性に模倣を取り入るゝのだ」と考へたならば最も安全であります。要するに私は私の所謂誤れる自由畫

熱に浮かされて理想に馳せたり放任に流れたりし易き圖畫科にいらん心配をしたわけでありまして先生は先生らしく自分の職務を知つてそれに眞に忠實であり着實でありたいと思ふのであります。

發表題　**自由畫に就て**

岐阜市　宇野泰吉君

自由畫の問題は今に始まつたことではないが最近に至り斯道の大家山本鼎氏の唱道せられ今や各地に於て其聲がだん〳〵高くなりつゝあるのである。曩に本縣教育會は大阪朝日新聞社と共同し世界兒童自由畫展覽會を開設せられ同時に我岐阜市及本縣兩師範學校附屬小學校兒童竝に幼稚園兒の自由畫の出品を乞ひ以て彼我を對照し其長短を比較研究せしめられたのは極めて時機に適した試みであつて吾人の期待に背かず好結果を齎しました。其の展覽會を見た余の感じを述べて見ると實に彼等の成績は暢々として生氣に富んでゐる、而も放膽で何等形式に束縛せられて居ない、之に反して邦人兒等の成績はいかにも細かしい所謂小刀細工的の畫としか思はれなかつた。是れ國民性の相違に基くものとはいふものゝ從來の我國圖畫教育が餘りに注入劃一主義であつた弊害であるまいかと情なく思つたのである。素より現代圖畫教育を一言で言ひ切つてしまふは甚だ危い業ではあるが、大人の造つた成型に兒童を篏めこまうとするのが一般の遣り方である。

斯の如きは兒童の發達を不自由ならしめ萎縮せしむるものである。現今國定畫帖の中で最も進歩したと言はれ居る新定畫帖でさへ兒童の世界から掛け離れた教材も可成り多くあるやうである、兒童繪と大人の畫とは違ふので即ち兒童獨自の世界はどこまでも尊重してやり個性の發揮に努めねばならぬ。この意味からいつても自由畫の主張は兒童のもつて居る世界を重んずる正しい主義であらうと思ふそれを動もすると自由と放縦とを混同して放任主義になるやうでは圖畫教育の効果を擧げることが覺束ないのみか頓でもない蹉跌を來たす恐れがある、故に之が指導法は眞摯な研究を要するのは勿論である。我校では先年來自由畫を課して居るが其成績によつて見ると兒童の觀察力は中々緻密であり其の着眼點は頗る奇拔であつて大人も及ばない程の藝術的眼界を持つてゐる事が知られる而して初學年程彼等の想像と記憶によつて無頓着に最も自由に放膽に描かれ居るが學年の進むに從ひ縮み行くやうな傾向をもつて居るこれは前にも述べた通り從來の圖畫教授法が靜的のもの即ち臨本摸寫で形がよく綺麗に描けたものを良成績とする等頗る窮屈で兒童の個性兒童の自由を重んじ十分に其の手腕を發揮せしむるやうな教育法を採らなかつた爲であると思ふ。又寫生をせしむるにしてもこう描かねばならぬと教師が教へ込むことに力を入れ兒童の缺點を指摘して兒童自らが發見的態度に出でしめなかつた爲であらうと思ふ。兒童の天性は美を表現せんとする強き欲求をもつてゐる、故に教師は徒らに美を強ひることなく、自由に自然の美を發見せしむるやう導かねばならぬ、自由畫が教育上大なる價値を有するのは實に表現法の自在な點にあるので、兒童は茲に自己の新天地を開拓し得るものであらうと思はれるゝ尚成績品處理に於て其の優劣を批判する上に方針や態度を變更せねばならぬと感じてゐる、即ち從來の樣な型に嵌つた繪、大人の描いたやうな繪を優等と見てゐた考を捨てゝ、眞に兒童の個性の閃きのある彼等の生命の宿つてゐるやうな繪を優れた作と見なくてはならぬ。そして兒童にも此考を吹き込んで眞に意義ある自由畫を描かせたいと思ふ。

發表題　自由畫に就て

大垣市　松永省三君

私は自由畫教育説に就て感せし所を述べたいと思ひます。單なる感想に過ぎないのでありますが、私の心を描き出した一枚の自由畫だと思つて聽いて頂きたいのであります。

私は自由畫教育説を聞いて非常に感動し感服し從來の圖畫教育が如何にもつまらぬものであると思ふ一人であります。自由畫教育説を唱ふる人は少からずあるやうですが、私は先づ山本鼎氏の説に觸れて大なる感動を得たのです。山本氏は御承知の教育專門家ではない一藝術家であります。從て其説かるゝ所はやゝ外部よりの觀察といつたやうな所はありますが藝術家だけあつて其所説が何等教育者臭くなく最も自由に最も勇敢に氏の眞情が何等拘束さるゝ所なく全説に流露して漲つてゐるのであります。私は此くの如く大膽に此くの如く囚れざる教育論説は自然に向つて常に自由なる研究をなしつゝある藝術家にして始めてなし得ることかと思ふのであります。

山本氏の自由畫説は現今の圖畫教育界を見て憤慨の餘りに出たものと思へます。現今の圖畫教育界を見ると相變らず臨畫の一天張りでやつてゐる人も少くないやうです。尤も此頃は新定畫帖がだいぶ使用されるやうですがそれも殆んど臨畫的に使用され中に臨畫寫生等の區別がしてありますがそれを見るのも面倒かり又臨畫寫生の區別を知らない人すら少からずあるのが現今圖畫教育界の實際かと觀察するのであります。今是を山本氏の口調を借て言ふと全國幾十萬の兒童は國定臨畫帖と銘打つた安つぽい印刷物に導かれつゝあるのであります。兒童の創作力の發達に何故に多く注意が拂はれないのでせうか。又兒童の個性的表現を何故に尊重しないのであるか。と思ふと全く馬鹿らしく感ずるのであります。

私は今こゝで自由畫教育説の受賣店を開いて大に廣告したいと思ひますが、こゝには直接取引をしてゐらるゝ諸賢が澤山居られるやうだからそれは止めます。

要するに私は自由畫教育は現今に畫ける最も進歩したる圖畫教育だと思ひます。然し自由畫教育説を充分理解し遺憾なく實施することは相等に六ヶ敷しいことだと思ひます。此點に就ての私の研究は今尚進行中にあるのであります。

發表題　圖畫用具と經濟

揖斐郡　河野大助君

I　兒童の用具と其の理想

最も簡單な圖畫の用具はと要求されたなら、何もいらぬと答へられる何とならば親に貰つた指をもつて、大地に畫かしめればそれでよい。今少し進めたら、紙でも木の葉でもよいかくべき物に畫き得べきもの、しるしをつけ得らるゝものをもたしめればよい。消炭でもよい、もえ殘りの柴でもよい、畫こうと思ふものを畫かせればよい。けれ共苟くも小學校の圖畫の要旨を土臺にして、子供を仕立てゝ行くにはそんな譯にも行かぬ。しからば實際田舍の子供はどんな用具をもつてゐるか又比較的理想の域に近い圖畫用具とどんな懸隔があるかとしらべてみるに、時によつては大地に指で畫かせた方のよいような用具をもつてゐるものがある曰く。カチ〳〵のひからびた七錢か八錢の水繪具子供の大部分が書き方と混用の繪筆を持參し破れた筆洗に繪具皿皺のよつた畫紙、きれぬ小刀、自轉車のペタルのゴムを消ゴム代用に用ふそして木目のわかつた机の上でゴシゴシ畫く實に慘なものである。みられたものでない。そこへもつて來て教室へは定員以上の兒童をつめこんで、しぐらひ教室にくすぶつて立つた時教師

の頭にも兒童の頭にも美的もへちまもあつたものでない。その內に用具を忘れて來た兒童が『先生畫紙がありません』『先生筆忘れて來ました』と來た日には圖畫敎授も何も言つたものでない。ほんとに敎員がいやになつてしまふ。だから種々の理論は扨ておいて先第一に欲求しなければならぬものは、用具そのものゝ取揃へである。理想と迄とはいかなく共、新しい繪具（それは常に使れつゝある繪具）ほさきの白い軸長の筆二三本皺のよつてゐない畫紙、畫紙に畫針、畫板４Ｂの鉛筆よく利れる小刀、三角定規コンパス竹尺、けしごむ羽箒木（何の羽でもよい子供の拾ひ集めしもの）しろいふきん筆洗と繪具皿、今一つ現代式に欲求したらクレヨン。パステル、色鉛筆、スケッチブック位はもたしめなければならぬ。上見れば限りがない理想の領域には達したいが達する事は到底六かしいがまあ〳〵田舍の兒童としてはすべての點から考へてみて以上位でよいと考へられる。

II　田舍の兒童と家庭の經濟狀態

そこで今田舍の兒童に果して何かも揃へさせ得らるゝだらうか目今の樣に財界の不況は最も酷烈に農村にあたり疲弊の極に達し、惡い思想の浸潤は田舍にまで深く入りこんで小作爭議は至る所の村々に起つてお互に我利を主張していつ圓滿になり相もない、しかも農民はその中にたつて自覺もせず、いたづらに都會の皮想をまねて華美になり虛飾に流れそのおちつく所をしらず地主も小作も手も足も安氣にのばせぬ程財政の苦境に陷つてゐる。お上の費用に追ひたてられ自分達は麥めしにこうこ位で胃袋に滿足をあたへて星から星へと働いてまだ餘のない有樣でそこの中を學校へ出して、一日使へば相當家の仕事の手傳をさせ得らるるものを休ませずにだしその上學用品の費用を交々ださねばならぬ仲々大儀なものに違ひない。農村の各家庭の經濟狀態は細々いふ迄もなく實際小數のリッチをのぞくの外皆みじめなものである。

III　兒童の家庭生活狀態を其の學校用具の費用

したがつて生活の狀態もそれにつながつて衣食住共に都會のそれにまねしたくもまねられず仲には衣食の途にさへ追はれてゐるものさへあり親として愛兒の學用品の購入費をだし惜しむようなものはないにしても毎日二人三人の子供が各々二錢三錢と金をだすのはあまりにうれしくもない事であり又樂なことでもあるらしく思はれません。

IIII　他學科との兒童各自の費用の比較

殊に圖畫科に於ては他學科と異り、かく畫紙も鉛筆も共に消耗品であつて比較的高價な用具に於ては他學科の用具より必ず多額に昇るにちがひないことはいふ迄もない事である。他學科が圖畫の如くでなく、親もみとめて居る他學科はあたりまへの雜記帖とあたりまへの鉛筆があれば（習字理科をのぞくの外）間にあふ者で圖畫科の用具の取揃へには多少他より多く費用が入りしかも一向親の方でも此の頃は學校ではデコボロを一生懸命になつて畫かせてといふ樣になつて來るのである。

V　文部省の定めた新定畫帖による描寫のみを基としての兒童の用具

けれ共實際文部省の定めた敎科畫帖を基として必需用具を掲げて見れば

色鉛筆　十五錢　　筆　大小各二、　二十錢
クレヨン　二十錢　　鉛筆　五錢
繪具　二十錢　　コンテ　八錢
色畫紙　筆洗、繪具皿、定規　コンパス　畫紙挾　畫板　畫針、曲尺　ミトリワク、羽箒

以上位は必ずもたしめたいのであるいくら最小限にみても以上位は入るけれ共その中で又學校費で購入しておいて其の必要に應じて貸し與へてもよろしいものもある、とにかく存外要るものである。

VI　提唱さるゝ自由畫等による兒童の用具の理想も田舍の子供本位として特に限定して持たしむべき用具

そこで現にやかましい自由畫なんどといふことから考へ用具の理想をいつたら油繪具ももたしたいそれに圖する道具を一切、パステルテンペラまだお互のしらないもので世間の名代の畫伯又は圖畫敎育家等にたゞしてみたら大變な事だらうそれは東京ならば西村氏の文化學院か素敵な名士の子供を集めた學校なんかで始めて出來得る事で田舍子供としては勿論そんな理想に達せしむる事等などは夢にもみられないのであつて、田舍子供としてはやはり一般新定畫帖に必要な用具位よりもたしめられないだらうと考へられる。しかし農

資な用具を用ふといふ事は眞の經濟から云つて多少價はたかく共効果が目的にかなへばよいのでその程度の良質といふ事である。

VII 學校に於て出來得る限りのよい施設をなして學習能率を高め子供の經費の幾分をかろからしむには

子供にばかりにそんなに用具をもたしめても子供を集める肝心の學校でも出來得る限りの設備をせなければならぬ。さきに述べた樣に暗い敎室へ八十人の餘も詰め込んで七分三分の机に鼻たらしをこしかけさせがらす窻をほこりに汚してふるめかしい黑板のはげたのに向ふてさて敎へにかゝつても子供はどんな理想的の用具を具へてゐても兒童の心そのものが子供ながらに乘氣がしないだらうと考へられる。そこで當校でも第一に圖畫科の新刊書をそなへ新刊の雜誌を購入し從來の圖畫科に關する書籍とによつて新舊相てらして其の長短をとり敎師自身が新しい智識や昔の眞をうかがつた先輩敎育者の說をうかがひ偉い人のかいた藝術品をたとへ寫眞の上からでも眺めて修養し敎師の腕と頭の改造をせなければならぬ。すると敎師が眞に圖畫に趣味をもち一歩進んで藝術の境域に泌入りこんで來たら繪をかく上の施設位はきつとうかんで來て施設をせなければならぬ樣にするだら赤う手空拳もよいが技能と頭のないのはあまり感心しない。高い窻から美しい光線をとり入れてせめてまどかけも白とも一色じみな色のまどかけ位はかけておいて、塗板も二面はかけて棚やなにかはあまりつけず戸棚の淸洒なのを二本位おごつておく必要はある腰掛だけ位は一人がけにして寫生臺の二臺位ごく簡易なのでよいから備へておきたいものである。

そして圖畫用具の一式を揃へて十人前位は物によつては二級の兒童の用ふ位の數は備へて村といふ一つの大きな財布によつて貧困にくるしむ兒童の負擔をかろからしめるのも大切なことである。

そして敎師も子供のためを思つてやり細い所迄注意してやりお互の用具をみだりにつかはない樣にすると共に一本の鉛筆のけづり方から一本のクレヨンの用ひ方にも或は畫紙の撰擇皆細心の注意をし今一つは子供の個性をあまりに尊重しすぎて放肆に流れたりせしめず學用品の取かたづけ、又は保管に注意せしめ、移りやすい子供の心のまゝど忘れしたり、或は子供同志交換したり、つまらぬ傷をつけたり、ながい軸の筆をみぢかく切つたりさせない樣子供と根氣くらべの注意が大切である。丁度軍人の武器に對する樣にその學用品に對しては一つの尊重せねばならぬ氣風をやしなひかりそめにもたゞくさにせぬように訓練する必要がある一つの方法としては圖畫用具入れの袋を作らせて其の中へすべての用具を入れて紛失や過失による破損等の損害をふせぎ不注意による無駄費をさせぬことによつて用具の經濟を保つことが出來ると思ふ。

VIII 圖畫敎授と敎授者の修養

そこで敎師自身も身を持するに特に勤儉であつてネクタイ一本の代價で五六百枚の畫紙の購入せらるるを思ひ、敷島一個がクレヨン一箱になり頭髮につける油一つが立派な繪具一個の購入代となる事が考へられたなら尙又自分が仕立てようとする子供が眞に可愛いかつたなら用具の簡單な施設位はあながち村の財布をあてにしなく共みのまわりの儉約からへぎだせる筈なのであるそして眞の親が子に敎へる態度で敎授の任にあたれるでないか今一つ苦言を呈するならばもう一歩身を修養の境域に入れて子弟の關係をより多く愛の境へ入れて自己をためて敎授にあたつたならどんな子供にも不公平なくひがませなく敎授の出來るものなんであろう敎授者からみたら平等に可愛がるべき兒童與の親からみたら是また子程可愛ものはない貧富の差を問はず親の愛に等差はないであろう。今貧困の兒がかたはらにゐる富者の子のもつてゐる用具を見しいかにも羨やまし相にしてゐる時それが子供であるだけよけいぢらしくしかもこれが救濟たるやほんの小さな力でなし得らるのである、尙自己の技術的方面の修養もおこたりなく行つて理論も實際から割りだして行つたなら自然と自分の經驗から用具一切に涉り又は敎授の方法から訓練の方面に至りこまかい點に氣がつけられて小さいながらも徹底した圖畫敎育が行はれ藝術敎育なんていふ芽ばえも含まれて來てきつと敎師も兒童もたのしい氣分を以てこの仕事につくことが出來るだろう。

IV 動きやすい目今の思想と異にすゝむべき圖畫の道とのそれにつながる經濟

動きやすい目今の思想界は若い吾々を常に「新しい」といふ一つの言葉の爲に隨分と迷せる、新しくはなら

なければならぬ常に新陳変替はしなくてはならぬけれ共自分でも了解に苦しみ、自己の内心にふれないでしかも新しがりで其の方面に走り、いたづらに過去の仕事をけなし、目のまへに進んで來た新しさをまだ確實な過去の強々による經驗も出來てゐないのにそのつまらぬ頭をもつてすぐ解決をつけようとするのは無理である無理位でない全く無茶である。ほんとに過去の仕事が面白からぬならば現今の人間は皆出來そこないでなければならぬ。又新しき説を作りなした人はその世間に發表する迄にきつと大きな苦しみとたゝかつてそこに一つの世間へだしても恥しくないと思へる經驗を發表したのであつてそうして作りあげた一つの説を其の人が自分の努力によつてなせばそれは眞に貴いが昨日の事を今日まねてはお互相對的の仕事にたづさわるものにはとても喰つつかない仕事になつてしまふのである。あの山本畫伯の自由畫教育なんかもあの人のその路による大きな苦心と立派な日本でも有數な藝術家といふ大きな力がなし得たものでお互小學校の先生樣が今日から早速まねようかでは駄目である苦心の汗と辛抱の油でこしらへ上げた教授の實際がほんとの教育なのである。故に吾々の進むべき殊に小學校の兒童といふ者を預つて進むべき以上徒に新しがらず又古きをふまず自分の修養によつて時間にも金にも仕事にも無駄なくことごとく經濟的にやらなければならぬのである。

尋常科第五學年圖案教授案

十月二十日　　教授者　中　島　光　雄

一　題材　校門附近の樹木、建築物

二、時間配當　第一時　美術的の看方　描寫批正　第二時　描寫批正　鑑賞批評　次回の學習區域の決定

第　一　時

三、目的　樹木又は建築物を主題とせる景色を描かしめて藝術的の看方及美的表現能力を養ひ併せて風景描寫の趣味を向上なさしむ。

四、準備　（教）畫板　見取枠畫紙の配布

（兒）クレヨン　腰掛　題材決定

題材豫想｛校門から見た町／門衞の家／校門／銀杏の木／松の木

五、教法

（一）兒童を校門附近の一部に集めて次の事項を指導す。

1　中心となるべき同じ樣なものが二つあつて惡いこと

2　題材と描者との距離に注意すること

3　最も美なる方向を見すこと

4　畫面の切り方

（二）各自の場所に就かしめて描かしむ

（二）の四事項の指導に全力を注ぐ

（三）同一題材を描寫してゐる兒童を一組として左の指導をなす。

感じ　明暗の調子　陰影

順次に各組を巡回して指導をなす。

（四）個人指導をなす

第　二　時　（略　す）

授業の經過

（教）集れ―（兒童を校庭の松林の小影に集める）

今日は天氣がよいから氣持のよい繪が描けるでせう。展覽會があるし參觀の方も多いから氣がおちつかないでせうが注意してしんみりとやつてもらひませう。描いて貰う前に此の二枚の繪を見てもらひませう。圖の取り方だね。私は同じ所を畫いたのだがどちらがよいのですか。

（兒童一同擧手して發表を求む）

（A兒）左の方がよいと思ひます。

（一同）はいそうです〱。

（教）私も左の方がよいと思ひます。なぜ左の方がよく見えるのでせう。（擧手するもの多し）

（B兒）右の繪の松の木は二本とも同じ遠さにあつて

變ですが左のは遠近があつておちついて見えます。
(一同うなづく)
(敎) さうです。右の繪は中心となる同じものが二つあつて奥行がないがこちらの繪は此の松が主で此の松は副になつてゐて奥行があるからおちついた繪になつてゐるのです。皆さんも此の繪のやうに中心となるべき同じものが二つあるやうな圖取をせないやうに氣を付けてもらひませう。次にはどの位の距離や又はどの方向から畫くと最もよいか。どのへんまでを畫面に入れるとよいかを研究して描いてもらひませう。自分の描く所が定つたらクレィョンで二時間の中に仕上げてもらひませう。
(兒) (各自思ひ〱の場所に散る)

位置の取り方につきての個人指導

例 1

(敎) そこの五人は一寸止めなさい。あの門衞は此處で畫いた方がよいか、もう少しさがつて畫いた方がよいか一度驗べなさい。
(兒童は右へ行つたり左へ行つたり後へさがつたり前へ行つたりして見た)

(C兒) 後へさがつて見た方がよろしい。
(敎) ではさがつてお畫きなさい。

例 2

(敎) 小野木さんと岩田さん、其處は日が當つて畫きにくいでせう。木影の所で今よりもよい所があります。見つけて見なさい。
(兒童適當なる小影を求めて描き出す)

例 3

(敎) 青木さん何處を畫きますか。
(兒) あの女子師範の椎の木を主眼にしてかきます。
(敎) そらあの高くそびへた椎木や女子師範の屋根、煙突、電針柱等で畫面をどう切つたらよいかよく考へてやりなさい。

觀方についての個人指導

例 1

(敎) 家を畫く人止めなさい。前の家をよく見なさい一ばん明るい所はどこですか。
(兒) あそこの釘の打つてある所です。
(敎) その明るい所や其の隣の暗い所等色の明暗によく注意してやりなさい。

例 2

(敎) 椎木を描いてゐる人一寸止めなさい、暗い所があるでせう、どこが暗いかよく見なさい、そらあの椎の木のすき間より上つた所と其の上とはどちらが明るいね。
(兒) 上の方が明るいです。
(敎) 幹の色は陰で一寸色がちがつて見えませう。よく色の明暗の調子を觀て畫きなさい、あの椎木の感が出るやうに。

例 3

(敎) 安藤さん、あなたはどこですか、大變むづかしい所だね板べいの色と土の色と木の色との調子が大事ですよ。

例 4

(敎) あなたどこを畫くのですか。
(兒) あの靴屋の屋根です。
(敎) あなたにはそんな風に見えますすか。
(兒童自己の畫いた家と實物の家とを見くらべ畫いた繪の誤りに氣付いたらしい)
(敎) 畫板を横にしてこうして屋根の峯の近い所を此の線につけて峯の方向を見てみなさい。
(兒童實際に試みる敎師は透視につき指導せり)

例 5

(兒) 先生あの門衞のガラス戸のがラスはどうして書くのですか。
(敎) それよく見てごらんすき透つて室の内が見える所がありませう又光がてりかへして光つて見える所がありませう、暗い所は暗く明るい所は明るく描くのです。

例 6

(敎) 荻野さん一番明るい所は何處かね。
(兒) 屋根の日の當つてゐる所です。
(敎) 一番暗い所は。
(兒) 門衞の軒です。
(敎) さうですね屋根では日の當つて居るところと木の陰になつてゐる所との調子に注意することゝ又一番明るい所と暗い所との大きい調子も大切ですよ。

批　評　會

(議長) それでは午前の授業について皆さんの御意見を承はることにいたしまして、先づ敎授者の御説明を

願ひます。

中島君

自信のない拙い授業を御熱心に見て戴いて誠に有難うございます。私の本日行ひましたのは私の考へてゐる自由畫取扱の一部を行ひましたのでありまして餘程直接指導を多くした場合を見て戴いたのであります。以前までの經過を申します。

私は此の四月から受持つたばかりでまだ自分の手のものになつて居ないのであります四月からは大體別紙學習要目にあらはれてゐるものをやつて來まして今度樹木建築物に入つたのであります。細目には水繪具クレイヨン黒鉛筆等で練習するやうになつてゐますがクレイヨンの研究の爲此の組には始めからクレイヨンでやつて居ります。

自由畫論のやかましい此の機に諸賢に見て戴いて御指導に預ることの出來たのは私の大いに喜びとする所であります。どうか御腹藏なく充分御批評御指導下されんことをお願ひします。

（議長）御質問御批評と別けませんから、其都度御質議の點は明らかにして御批評を承はることにいたします。

（坂井範一君）先生が兒童に注文したことゝ異つた畫き方をしてしかもそれが誠によく描寫した場合の取扱ひはどうしますか。

（中島光雄君）私の見えないのは藝術觀の足りないのであります。よい表現さへすれば賞めます。然しそれには賞讚する時機と方法とに注意せねばなりません。

（中島源九郎君）敎授案に見取枠の準備がありますが兒童が隨意に使ふのでありますか。

（中島光雄君）見取枠を用ふやうに案を立てましたが今日は此の組の子供には困難であるやう思へましたから止めました。

（中島源九郎君）臨廓は必ずとることになつてゐますか、とらないのか、色もどれでもよいのですか。

（中島光雄君）鉛筆で臨廓をとるとクレヨンと調和しませんから、全部クレヨンで臨廓をとります。そして臨廓は必ずとれと云つてゐますが、とらないのもありました。

（坂井範一君）今日の授業の感想を述べますと私は今日のあやまれる自由畫敎育に注意して、科學的に敎授せられた樣に思ひます。

兒童の描いたものを寫實に描くのはよいが、あゝよいと云ふ取り扱ひをすると子供は變つたものを描けばよいと思ふから寫實とは違ふが創作して行く樣にはならない故に今日の授業は科學的なことを授けて其れに合ふ樣に取り扱つたのはよいがこの創作の養成からはいかゞと思ひます。

（加賀虎馬三君）私は今日の授業を見て結構で成績もすぐれて大に見るべきものがあると思ひました。併しもう少しどうかと思はれたのは餘り部分的の描寫に敎授者の目が注ぎすぎたかと思ひます。

繪を描くには畫面に表れるものは自然よりもくぎられたものであるこの中に生命を入れると云ふことを頭に置いて描せねばならん。

兒童の各の成績に兒童のモチーブ書かうとする心持を取らへてやることが大切である。この心持が知れんのにいろ／＼云ふのは考へものであります。

兒童がこの邊が表はせんと云つたら、其れは明るいと暗い方との歩合はドーだと云つた調子に子供の感じによつて指導するとよいと思ふ。

授業の途中にこんな色ではないでせう等のことがありましたがこの點が如何かに思ひます。

（野尻二太郎君）私は一つ氣のついたことを申し上げます。

昨日も發表しましたが兒童の創作を進めんとする場合に敎師の細い指導は餘り効がないと思ひます。兒童の質問に對してヒントを與へることが創作力養成であるかと思ひます。

（平場庄次郎君）自由畫の八ケ敷間しい今日其れによつて授業を行はれたのは誠によいことであります。

自由畫は決して無指導なものではないと考へますが兒童の誤りかけの點をよく指導されたと云ふことは結構であります。殊に成績物も非常によく出來て居ると感心しました。批評の批評になりますが48番の御方は本日の授業に贊成をされましたが、48番の御精神は兒童の表現にまかせて指導をしないと云ふ御意見でありましたのに贊成をされるのはいかがと思ひます。

（加賀虎馬三君）只今申し上げたのは私の眺めた所か

ら申し上げたのでありますが、私の贊成する所は兒童の成績より其の過程を見て日頃の訓練が五年としてよく行き届いて居ると思ひますが敎授者の言葉が本日は餘りに強くはなかつたかと思ひます。兒童を認められた點に贊成をしましたので一部分はよくて一部分はいかゞかと思ひます。

(平塚庄次郎君) 只今の御說明の樣に一部分でも贊成し肯定したなら小學校では決して指導しないと云ふ48番の御意見から見ますとハツキリいたしません。

(加賀虎馬三君) 小學校に於ての仕事に指導しないでよいとは思ひません。

(平塚庄次郎君) 態度はいかがですか。

(加賀虎馬三君) 先き程申しました通りであります。

(平塚庄次郎君) 明日の御發表と本日の御意見との間にドウモハツキリいたしません。

(議長) 其れではこれで批評を打ちきつて本校の兩鈴木先生の御意見を承ることにいたします。

(鈴木考英先生) 私の贊成の點は敎授者の態度のよいことであります。個人指導は六ケ敷いことですがよく出來たと思ひます。多少考へねばならぬ點は兒童の誤れる點を指導する時誤りを見出す方法を知らせて早く知るやう常に訓練することが必要であります尙ほ一つは大體の形を描くことは兒童には困難であるから之れも常に訓練して大體の形が描ける樣にして置かねばならぬと思ひます。

(鈴木武平先生) 私の感想は大體一致して居ります。よいと思ふ點は成績から見てよく寫實されて居りますし又指導の言葉や方法もよろしいと思ひます。又大體の說明があつてから描くことに入り細部の指導を行つたのはよいと思ひます。少しいかんと思つたのは、校外寫生の時は場所を調べることが大切ですが本日は大體は調べられた樣でありますが構圖の說明の時もう少し多く構圖の工合を說明されたらよいと思ふ。もう一つは大體の廓臨より入りて描かせることが必要かと思ひます。尙は個人指導は兒童に理解させることが大切でありますし遠いものを引き寄せて描くことがあるから注意せねばなりません。

(議長) これで批評會は打ちきります。

發表題

手工科に於ける余の意見

岐阜市 柳原憲一君

一、現代の敎育思潮と手工科

小學校敎育は勿論職業的敎育ではなく、すべての各敎科の敎育的目的は全人敎育卽ち全人格の陶冶に向つて統合させるべき一方面を擔任してゐるものである。特に手工科は身心の兩方面に亙つて陶冶をなすべき一大使命を背負つてゐるものと思ひます。此の意味に於て爾來手工科は總べての敎科の中心とならなければならないと思ひます。

近來起れる諸敎育學說も皆等しく手工科の普及發達を以て敎育發展の一大要素となすは誠に尤もな事と思ひます。

二、技能科敎授の缺陷

現時の敎育は總べて形式的結果的尊重主義で特に技能科に於いて然りと思ひます。少しも兒童の心的方面特に創作的氣分を尊重すると云ふ點に於て缺けてゐるやうに思ひます。たとひ兒童の創造力養成が大切であるといふ事を知りつゝも尙結果尊重の念にかられて知らず〳〵の間に兒童の創作的氣分の芽を蹂躙して仕舞ふといふ事も多々あると思ひます。

特に下學年(一二年)に於ては技能の實質的陶冶を重視しないで、どん〳〵兒童の好むところに從つて製作させ只創作的氣分の養成を主としたいと思ひます。

三、敎授者の常識

手工は目や手の働きで材料に加工する技能であるから余は敎授者として先づ第一に工具に關する一般的知識とその使用法について熟知することが大切である。この點が一般に缺けて居るやうに思ひますから左に其の主なるものについて余の知れる所を述べて見たいと思ひます。

「研究會の節印刷物として會員に配布したもの」

四、製作と體驗

製作には目と手と工具との三つがうまく調和した境地があります。此の境地は決して敎へて敎へ得るものではなくて自らの體得であらねばなりません。其れには先づ敎授者自身がこの境地の體驗者であらしたいと思ひます。

要するに余は兒童の創作的氣分を尊重し且つ助長し一方には、敎授者自身工具に關する一般的知識を豐富にし且つ合理的なる使用法の體驗者であらしたいと思ひます。これで始めて眞の手工科の敎授者といふ事が出來やうと思ひます。

工具に關する一般的知識竝に其の使用法

一、鎚

一般に柄を長くして其の本の方を持つて打つ、斯くすれば槓杆の理によつて力が強くあたる。又狙がよく定まる。

二、錐

黑人の錐と素人の錐とは一見してよく分る。卽ち柄が長くて手で捻る部分が細くしてある。これは錐が動搖が少ないから孔の口元が大きくならず、眞直に孔を穿つことが出來る。又廻轉の數が多いから早くあく。

三、小刀

小刀のみならず刄物の切れ味が分るやうになれば其の人の技術も餘程進んでゐるのである。是が鑑識の能は眞に體驗によつてのみ體得し得られるもので決して敎へて敎へ得らるゝものではない。乍併手工科の指導者は少くとも此の境地にまで達して然る後敎授に望みたいものである。

小刀は細工せようとする材料によつて其の硬度と研方を異にする。

竹を削るものは稍硬度の高いものが可い。研く時には裏研きをせない。

一般に刄物は硬きに過ぐるよりも稍アマイ方を可とする。切れ味よく刄の缺ける憂少く、且つ研き易いからである。

四、鑿

鑿の最も大切なる部分は刄の兩角である。若し何れかの角を損じた場合には修理を要する。穴を穿つ場合は寸法線よりも少し控へて打ち込む。

臍穴に臍を仕込む細工をなす場合には臍が穴の腹の部分で利かないで木口の部分で利かす樣少しく長さを控へる。斯くすれば穴の割るゝ憂を避くを得、尙固く仕組む事が出來る。

五、鉋

鉋の最も大切な部分は裏面と鉋身の角度と切刄の鋭利な點である。

裏面は時々檢査をなし、不正な時は直ちに修理を要す。修理をする時は橫削りにする。鉋身と裏面とのなす角度は八寸勾配が最も良い。

角度を大にする程逆目が起きない。だから角度を增すために鉋身の上におさへを重ねて使ふ。

裏刄の切れたのを修理するには鋼鐵の部分を叩かず、地金の部分を一樣に叩く。

使用せない時は必ず鉋身を緩めて置くことを怠つてはならぬ。鉋身を下にして置くときには必ず裏刄を下にするがよい。然らざるときは、刄を損するか又は怪我をなす虞がある。

物を削るとき竝に研ぐときは腕の力のみを以てなすにはあらずして、身體全體の調子を以て極めて自然に樂に働かすを要する。此の調子を整へる事が體驗に俟つ點である。

削る場合は材料の木裏、木表をよく見て、木裏は本の方から、木表は先の方から削るを要する。若し逆目の起きた場合は出刄と鉋を動かす速度を加減する。材料に土の附着してゐるときは必ず鑿を以てそばを除いて削らねばならぬ。其の儘削るときは刄を損ずる。

六、鋸

普通に鋸の大きさは實長よりも一寸增に呼ぶを常とする。而して其の原料たる鋼鐵に二種ある一は玉金を原料としたもの、一は板金を原料としたものである。

イ、鑑別法

右の二種の中玉金を原料としたものが上等で、これは頸の所に繼目のあるものである。乍併故意に繼目を拵へた僞造品があるから鑢を以て二、三齒磨つて見るのが一番よい。

一般に鋸の良否は其の上端を以て曲げると正圓の一弧をなし手を離せば元の狀態に復するか、又は爪で彈いて其の音が高く澄んだのが良いのである尙鋸の一端

を持つて左右に振りペコ／＼と音のするのは腰の折れた鋸で使用に堪へない。

ロ、使用法

これを使用するには鉋を使用すると同様に身體全體の調子を整へて挽く。眞直に挽くには材料の面と鋸とのなす角を小にする。

竹を切るには竹を手前の方へ廻しながら向ふ側を切らねばならぬ。然らざれば切口が篦のやうになる。

一般に鋸の柄は長い方がよい。

七、鑢

鋼鐵は必ず燒を戻してから擦る。又決して重金屬や木等を擦つてはならぬ。鑢の目にこまつて使用に堪へないやうになる。

八、鏝

新らしい鏝を初めて使用する場合には先づ中央より先きの部分にハンダ蠟を塗り附け置かねばならぬ、そうでないと使用するときにハンダ蠟が鏝に附着せぬ。これにハンダ蠟をつけるには鏝を熱して鹽化亞鉛の中に入れてハンダ蠟を擦り附ける。斯くすること數回にして漸やく使用するを得るやうになる。

厚味の厚いものは熱の傳導が大であるから鏝が早く冷却して接合に困難であるから、斯くの如き材料のときは酒精洋燈で細工する材料を熱してハンダの小塊を其の上に乘せる。ハンダは熔解してうまく着く。繼目の間隔は狹い程接合に都合がよい。

九、喰切

釘拔の代用とする事が往々あることであるがこれは絶對に禁ずべきことである。

一〇、砥石

刄物の切れ味は偏に砥石に依る。舟底形になつた砥石では全く研ぐ用をなさぬ。これは使用法を誤つた結果である、研ぐときは砥石の眞中のみで研がないで、向ふ側へ研ぎ下さねばならぬ。又時々上下を轉換するを要する。

名倉砥は砥糞を作るのが目的である。砥石が磨れ合ふ面に砥糞が入つて始めて刄がつくのである。心得のない者は名倉砥で折角砥糞を造り乍ら奇麗に洗ひ落して用ふるが、これは全く砥石の使用法を知らないものである。

要するに私は教育者として今少し工具に關する知識を豊にし且つ合理的な使用法を體得したいものと思ひます。これでなければ眞の技術の指導は出來るものではないと信ずるものであります。

發表題　手工科教授批正に關する研究

不破郡　高橋泰一君

一、批正

批正法の如何に依つて教授の全部を意味するものは發表を主とする技能學科である。故に之れの攻究の必要は勿論のことであります。

十分に成績を擧んとすれば確實な方針の下に明瞭な要を定めて最も適當な方法を以て批評し訂正をしてやらなければならない。

二、批正の方針

1　主眼點を定めて置かなければならない。

兒童の成績品及び作業は豫め其の主眼點を定めて一歩々々に親切に批評を加へて決して漫然と批評してはいけない。

2　一般的よりも個別的にしなければならない。

各個人の能力に適應する樣個別的にしなければならない。

3　具體的でなければならぬ。

皮相的、抽象的に流れないで部分々々に就いて具體的に明示してやらなければならない。

4　合理的でなければならない。

製作の順序工具の使用法其他總て工作は合理的でなければならない。

5　兒童自ら發見訂正させなければならぬ。

自己の製作品及び他人の製作品に付き美點缺點を識別させ批判的眼識を養ひ自己に發見訂正せしめる樣にしなければなりません。

6　賞揚してやらなければならぬ。少々の缺點を指摘

して惡評を加へないで少々の美點でも美點は逃がさず相當に賞揚して兒童をして得意心を起さしめて自發的精神を養ふ樣にしなければならない。

二、批正の要點

敎法上より見たる要點

製作品及び製作法の差異に依つて敎法が異つて來る故要點を定めておく必要がある。

1　直觀法の製作の場合

觀察したるまゝを製作せし場合卽ち實物、標本、模型等について觀察の方法の正否を驗し、技術上に於て發表を誤つたり困難を來したりすることがあるから注意して批正しなければならない。

2　創作法に依りて製作せし場合

イ　指定要件の理解の正否

敎師が要求した寸法、形狀、構造等に關して正確に理解し得たか、否かを驗し若し誤謬あれば訂正してやらなければならぬ。

ロ　製作の順序の可否

兒童は製作するに當つて物品の仕上を急いで順序も顧ずに作りたがるから、作業に非常に徒勞を來し且又不成績で不確實であるから自作に依るときは其の順序の可否を驗し批正し工作するに適當な判斷力を與へてやることが必要であります。

ハ、意匠の巧拙及び適否

審美的要素を具備して居る考案か、工夫の奇拔であるか又兒童に適當してゐるか否かを批評してやることが大切であります。

ニ、材料使用及び用具取扱ひの可否

兒童は製作品にのみ着眼して材料の濫費のことは少しも顧みず又用具の各々特質あるをも考へず使用するから、不經濟に流るゝことがあるから容易にそれ等を扱ふ方法を知らせて經濟的思想を養はなければならぬ。

作業上より見たる要點

イ、作業中の姿勢と努力

技能敎科の通弊として多く結果を認めて途中の努力を認めないから成るべく作業中の努力の程度を視察し且つ熱注の結果姿勢の亂るゝことがあるから注意しなければならぬ。且つ又細工の種類に依つては相當の身構へも必要であるから適當に姿勢態度を批正して意志陶冶に留意しなければならぬ。

ロ、手際の巧拙

同じ樣に模倣したものでも手際の巧拙があるから巧なる理由を指示し、拙なるものには改善の策を指導して奮發心を惹起せしめることが必要であります。

三、批正の方法

兒童の發達程度，敎材の種類に依り批正の方法を變化させて行ふべきであります。

批正の方法
- 敎師
  - 個人批正
  - 一般批正
- 兒童
  - 自己訂正
  - 相互訂正
- 共同批正

1　個人批正

多く敎師が机間巡視して行ふので最も功果が多いが單時限に多く行ふこと難き爲め放課時間に批評箋に記して製作品に付けて置くことがよろしい。

2　一般批正

此の場合は一般共通の缺點があるときにて作業中止して行ふものであります。

3　自己訂正

此の方法は早く出來上つた兒童の處置法として最も便利な方法である此のときは製作の要點を指示するのがよろしい。

4　相互批正

此の方法には二種あります筆頭と口頭で隣席兒童相互に行ふことが出來る便がある。何れも敎師が其の解決をして兒童に十分に反省せしめなければなりませぬ。

5　共同批正

此の方法は多く一齊に仕上つた場合に行ふので方法としては優秀なもの、劣等なもの、又優、中、劣等の比較批評とがあります。（終り）

討議題

手工科に於て創作力を助長せしむべき具體的法案如何

土岐郡　加藤秩夫君

（議長）加藤君に御說明を願ひます。

（加藤秩夫君）創作力の養成は如何にして得らるゝかの具體的方法を承りたいと思ひまして本問題を提出いたしましたのであります。

（議長）何か御質疑がありませんか

（杉山甚市君）創作力とは如何なる意味でありますか。

（加藤秩夫君）一般に云ふ創作力であります。小學校では全部の創作は六ヶ敷いから一部分の創作をもこゝでは云つて居ります。

（杉山甚市君）考へを申します。

私は創作の意味も二樣に取ります。一つは思ひつきのもので他の一つは思考經路を一歩々々近めて指導するものである。小學校では一のものは出來ないが取り扱ひは出來るけれ共間違ふことがあるから教師の態度をよく極めて居らないといけないこれは兒童自身が自分の經驗を創作力によつて延すものであるから小學校では之れに依らねばならぬのである。其れには教材の撰擇が必要である。今までは題目中心の教授細目であるがどうしても材料を中心としたものでなくてはならぬ。

各種の材料を準備して置いて一材料で經驗したら之れを引き延してやることが必要である。授業は模作から始めるもので一模作でも兒童の頭を働かせるものでなくてはならぬ。そして全般が自由製作の狀態でやりたいと思ひます。

（橋本祝二君）手工科に於て創作力の養成は最も大切なことであると思ひます。私は其の必要は省きまして如何にして養成すべきかと云ふ方法に就いて教材の上からと教授方法の上からとの二方面から申上げて見たいと思ひます。

甲　教材の上から

手工科の教材は一般的陶冶的方面と實用的陶冶方面とから教材を撰擇すべきは申すまでもありません。其の何れにしましても次の樣なことを考へることが大切だと思ひます。

1　課題を爲すには成るべく工夫を練るに適するものを撰ぶことです。勿論一定の形のものを一定の方法により正確に作らせることも必要でありますが其れのみではいけないと思ひます。例へば本立と云ふ題で作らせるとしても形や構造などは色々工夫せしめるがよいと思ひます又時々は題目を自由に撰ばしめることがよいと思ひます。

2　物理學上の知識を應用したる作品を多くすることです玩具日用品機械雛形等何でもよろしい其のためにはあまりに技巧的美術的發表は重視しない方がよいと思ひます。

3　材料を考案發表に適せしめることが大切だと思ひます。工夫を十分發表するには材料が適して居ることが大切です。又單一の材料のみを用ひずして種々の材料を併せて用ひしめるがよいと思ふ。即ち竹細工であるからとて紙や針金やゴムなども併せ使ふ樣にするがよいと思ひます。

元來私は手工の教材は技巧的基本的美術的の方面と一方に思想發表創作的の兩方面からとらなければならぬと思ひます。前者によつて軌範的基礎的の陶冶をし後者により創作的陶冶をなす樣にせなければならぬと思ひます。

今回の展覽會の出品には比較的創作的色彩を帶んでゐる教材を多く排べた積りでありますから、どうか御覽下さい。

乙　教授方法上から

1　從來の教授は稍模作法に偏して居りましたが之れではいけないと思ひます。模作により一定の工具材料等基本的の練習が出來たなら成るべく創作法によつて工夫せしめる樣にしたいと思ひます。

2　模作は創作に導く手段と考へてよいと思ひます。又模作法によりましても或程度までは創作的取

り扱ひが出來ると思ひます。かつて私はボール紙で繪葉書入を作らせた事があります。模倣製作の積りでありますが成るべく考へさせる樣にと思ひまして實物を示し大體の構造形を知らさせて子供にどれ丈のボール紙を買つて來たらよいかと尋ねましたところ子供は困りました、色々考へました末ハガキの寸法から割出して其の大きさ高さを定めて其の展開圖を作り其の入用な材料の大きさを考へだしました。これで私は立派な創作的取り扱ひだと思ひます模作だからとて一から十まで唯機械的に模倣したとて何の基礎にならないと思ひます。

何故に之れ丈けの大きさにせなければならぬか何故にこの組合せはかくせねばならぬかと色々の事を理解した上に模作せしめねばならぬと思ひます理解的模倣こそ眞の模倣だと思ひます。

3　次に課外に於ける自由製作を重んずることであります。私の學校では毎週月水金の三日間は手工日と唱へまして放課後約二時間手工室で自由に手工をすることを許してゐます。子供は各自隨意な材料を持つて來て各自好むものを作つています。勿論教師も代る〳〵其處に居つて色々の質問に應じたり批評をしたりしてゐます。之れは子供が力相當に考へてやりますから創作力を養ふに最もよいと思つてゐます。

4　成績の處理が其の當を得ることが大切です唯單に美しく出來た技巧が立派だと云ふ方面のみを見て成績の良否を批評するでなく創作力の働ける分量の多少を見、苦心の跡を見て批評してやりたいと思ひます。

5　次は鑑賞的取り扱ひであります。創作だからとて今迄かつて見たこともないものを俄に發明する樣なことは頗る少いのであつて大ていは今まであつたものに多少の改良を加へ一部分の改正をしてゐるのが多いのです。又其れで私はよいと思ひます。故に創作教授であるからとて何の參考品や參考圖も見せずに子供に創作を强いて唯教師は教室を徘徊する位では何の創作にもならないと思ひます。故に出來る丈け多くの實物を鑑賞させて置くことは將來創作に入るの準備だと思ひます。其の爲めに私は時々本校の手工室へもつれて行つて見せてゐます。

6　次には趣味あるものは何度でも作らせて見るがよいと思ひます。子供の中には電車を作ることのすきな子もあれば飛行器を作ることのすきな子供もあります。各自の好むものを何度でも作らせることは天才を誘導啓發する方法であると思ひます。展覽會場の西南のすみに立派な飛行機がありますがあれは飛行機に大へん趣味を持つてゐる子供でありまして飛行機の本を何冊も集めてゐます。又今までも何回も作つてゐます今度展覽會があるのであの大作をしたのでございます。

7　次の文明の工具はなるべくこれを設備し又設備しなくとも見せるだけでもしたいと思ひます「バンドリーイングマシン」「グライシングマシン」「ハツクリー」旋盤等は出來るなら設備したいと思ひます。

8　工業要目に就いて大體の工業の常識を與へ時々工業等を參觀させることも必要だと思ひます。其他色々ありませうが大要以上の事が大切であらうと思ひます。

(加賀虎馬三君)　私は唯一つ申し上げたいのは成績物を直ぐ戻してやることであります。子供は其の成績物をいろいろにして使ひ心地や機能を實際にあたつて見て缺點を見出し其れに創作が產れます。

(栁原憲一)　私は創作力は自分で考へ自分で作ることだと思ひます。この力を子供に與へるのが創作力の助長だと思ひます。其れで第一に喜んで作ると云ふことが必要であります。子供は自由に作ると喜ぶものであります。一つの製作物をなす場合にどの點まで創作するかを區分することが大切であります。かうして創作を重んじますと子供の成績はよくないけれ共成績が惡いからとて云つて創作力がないとは限りません要するに兒童の喜んで作る所に創作的價値があるのであります。

(議長)　まだ御意見もある樣ですがこゝで打ち切りまして本校の兩鈴木先生の御意見を承ることにいたします。

(鈴木(孝)先生)　いろいろ御意見を承りましたが農村に於ける手工は下學年では一般的のもので高學年で

は農村に適するものがよい樣でありましたが、私も大體其れがよいと思ひます併し全部を之れにすることは考へものでありまして其れよりもゝつと價値の多い木工等の教材を課したらよからうと思ひます。

高等科第二學年（男）手工教授案

十月二十一日　土曜日　第一時

教授者　橋本　祝　二君

題目　板金穿孔彫刻

時間配當　八時間　第七時

教材　製品の研磨及着色

目的　各自の作りたる穿孔彫刻製品の研磨及着色法を授けこれを實習せしむ

準備　兒童＝穿孔用具　着色用具

教師＝兒童の未成品及製圖、研磨材料着色材料着色用具、穿孔用具　標本、金鎚、銅板

方法

一、前時迄の成績品に就て批評をなす

二、目的を指示す

三、研磨法を説明す

四、標本及着色材料を示しつゝ着色法を説明す

五、實習せしむ

机間巡視をなしつゝ批正す

結果

授業の經過

（教）此頃中から穿孔細工をやつてゐますが、今日もその續きをやります。前時間の成績を見たが中にはなか〳〵よく出來たのがあります。同じ打ち方でも色々變化して打つと隨分面白いものが出來る。三宅さんの門札は只打ち方だけの變化ですが面白いと思ひます。之は岩田さんのですが、若し着色をするのならば少し穴を大きく力を入れた方がよいと思ふ。尚鷲見さんの門札も字が少し太すぎるから少し細くする樣にした方がよろしい。

今日は出來上らないものは其の續きをやり出來上つたものは着色をやります。

先づ皆此所へ集りなさい。

（兒）着色臺の周圍に集合す。

（教）元來銅でも眞鍮でもそれ自身に美しい光澤をもつて居りますからこのまゝでも立派であると思ひます。然し尚これを研いたり着色したりすると更に雅味が出來てよいものです。そこで着色しやうと思ふと先づ製品を研かねばなりませんから、研くことからお話し致します。先づ最初は極こまかい磨研紙が朴炭で研きこれを洗つて次は砥の粉でみがくのです。一寸とやつて見るとこうです。（示範）

そこでこれを着色するのですが着色の方法は色々ありますが今日は其うちの四色程お話します。製品の種類により又各自の好みによつてどれをやつてもよろしい。

第一はこの標本です、青くさびてゐて雅味があります。どうしたらこんな風になると思ひます。

（兒）鹽氣のものをつけるのだと思ひます。

（教）一錢や二錢の銅貨が青くさびてゐたのを見たことがあるでせう。あれは汗がついたり鹽氣のものがついた爲です。この標本もやはりそうするのです。これは炭酸アムモニウムと鹽酸アムモニウムとの合液を塗つて一晝夜程置いたのです。炭酸アムモニウムも鹽酸アムモニウムも一種のアムモニウム鹽でありまして一種の鹽氣と見て差支へないと思ひます。故にこの液をよく研いた製品の上にぬつて一晝夜位置くと青くなつて來ます。一面にぬらないで文字や模樣の所につかない樣にして穿孔したところだけぬつた方がよいと思ひます。

第二は色チョークの着色です。これは私の發明でありますがなか〳〵よいと思ひます。色チョークを乳鉢ですつて粉末となし水と膠か若くは生麩糊を入れて泥狀になし製品にぬり半乾きの所でタオルを濕してこれを拭ふのです。すると穴の中には色が殘つてこの標本の樣になります。膠や糊がはいつてゐますから決して色はとれて來ません。

第三はエナメルの着色です。エナメルを皿に入れテレピン油かアンペラ油で溶いてこれを研いた製品の

上にぬります。少し乾いた所で綿にテレビン油を含ませてその塗つた上を拭ふのです。すると前と同じ樣に穴の中だけにチナオルが殘つて着色が出來るのです。

第四は酸で製品を拭ふのです。梅酢でもよろしい。

この標本は硫酸を極くうすく溶いてよく研いた製品の上へ塗つて一晝夜位置きましたのです。この樣に稍紫がゝつた澁い色になりました。ずいぶん雅味のあるものだと思ひます。

大體以上の樣でありますこのうち色チョークとチナメルを塗るのはあまりみがかなくともよいけれども硫酸や鹽類を塗るものは手の油氣などついてゐると色がよく出ないから砥の粉でよくみがくことが大切だと思ひます。

尙作品をよく見て打ち足らぬところはないかしらべて見てよかつたら研磨や着色にかゝつてもらひませう。

仕事に取りかゝつてもよろしい。

銅板の屑の殘つて居るものはメタルを作つてもよろしい。

仕事のない者は鉋を砥ぎなさい。

着色するものは前へ出て來てやりなさい。

着色の藥品は着色臺の上にあります。

（兒）作業に取りかゝる。

（敎）机間巡視及個人批正

渡瀨の綸葉書差の指導 模樣は製圖から半紙に寫し取つて銅板に貼り付け動かない樣にしてから書きなさい。

仕上げた成績品の磨き方の指導二三の兒童に齒磨粉にて磨き方を授く。

矢野の綸葉書差の磨き方の指導

渡瀨、三宅の着色指導

止め 成績品を持つて皆此所（敎卓）へ集りなさい。此の時間はこれで終りますから今話したやうにやりかけのもお出しなさい、出來なかつたものは次の時間に着色することにします。

（議長）これより批評會を開きます。最初に敎授者の說明を願ひます。

（橋本祝二君）甚だ下手な授業を致しました。まだ不充分な點の多いことは敎授者自身に承知してゐるところです。穿孔彫刻は初めてやつたのでございます。第一時には主として製圖でありまして打出すべき圖案を描かせました。それから六時迄は夫々仕事をやらせたのです。兒童には大へん早くやつてゐる子供も又大へんおくれてゐる者もありますが、あれは前敎材の都合です。前には自由製作をやらせたものですから大作をする者は自然多くの時間を要しまして今回の穿孔彫刻にもおそくかゝつたのです。それで私はかゝる不同な場合には前敎材がすんでゐないものがあつても次の敎材の說明をして次へかゝらせて行きます。隨つて成績品は一時に出さなくとも出來た者から出させてゐます。どうか敎授の方法なり工作の方法なり其他につきまして十分御批評をお願ひ申します。

（議長）質問や批評をお願ひします。

（加賀虎馬三君）全部で八時間の豫定の樣ですが模倣製作が主ですか工夫製作が主でありますか。

（橋本祝二君）私は主として模倣製作のつもりです。

（加賀虎馬三君）一番最初の時間の取扱に就ては如何なることをなさいましたか。

（橋本祝二君）銅板のはり方や穿孔の仕方について敎授しました。

（加賀虎馬三君）敎授者がお話しせられたのですか或は又兒童に發見させられたのですか。

（橋本祝二君）一概にどうとも申し兼ねますけれ共主として敎授者が說明しました。

（加賀虎馬三君）模倣の價値についてはどんなに御考へですか。

（橋本祝二君）手工科等に於ては餘程までに創作と云ふことを重んぜなければなりません。けれ共創作と云ふことも天來のものばかりではなくて模倣を出發點とし模倣を基礎として進まねばならぬものが多いと思ひます。殊に小學校の敎育では天來を待つてゐるわけにはいかないから模倣からはいつて創作に進まねばならぬと思ひます。それ故に私は新しいものを始めてやる時には模倣を出發點としなければならぬと思つてゐます。

（松倉照道君）模倣製作だと云ふお話でしたが何れの點が模倣ですか。

（橋本祝二君）一寸と區別がつきかねますから私もお

答へするに困ります。元來模倣は模倣其のものが意識的模倣でさへあれば創作があるものだと思ひます。けれども強いてあの敎材での模倣の點を申しますれば穿孔の際の方法等は模倣かと思ひます。

（松倉照道君）創作的に敎授すと云ふ時には如何になさいますか。

（橋本祝二君）先程申しました樣に模倣にも或程度の創作が加はりますししたがつて創作にも亦幾分の模倣が加はつても敢て差支がない樣に思ひます。創作だといつて參考品一つ示さず何の注意も與へずして創作を強ふるのは眞の創作的取扱ひでありません。故に本敎材を創作的に取扱ふとしましても本時の模倣的にやりましたのとあまり大した差はない樣に思ひます。幾分作品の自由を與へ圖案などを工夫せしめることを多くする位のことだと思ひます。

（松倉照道君）穴をあけることは模倣であるがどちらかと云へば說明の方へはいることで創作ではないでありませう。

（加賀虎馬三君）標本に就ては必要な點實用的方面美的方面に就て兩方面を話したと云ふことですが如何程お話しなさいましたか。

（橋本祝二君）標本によりボール紙細工や、木材を用ひて作つたものとの相異、仕事が簡單でしかも隨分立派なものが出來ること。比較的安價に出來ること等について話しました。

（河野大助君）製作する時の兒童の態度や境遇は如何なる時が最も適してゐますか。

（橋本祝二君）これは兒童が其の製作に趣味を持つと云ふことがよほど關係するとは思つてゐますけれ共別に考へてゐません。

（河野大助君）敎授者に對しては絕大な權威を持たせて戴きたい。敎室へ子供がはいつてあれだけの仕事をするに對して參觀人が子供の前へみんなはいつて製作するところを見てゐるのを止めて少し外で見ていただきたい。子供も先生も授業をするのに具合がわるいと思ひます。だから敎師に權威を持たせていたゞきたい。

（加賀虎馬三君）模倣製作の御考へだそうです模倣と工夫はあまりにはなれてゐないとの御考へは尤もである。敎授者の態度は模倣製作であつたが研究の爲の模倣としたい。模倣の價値はそこにある如何なる美が如何に實用かと云ふことを見出させる爲に參考品を見せるにも敎師より說明せず兒童に發見せしめる樣にしたい。次は實用的方面に就て材料の適合性を充分知らせたい、之を行つて模倣の價値がある。一例を擧げるとメタルを作つてゐる。これは實用ではない、つまり材料の適合性と云ふことをやつてゐないと思ふ。目的觀價値觀より見れば今少し厚い銅版を持つて來たらばどゝかと思ふ。私も以前にウチワを作らした事がある。其の時ウチワに繪をかいたのを見た、コンロに用ふるに繪は不用であるこれは實用ではない、もう一つ材料として二年の程度としてはおもしろいと思ふ。敎材の種類はあまりおもしろくないと思ふ。

（議長）このへんで批評を打切りたいと思ひます、御異議はありませんか。

（會員）異議なし　異議なし

（議長）それではこれで批評を打切ります。

發表題　兒童中心の手工科………（尋常科）

岐阜市　松倉照道君

一、手工と圖畫

1、兩科の本質上關係

イ、工夫創作の修練

ロ、審美心の作練

ハ、意志習慣の養成

ニ、身體の練磨

2、兩科の目的上關係

イ、簡易なる物品を製作するの能力養成

ロ、通常の形體を看取し正しく畫く能力養成

3、立體的藝術と平面的藝術

イ、工作圖

ロ、圖案

ハ、配　色

二、手工科の不振

1、敎　師　手工科の本質に不用意
2、家　庭　藝術的趣味の缺乏

三、誤れる手工科

1、理想主義
イ、劃一的……權威を以てせず愛せよ
ロ、實利的……實利實用とは何か
ハ、職業的……餘りに地方化に走るな
2、自然主義
イ、放　任……兒童の無秩序な自由
ロ、無主義……敎師の無秩序な自由

四、眞の手工科

創　造
イ、自由創作……個性表現
ロ、生活の趣味化

五、創作を主體としたる手工科の種類一般案

1、手工科の種類の大別
イ、個性表現の眞價値のあるもの
a、粘土細工附石膏細工
b、切貫細工
c、厚紙細工
ロ、準個性表現のもの
a、豆細工
b、刺繡
ハ、實利的のもの
a、智的訓練　色板排べ
b、意志訓練　折　紙
c、日常生活　紙撚、編物、竹工、木工、金工、組紐、臨圖製作、麥稈經木藁等の細工嚢物、押繪、摘み細工（竹木金工、嚢物、押繪、摘み細工等個性表現に眞價値のものあれ共尋常科としては程度高きため創造の境に至らざるよりこの部類に入る）
2、敎材案
イ、粘土細工、長所、原料柔軟にして工作自在なるため工夫創作に便なり。
短所、未製品の保存に困難
敎材

a、説明　粘土の性質、練り方、接合法　篦の使用法
b、指導、球、角　卵型の基本形態
葉、花瓣等の薄き柔き感の表し方
動物の羽毛、毛の暖き柔き感の表し方
c　創作　記憶製作　モデル製作　圖案製作
兒童の喜べるもの
a、粘土着色　顏料を膠にて溶きて着色
b、地圖模型　地圖を見て粘土にて地圖模型を作り着色す
c、圖案製作　圖畫にて考案せるもの
d、人物動物のモデル製作
剝製、陶器、石膏細工をモデルとす。
石膏細工
兒童の最も喜べるものにして各自の優良なる製品を粘土型にて製作せしむ。
ロ、切貫細工（貼附細工）
長所　型に於て意匠考案を練り
配色によりて調和を知り
臺紙貼附に依りて適合を知らしむ。
短所　發見せず
敎　材
a、説明器具の使用法（鋏、小刀、定規）
糊の使用法
b、指導
形　正方形、菱形、正三角形等角形
釘貫 ◘
赤十字、梅花の切方
c、創　作
色、調和と適合（圖畫科と聯絡）
考案製作（繪畫模樣を考案して製作）
繪畫製作（繪畫を見て製作するもの）
d、臨圖製作
兒童の喜べるもの
a　各家の紋を製作
b　箱の表面　雜記帳の表紙に考案
c、店頭裝飾の考案
材料挾
敎師より與へられたる材料の殘品紙片を常に保存するものにて必要に應じて使用せしむ。

ハ、厚紙細工

長　所

1、目的に適する形の考案意匠を練るによろし

2、結果の考慮は必然的に來る

3、上貼によりて藝術的修練をなす

短所　見出されず

教　材

a、説明、糊の使用法

b、指　導

1、折曲ること

2、目張り

c、創作、考案製作

d　臨圖製作

兒童の喜べるもの

a、顏料にて着色しワニスを塗り簡易なる竹木金工を加味したる船、家屋、自動車

b、商品入箱の考案

c、活動人形

材料挾

同前の性質のもの、上貼、緣貼、自由になす

ニ、豆細工

長所　各自の觀念を容易に形として表はし得て下學年の創作に適す。

短所　發見されず

教　材

a、説明　豆に挿す時の注意

b、創作、彌治郎兵衛

c、創作

1、思想製作

2、繪畫製作

3、モデル製作（實物を見て製作）

兒童の喜べるもの

a、火見梯子

b、團扇　ブランコ

c、犬、人形

d、塵拂、車、ミコシ

ホ、刺　繡（縫取）

長　所

1、女子らしき審美心の養成

2、色の調和、形の便化適合を知る

短所　模作の稍々多き事

教　材

a、説明、縫ひ方、結瘤の作り方、緣の作り方

b、創作、表裏同一の模樣（雜布の如きもの）

c、創作　1、雜布、紹繡、其他の刺繡

（圖畫科と聯絡を要す）

兒童の喜べるもの

a、紹刺

b、繪はがきブックの表紙

ヘ、色板排べ

長所　普通の色　簡單なる形の一般的觀念を與ふ

短　所

1、形が抽象的にして創作を試るに困難

2、從つて模作を主とす

教　材

a、模作　主體

b、創作　困難

ト、折　紙

長所　視覺觸覺の練磨

短所　色板排べと同樣

教　材

a、模作　主體

b、創作　花紋に於て行はる

チ、紙撚、編物、組紐細工

長所　實生活に必要なる材料

短所　考案點少し

教　材

a、模作　主體

b、創作　少し

リ、竹木金工

長所　實生活に必要なる技術及工具の使用に馴れしむる

短所　發見されず

教　材

a、説明　工具の使用法、材料の性質

b、指導　切り方、削り方、曲げ方

c、創作　考案製作

d、臨圖製作

兒童の喜べるもの

竹工　鳴る物、笛、活動性、鐵砲、飛行器

着色加工に依りて一層藝術的趣味を養ふ
木工 燒繪、活動人形、自動車等の玩具
着色加工に依りて一層藝術的趣味を加ふ
尋常科としては木工は甚しく簡單にして單獨の木工に非ず。
金工 額緣、門札（石目打ちにて）
易熔金屬を使用しての鑄物
鑄型は粗粘板岩にて製作し自宅に於て鑄造せしむ。

ヌ、臨圖製作
實生活に必要なる智識技術なれば切貫、厚紙、竹木金工等に於て課す。

ル、其他の種類

麦稈、經木、蔓等の細工の職業的種類、嚢物、押繪、摘み細工、造花の女子的手工等あれども地方的専門的のもの又は余の試みたる事なきものとて自信なければ略す。

六、結　論

1、工夫創作力の養成
兒童を自由の沃野に放ち權威以て範を垂れず愛を以て導き創作力を啓發す。

2、藝術的鑑賞力の素地の養成
自他の製品に對して藝術的鑑賞をなし日常生活を趣味の溢れたるものとなす。

3、創造……煩悶……發見……努力……自覺……徹底……感激

發表題　手工教授の系統

岐阜縣師範學校附屬小學校　橋本祝二君

私は手工教授の系統に就きまして少しく述べて見たいと思ひます。凡そ如何なる教科に於きましても、系統的でなければならぬことは申すまでもありません。殊に本科の如き唱歌科の如き圖畫科の如き一定の教科書のない學科に於きましては殊更に其の必要があると思ひます。元來手工科が不振であると叫ばれつゝある其の原因は色々ありませうが一般社會の人々が、本科の價値を理解してゐないことも其の一因であらうと思ひます。然らば何故父兄や一般社會の人が理解してゐないか。私は其の責任は我々教師に在ると思ひます。卽ち本科に對する一定の主義方針なく、唯思ひつきの教材を思ひつきの學年に何の系統もなく教授して、甚しきに至つては、準備後片付の面倒を思つて實際効果ある厚紙細工や竹細工、木金工等を課さずして、簡單な色板排べや折紙ばかりやつてゐるやうであります。斯くては一般父兄が本科の價値を疑ふのも蓋し當然のことでなからうかと思ひます。こゝに於てか我々は手工科に如何なる目的を有し如何なる任務を有すべきか、而して之が貫徹には如何なる教材を如何なる排列により如何にして授くべきかを系統的に研究しなければならぬと思ひます。

然らば手工科の目的はどうであるか。教則には一、物品製作の能を得しむること。二、工業の趣味を長ずること。三、勤勞の習慣を養ふこと。の三點がかゝげられてあります。而して物品製作の能を得しむることは本科の大眼目であらうと思ひます。之により工業の趣味も勤勞の習慣も養ひ得ることゝ思ひます。物品製作の能の中には一般的陶冶と實用的陶冶の兩方面が含まれてゐるのであります。之等兩方面については何れを主とし何れを副とすべきかは、土地の情況、學年の高下により一定し難いと思ひますが、當校としては低學年は一般的陶冶を主とし高學年は實用的陶冶を主と致して居ります。尙詳細については時間の關係上申し上げられませんから、お手許に配布しました印刷物に就きまして御覽下さいまして疑問の點はどしどしお尋ね下さい喜んでお答へします。

手工科教授細目

編纂の趣意

一、本細目は小學校單式學級の教授に充てんが爲に編纂したものである。

一、本細目は教授週數を各學年とも三十八週とし第一

第二學期には各十四週第三學期に十週を充て毎週敎授時數を第三學年以下は一時間第四學年以上第六學年迄及高等科女子に在りては二時間高等科男子に在りては四時間として敎材を配當した。

一、本細目は敎授の方法を模作法、臨圖工作法、創作法の三種に分ち（尙所々に共同製作を加へた）模作法に於ては基礎的模式的敎材を排列して基礎的工作法を授け其他に於ては練習應用敎材を按排し殊に自由選題の課を多く設け自動的創作的能力を養ひ意匠考案を練り各兒童をして其能力に應じ十分活動を爲さしむるに努めた。

一、敎材の選擇上種目の範圍を減縮し練習的多作主義により充分熟練を得しめ活動を盛ならしむる樣に努めた。

一、高等科男兒には特に製圖の時間を設け讀圖力、製圖力の養成に努めた尋五六及高等科女子に於ても成るべく工作に附帶して製圖を行はしめる樣にも努めてある。

一、主要工具を各學年に排列して其使用法、手入法、保存法を授くる意を用ひた。

一、低學年に於ては一般的陶冶を主とし高學年に進むに從ひ實用的陶冶をなすに適する敎材を排列した。」

一、圓周的排列と階段的排列とを折衷し低學年は圓周的排列を主とし高學年に進むに從ひ漸次階段的排を用ひた。

一、材料は紙、粘土、竹、木、金、糸布を主要材料とし薄きより厚きに軟質より硬質に及ぶ樣排當した。

學年	尋一　尋二　尋三　尋四　尋五	尋六　高一　高二　高三
陶冶方面	一般的陶冶	實用的陶冶
敎材の選擇方面	發表的趣味的敎材	技巧的努力的敎材
工作法の方面	模作的分量	創作的分量
敎材の排列方面	圓周的排列	階段的排列
材料方面	軟質材料	硬質材料
製圖方面	自在畫製圖	用器畫製圖

學科	學年	學期	紙細工 折紙	紙細工 切抜	紙細工 厚洋紙	紙細工 板紙	紙細工 製本	豆細工	粘土細工	糸布細工 縫取	糸布細工 編物	糸布細工 布	製圖	竹細工	木工	金工	計	模作法	臨圖法	創作法	共作法	製圖 設計	製圖 實測	製圖 臨寫	教材數計
尋常科	尋一	1	二					五	七								一四	一一		三					一四
		2		九					五								一四	五		七	一				一三
		3		一〇													一〇	三		二	三				八
	尋二	1		七				七									一四	四	一	八					一三
		2		九					五								一四	九		三					一二
		3		一〇													一〇	一		五					六
	尋三	1		一一					三								一四	六		三	一				一〇
		2		四	三				七								一四	一		四	二				七
		3		九	一												一〇	三		三	一				七
	尋四	1				一四			一四								二八	四	一	五	一				一〇
		2				二八											二八	四		一					五
		3				二〇											二〇	一	一	一					三
	尋五	1							二八								二八	一	一	二					四
		2				二〇								八			二八	五		一					六
		3												二〇			二〇	二		二					四
	尋六男	1												一四	一四		二八	四		二					六
		2													二八		二八	二		三					五
		3													二〇		二〇			一					一
	尋六女	1	二	四			六			一〇		六					二八	九	一	一					一一
		2									二二	六					二八	三		三					六
		3									六	一四					二〇	一		三					四
高等科	高一男	1											一四		四二		五六	三		三		三	一	一	一一
		2											一六		三八		五四	一		二		二	一	一	七
		3											四		三六		四〇	一		一		一			三
	高二男	1											一二		四四		五六	二		一		一		二	六
		2											一二		四四		五六	一		二		二	一		六
		3											八		三二		四〇			二		二			四
	高三男	1											一二		四四		五六			二		二			四
		2														五六	五六	三		二					五
		3											二			三八	四〇	二		一		二			五
	高女一	1								二二		六					二八	二		三					五
		2										二八					二八	三		一					四
		3										二〇					二〇	二		一					三
	高女二	1												二二	六		二八	四		一					五
		2													二八		二八	二		二					四
		3													二〇		二〇	二		一					三
計			四	七三	四	八二	六	一二	六九	三二	二八	八〇	七八	六四	三九九	九四	一〇二四	一〇七	五	八八	九	一五	三	四	二三二

手工科教材配當表

（模ハ模作法　創ハ創作法　臨ハ臨圖　工作法ノ略
注意事項ハ必要ナルモノノミ書）

尋常科第一學年

第一學期

週	種類	題目、教授事項、時數	作法	材料	工具	教辨物	教授上の注意
一	折紙	紙鐵砲 紙の折方 (1)	模	半紙		表裏明なる大形の示範物 留鋲	教師折方を示範し後反覆して折らしめる
二	同	飛行機 (1)	同	美濃紙の半切		大形標本示範用 紙留鋲	折り方の一種を授けた後は他の方法をも考へさせよ、又宙返りをなす様に考へさせよ

三	豆細工	籤及豆の扱方 籤の切り方 豆の刺し方 (1)	模	豆、籤		示範用の大形標本	籤の切り方、豆の刺し方を授けた後適宜種々の形のものを作らしめよ
四	同	梯子 (1)	模	同前		同前	立つ樣に工夫せしめよ 籤の長さは適宜指等によりて定めしめよ
五	同	ヤジロベイ 籤の曲方 (1)	模	同前		同前	腕と臂との長さ及角度により安定不安定の異ることを示せ
六	同	國旗 糊の使用法 (1)	模	同前及半紙八つ切、糊	色鉛筆	同前	日の丸の畫き方は中心からシエルエツト畫法により畫かしめよ
七	同	自由選題 (1)	創	豆及籤		鳥居、犬、魚、團扇等の參考品	前形式を應用して任意のものを作らしめる
八	粘土細工	串團子 1 粘土のねり方及性質 2 球の作り方 3 濕布の用法 (1)	模	粘土 竹串	粘土板 濕布	示範物	與へたる粘土を等分して後球を作らしめ稍硬化してから串にさゝせよ寫生せしめてもよい
九	同	供餅 粘土接合法 (1)	模	粘土	同前	同前	トロの作り方を示せ球を壓して側縁に裂け目が出來たら指頭を濕して摩擦せしめよ
一〇	同	蕪 (1)	模	同前	同前	實物標本	各自に實物を與へ同大同形に作らしめよ
一一	同	卵 (1)	模	同前	同前	同前	同前
一二	同	瓢簞 (1)	創	同前	同前	瓢の實物又は繪畫	形狀は種々考案させるがよい
一三	同	蠟燭 圓柱形の作り方 (1)	模	同前 稍硬きもの	同前	實物	實物と比較して作らしめよ 最初手により大體の形を作後粘土板の上をころがして作らしめよ
一四	同	自由選題 (1)	創	粘土	同前	參考製品又は實物ゴムマリ、環鈴、提灯	前形式を應用して主として球形に關するものを作らしめる
		第二學期					
一	粘土細工	双六の犀 立方體の作り方 (1)	模	同前	同前	立方體大形標本 説明用二具材料	成るべく手先にて九分通り施作し最後に板上にて修正せしめる

二	粘土細工	墨 (1)	模	粘土	粘土板濕布	墨の實物	同前
三	同	橋 (1)	創	同前	同前	參考標本	最物直線に作り後曲げしめよ、餘力あるものには人、舟等に附加せしめるがよい
四五	同	自由選題 半製品の保存法 (2)	創	同前	同前	インクツボ、角砂糖水入等の參考品	前諸課の形式を應用して主として立方形に關するものを作らしめる
六	切拔細工	紙 1 帶鋏の使用法 2 直線の切り方 (1)	模	色紙赤及綠各五寸平方稍厚きもの	鋏	大形唐鋏美濃紙入の色紙	大形唐鋏により使用法を示す與へたる紙を折つて後其折目を切らしめよ鋏は刃先の開閉を大きくする樣にせよ
七	同	紙鏈 (1)	模共	同前糊、糊下紙	同前	紙鏈の大形標本	本課も鋏の使用練習である長い鏈は敎室の裝飾とせよ
八	同	カード拔け (1)	模	稍厚き色紙	同前	大形標本	切り方の模範を示せ鋏の使用練習が目的
九	同	梯子貼付法	模	靑模造紙貼付用臺紙糊、糊下紙	同前	同前	前諸課の如く紙帶を作らしめるこれを細分して梯子を作らしめる糊着法を授けよ
一〇	同	門 (1)	創	色紙臺紙糊、糊下紙	同前	同前	作法は前課と凡ど同じ形を考案せしめよ
一一	同	自由選題 (1)	創	同前	同前	電柱、机腰掛、トンボ建札、手水鉢の參考品	前課の如くして任意の形のものを貼付せしめる
一二	同	四角排べ (1)	創	調和よき二種の色紙、糊、臺紙、糊下紙	同前	參考標本	正しき方形を與へこれを正しく等分せしめ統一ある樣臺紙上に紋形的に貼らしめる、大小あるも可
一三	同	三角排べ (1)	創	同前	同前	同前	正しき方形を與へ對角線に折つて三角形を作りこれを紋形に貼らしめる
一四	同	四角三角を組合せた紋形 (1)	創	同前	同前	同前	前二課を組合せて行ふ
		第三學期					
二一	同	お雛樣曲線の切り方 (2)	模共	古き幼年雜誌をくづしたもの	同前	標本大形唐鋏	人形を自由に切らしめこれを集めて雛段を作らしめる

三	切拔細工	旗飾り (1)	共模	赤色紙半紙四つ切 糊、糊下紙	同前 鉛筆	國旗の實物 細き麻糸 大形唐鋏	曲線の切り方を更に範を示せ、分廻を用ひず裏面に圖を畫き切らしめ出來たる旗は麻糸につけ教室の装飾とする
四	同	提灯飾り (1)	共模	赤、黒の色紙、白、麻糸、糊、糊下紙	同前	大形唐鋏 提汀の實物	赤色紙を半切して圓形を切らしめ中央に白圓を貼らしむ上下に黒き輪をつけ中へ糸を入れて貼付けしめる
五	同	三角、四角、丸を組合せた紋形 (1)	創	調和よき三種の色紙、臺紙、糊、糊下紙	同前	參考製品	與へたる色紙にて丸三角四角等を切り臺紙上に紋形狀に貼らしめる
六	同	風船球 色の名稱 (1)	模	赤、黄、青緑、紫、橙各種の色紙、臺紙、糊、糊下紙	同前	上記色紙標本	色の名稱を授けよ各色にて風船球を切り拔き臺紙上に貼らしめる
七	同	橙と葉 (1)	模	橙緑の色紙臺紙、糊、糊下紙	同前	橙の實物 大形標本	糸は鉛筆にて書かしむ鉛筆にて裏面に形を畫かしめこれを切拔かしむ
八	同	瓢簞	模	黄緑の色紙糊下紙、糊、臺紙	同前	瓢の實物 大形標本	曲線の切り方練習が主である
九一〇	同	自由選題 (2)	創	諸種の色紙臺紙、糊、糊下紙	同前	簡單な動植物を切り拔いた標本	前課の如く主として曲線に屬するものを切り拔かしめる

尋常科第二學年

第一學期

一	豆細工	風車 (1)	模	豆、籤、赤緑黄の色紙 鋏、錐 鉛筆	標本	切拔と豆細工は併せたるものである
二	同	干物 (1)	模	同前及糊、糊下紙 鋏 鉛筆	同前	物干を作つた後適宜着物帶を貼らしめる
三	同	腰掛け (1)	創	豆 籤	參考製品	腰掛の實物各自考案により種々の形の腰掛を作らしめる
四	同	門 (1)	同	同前	參考製品	各自の考案により種々の門を作らしめる
五	同	家 (1)	臨	同前	家を畫きたるもの	圖により作らしめる製品を示さぬがよい
六	同	體操器械 (1)	創	同前	參考製品	各自に一を選んで作らしめよ

七	同	自由選題 (1)	創	同前		參考製品	机、本箱、舟、車、橋、飛行機、自動車等一を考案して作らしむ、又紙を併せ用しめてもよい
八	切拔細工	尺度使用法 尺度の讀み方、計り方 長さの觀念養成 (1)	模	半紙半切	一尺竹尺	一尺竹尺	尺度の讀方、計り方直線の畫き方授けよ本、机等を實測せしめ又半紙に直線を畫かしめよ
九	同	正方 正方正の作り方（一切斷法）	模	半紙四半切	鋏、尺度 鉛筆	大形鋏 色紙	紙をわざと歪めて與へ對角線に四折し中心より等距離に量り切らしめよ
一〇	同	四つ目排べ (1)	創	調和よき二種の色紙、臺紙、糊、糊下紙	鋏 尺度 鉛筆	二三の參考製品	前課を應用して四つ目を切らしめ種々に貼りて紋形を創作せしめよ
一一	同	紋形の創作 (1)	創	同前	同前	同前	正方形の應用として入千桝、重四つ目石疊等を創作せしむ
一二	同	旗 (1)	創	色紙數種、半紙、糊、糊下紙、麻糸	同前	旗の掛圖	形狀、工作法と兒童に任意に作らしむ
一三 一四	同	草木の葉 (2)	創	綠色紙 糊、糊下紙	同前	葉數種	各自に作らんとする葉を採集し置きこれを切り拔かしめる

第二學期

一	粘土細工	林檎球形果物の作り方 篦の使用法 粘土臺の作り方 (1)	模	粘土	篦、濕布、粘土板搔取、厚さ定規	實物標本	果物を縦斷橫斷して其形狀を明にせよ臺をつくりどろにて取りつけさせよ
二	同	栗 (1)	模	同前	同前	同前	視覺と觸さにより表面の粗密を十分觀察せしめよ
三	同	自由選題 果物類の創作 粘土着色法 (1)	創	同前 着色材料	同前	種類多數	前二課の形式にならい各自に果物を作らしむ史に着色せしめよ
四	同	葉形揚子皿 (1)	模	同前	同前	木葉一枚宛	1、櫻、うつぎ、ぶどう、蔦の如き脈の明らかなるものを上にのせ上を壓し緣を切りて作らしめよ
五	同	皿 手捻法による器物の作り方 (1)	模	同前	同前	形の異つた皿數種 參考製品	手捻法は模式的に授け形狀は各自の意匠による
六	切拔細工	菊 (1)	模	色紙、臺紙、糊、糊下紙	鋏、鉛筆、色鉛筆	菊の實物 參考標本	菊、花や、葉の特徴をとつてせよ莖は色鉛筆で書いてもよい

七	同	二方連續模樣 1、同一形を多く作る方法 2、二方連續の意義 (1)	創	同前	同前	參考製品	械、舟、鳥、猫等或一の形を定め同一の物を數個作らしめ帶模樣的に貼らしめる（圖案の基礎）
八 九	つまみ細工	自由選題 つまみ細工の方法 (2)	創	同前	鉛筆	參考品 門、あーち 花束等	色紙を手指にて破りて種々の形態を作らしめ貼付せしめる
一〇	切拔細工	長方形 1 長方形の切り方 2 長方形の性質 (1)	模	美濃紙四つ切大わざと歪めて與ふ、糊、糊下紙	鋏 尺度	示範用の紙と鋏 大形標本	尺度及鋏の使用を注意し丁寧に方法を授け實習せしめよ
一一	同	正方形 正方形の切方 正方形の性質 (1)	模	同前	同前	同前	第一學期九週に授けた方法と比較し本課の勝れることを明にせよ寸法を定めて行はせよ
一二	同	色紙、袋 袋の作り方 (1)	模	薄手畫用紙四つ切大、糊、糊下紙	鋏 鉛筆 尺度	標本 工作圖	前課長方形の應用として作らしむ表面には切拔圖案を施さしめよ
一三 一四	同	交叉せる國旗 (2)	模	色紙	鋏、尺度 鉛筆	大形標本	各部の割合に注　せよ一々寸法切方を教へず兒童の工夫にまかせよ

第三學期

一 二	同	お正月 (2)	創	色紙臺紙 糊 糊下紙	鋏 尺度 鉛筆	參考品 鏡餅、羽子板、門松	お正月に因めるものを隨意に作らしむ
三 四	同	雪達磨 (2)	創	同前	同前	參考品及雪景色の掛圖	色羅紗紙に雪だるまをきらしめて貼るか又は白の臺紙に雪だるまを殘して他を貼らしめるがよい形は各自に考案せしめよ
五	同	花瓶 相對的切方 (1)	創	同前	同前	形の異りたる花瓶二三標本	形は各自に考案せしめよ半折して畫く時は扁平になり易いから注意せよ
六 七	同	自由選題 (2)	創	同前	同前	參考製品 とんぼ、蝶、人、木、瓢、電氣蝶	前形式により各自に相對的のものを切りぬかしむ
八	同	群兒舞踏 (1)	模	同前	同前	標本	相對形の切方應用として同一物を多く作るときはこれを屏風折さして切拔くことを敎へよ
九 一〇	同	模樣 (2)	創	同前	同前	參考品	前形式により各自任意のものを切り拔かしむ二方連續、團模樣、四方連續、四方連續何れとなすも可

尋常科第三學年

第一學期

一二	切抜細工	小刀の用法と紙の裁ち方 1、小刀の構造用法 2、紙の裁ち方 (2)	模	洋紙反古	小刀、尺度、鉛筆、裁板、裁定規	小刀の大形の模型 裁板、用紙、裁定規	大形模形にて構造を知らしめよ 切り方、裁ち方は丁寧に示範せよ
三四	同	小刀の研磨及塵拂 小刀の研磨法 砥石のこと (2)	模共	和紙の反古 柄竹、麻糸	同前 砥石	同前	砥石は青砥を主として適宜、大村砥、合せ砥を併用せしめる 小刀は尖は少しされ
五六	同	色の配合標本 配色法 (2)	模	赤、緑、黄、紫、青、橙、等の色紙、臺紙、糊、糊下紙	同前	前 配色標本色の示教圖	1、赤と緑、黄と紫、青と橙 2、赤と橙、青と紫、黄と緑 右1と2とを比較せしめよ 帶形に切りてはらしめよ
七	同	正三角形 正三角形の作り方と性質 (1)	模	美濃紙八切大二枚、糊、糊下紙	同前	前 裁板、裁定規、小刀、色紙	六十度と三十度との角の觀念を明瞭にせよ 切り抜たるもの三邊三角を重ね合せて其性質知らせよ
八	同	正三角の紋形 (1)	創	調和よき二種の色紙、臺紙、糊、糊下紙	同前	標本	適宜、方形、圓を併用せしめてもよい。一の三角形より類似の多數三角形を作り得ることを知らせよ
九	同	菱形 菱形の作り方と其性質三角形との關係 (1)	模	色紙、糊、糊下紙	同前	前 色紙 大形菱形	七週の注意事項參照
一〇一一	同	菱形の紋形 三角定規の性質と共用法 (2)	創	同上	同前 三角定規	前 大形三角定規、參考品	三角形と菱形、三角定規との關係及角度に就いて授けよ 種々紋形を工夫させよ
一二	粘土細工	胡瓜 (1)	模	粘土	粘土板、篦、濕布、搔取	胡瓜の實物標本	成るべく手指にて作らしめ篦は最後にせよ
一三	同	茄子 (1)	模	同前	同前	同前	同前
一四	同	自由選題 (1)	創	同前	同前	前二三の實物標本	前形式により各自に題を選びて作らしめる 適宜着色せしめるがよい

第二學期

一	同	湯呑 圓筒器物の作り方	(1)	模	同前	同前	實物二三種	側上部を薄くしつゝ口徑を増し全體の形を整へしめよ
二	同	茶碗	(1)	模	同前	同前	實物の二三種	球の一部を平にし右手拇指を突入して概略を得しめよ厚さを一樣に平にする樣努めよ
三	同	自由選題（食器類）	(1)	創	同前	同前	參考品及實物	前形式により各自に考案せしめる
四五	同	籠	(2)	創	同前	同前	參考標本	參考標本掛圖等により形狀種類、構造、用途を知らしめる各家庭のを觀察し來らしめよ
六七	同	煉瓦及煉瓦積	(2)	創共	同前	同前	煉瓦の標本煉瓦積の模型	長方體と立方體との比較各自の煉瓦を集めて家を共作せしめよ
八	切拔細工	木（立つ）	(1)	模	羅紗紙、糊・糊下紙	小刀、裁板 尺度	標本	二枚重に切り上方を貼りて立たしめる小刀で切り拔せしめよ
九一〇	同	動物園	(2)	創共	同前	同前	標本	象、馬、豚、犬、らくだ、きりん、きつね等の動物を作らしめ各自のものを集めて動物園を作らしむ

一一一二	同	景色（野原）	(2)	創	色紙、臺紙、糊、糊下紙	同前	二三の參考品	下繪を作らしめ後切り拔かしめよ
一三一四	同	海に舟	(2)	創	同前	同前	同前	同前

第三學期

一	同	舞蛇 圓規使用法	(1)	模	畫紙 糸	分廻し、尺度、小刀・裁板 裁定規	標本、大形圓規 火鉢	圓規の構造、用法を授けよ
二	同	丸に二つ引の紋又はくつわの紋 紋形切拔法	(1)	模	正方形の色紙 臺紙、糊、糊下紙	圓規、小刀、尺度、裁板 裁定規	示範用標本	全形を示し如何に折り又如何に切るべきかを示せ 最も精密を要す
三	同	丸に三角又は三角に丸の紋	(1)	模	同前	同前	同前	同前
四五	同	紋形の創作	(2)	創	同前	同前	多くを切拔たる參考品	前形式により種々の紋形を創作せしむ
六	同	圓形、方形三角形を組合せたる紋形	(1)	創	同前	同前	參考標本	尋一第三學期の五週より更に復雜にする單に圓も圓に止めず色々に工夫せしめよ又他形も併せ用ふるも可

七八	同	花 (2)	創	諸種の色紙、糊、糊下紙、臺紙	同前	同前	各自好める花を切り拔しむ各花の特徵を捉へしめよ、
九一〇	同	萬國旗 (2)	共創	薄畫紙、各種の色紙、麻糸、糊、糊下紙	同前	萬國旗を畫きたる掛圖	掛圖により各自好める旗をはりつけしむ共同製作となすも可

尋常科第四學年

第一學期

一	厚紙細工	厚紙の切り方練習 厚紙の切り方 (2)	模	反物包の廢物	裁板、裁定規、小刀、尺度	示範用工具、材料	兒童の小刀を檢せよ 定規をけずらない樣にせよ 三分巾のものを多く作らしめそれにて梯子、椅子、垣根等を作らしめよ 小刀持方、姿勢注意
二	同	三角箱 正作圖の畫き方 厚紙の半切り法 (2)	模	反物包 細き撚糸 色紙、糊、糊下紙	鉛筆、裁板、裁定規、尺度、小刀、鋏	標本 工作圖を畫きたるもの	大形標本により其構造を知らしめ後工作圖を畫かしめる後これを切り適宜の圖案を施さしめよ
三四	同	手提箱 1 工作圖の讀方畫き方 2 箱類の作り方 (3)	模	茶又は白ボール、色紙、糊、糊下紙	同前	同前	同前 糊は稍こきをよしとする便宜押車煙草盆等工夫により變化させてもよい

四五	同	家 (3)	臨	同前	同前	同前	各自の作つたものを集めて學校或は町村の模型を作らしめるがよい
六七	同	自由選題（主として構成的のもの）(4)	創	同前 反物包、古箱	同前	參考品	最初展開圖を畫かしめて後作らしめよ 寸法及角度に注意 適宜裝飾を施させよ
八	粘土細工	小楊子立 (2)	創	粘土	臺板、篦、濕布、搔取	參考標本	成るべく各自に形狀を工夫せしめるがよい
九	同	石燈籠 (2)	創	同前	同前	同前	同前
一〇一一	同	箱庭 (4)		同前及針金、鐵箱、木、人、橋、升等	同前	參考標本	二三人宛共同して箱庭を作らしむ 豫め課題し置きて考案せしめ置を要す
一二	同	貝殼寫生 (2)	模	粘土	同前	各種貝殼の實物 蛤、あさり、かき、子實等	各自に貝の一を選びこれを寫生彫刻せしむ臺をつくり泥にてつけて出さしむる
一三	同	葉の寫生 凸上彫刻 (2)	模	粘土	同前	木葉の實物	臺板上に粘土を盛り其れを彫刻せしむ